

令和 2 年度

授 業 概 要



四国医療専門学校
鍼灸マッサージ学科
鍼灸学科 1 部・2 部

目 次

1 はじめに	1
2 教育方針・3つのポリシー	2
3 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科 カリキュラムマップ	4
4 鍼灸マッサージ学科 カリキュラム	5
5 鍼灸学科 カリキュラム	6
6 履修規程	7
7 令和2年度 学事暦（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科1部）	16
8 令和2年度 学事暦（鍼灸学科2部）	17
9 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会会則	18
10 令和2年度 シラバス	20
健康科学Ⅰ	21
健康科学Ⅱ	22
健康科学Ⅲ	23
健康科学Ⅳ（社会医学と統計）	24
健康科学Ⅴ（生活習慣と健康）	25
健康科学Ⅵ（心身一如の科学）	26
人文科学Ⅰ（古典に親しむ）	27
人文科学Ⅱ（スポーツ社会学）	28
人文科学Ⅲ（気分と感情の文化）	29
人文科学Ⅳ（色彩と人間）	30
コミュニケーション論（コミュニケーション入門）	31
人体の構造と機能Ⅰ（解剖学Ⅰ）	32
人体の構造と機能Ⅱ（解剖学Ⅱ）	33
人体の構造と機能Ⅲ（解剖学Ⅲ）	34
人体の構造と機能Ⅳ（解剖学Ⅳ）	35
人体の構造と機能Ⅴ（解剖学Ⅴ）	36
人体の構造と機能Ⅵ（解剖学Ⅵ）	37
人体の構造と機能Ⅶ（解剖学Ⅶ）	38
人体の構造と機能Ⅷ（生理学Ⅰ）	39
人体の構造と機能Ⅸ（生理学Ⅱ）	40
人体の構造と機能Ⅹ（生理学Ⅲ）	41
人体の構造と機能Ⅺ（生理学Ⅳ）	42
人体の構造と機能Ⅻ（生理学Ⅴ）	43
人体の構造と機能Ⅼ（局所解剖学）	44
運動学	45
病理学概論Ⅰ	46
病理学概論Ⅱ	47
臨床医学総論Ⅰ	48
臨床医学総論Ⅱ	49
臨床医学各論Ⅰ	50
臨床医学各論Ⅱ	51
臨床医学各論Ⅲ	52
臨床医学各論Ⅳ	53
リハビリテーション医学Ⅰ	54
リハビリテーション医学Ⅱ	55
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	56
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	57

関係法規	58
医療概論	59
職業倫理	60
経絡経穴概論Ⅰ	61
経絡経穴概論Ⅱ	62
経絡経穴概論Ⅲ	63
東洋医学概論Ⅰ	64
東洋医学概論Ⅱ	65
東洋医学概論Ⅲ	66
東洋医学概論Ⅳ	67
はりきゅう理論Ⅰ	68
はりきゅう理論Ⅱ	69
東洋医学臨床論Ⅰ	70
東洋医学臨床論Ⅱ	71
東洋医学臨床論Ⅲ	72
東洋医学臨床論Ⅳ	73
はりきゅうの適応Ⅰ	74
はりきゅうの適応Ⅱ	75
病態生理学Ⅰ	76
病態生理学Ⅱ	77
病態生理学Ⅲ	78
病態生理学Ⅳ	79
生体観察	80
基礎はり実技Ⅰ	81
基礎はり実技Ⅱ	82
基礎きゅう実技Ⅰ	83
基礎きゅう実技Ⅱ	84
基礎はりきゅう学演習	85
応用はりきゅう実技Ⅰ（身体観察実技）	86
応用はりきゅう実技Ⅱ（弁証配穴刺鍼）	87
応用はりきゅう実技Ⅲ（伝統鍼灸実技）	88
応用はりきゅう実技Ⅳ（症候別鍼灸実技）	89
応用はりきゅう実技Ⅴ（現代鍼灸実技）	90
実践はりきゅう実技Ⅰ（美容鍼灸実技）	91
実践はりきゅう実技Ⅱ（在宅鍼灸実技）	92
実践はりきゅう実技Ⅲ（実践鍼灸実技Ⅰ）	93
実践はりきゅう実技Ⅳ（レディース鍼灸実技）	94
実践はりきゅう実技Ⅴ（特殊鍼灸実技）	95
実践はりきゅう実技Ⅵ（古典鍼灸実技）	96
徒手療法Ⅰ	97
徒手療法Ⅱ	98
はりきゅう基礎研究	99
経絡経穴概論Ⅳ（四診法）	100
スポーツ医学・コンディショニング	101
実践鍼灸実技Ⅱ	102
スポーツ鍼灸実技	103
東洋医療総合演習Ⅰ	104
東洋医療総合演習Ⅱ	105
東洋医療総合演習Ⅲ（国家試験対策）	106
東洋医療総合演習Ⅳ（国家試験対策）	107
東洋医療総合演習Ⅴ（総合学力審査）	108

中医薬膳	109
あん摩マッサージ指圧理論	110
東洋医学臨床論Ⅴ	111
基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	112
基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	113
あん摩マッサージ指圧ゼミ	114
あん摩マッサージ指圧の適応（指圧実技とその適応）	115
応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	116
応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	117
実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ（実践オイルマッサージ）	118
実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	119
臨床手技	120
客観的臨床能力評価	121
臨床実習Ⅰ	122
臨床実習Ⅱ	123
臨床実習Ⅲ	124
臨床実習Ⅳ	125
運動療法	126
社会あはき学Ⅰ・社会はき学Ⅰ	127
社会あはき学Ⅱ・社会はき学Ⅱ	128

1 はじめに

この授業概要は、鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科３年課程の教科・科目を始めとする様々な教育活動に関する約束や計画に関するお知らせです。

履修に関する規程、スケジュール、授業の概要（シラバス）などを示しておりますので、３年間の学習におけるナビゲーターとして活用ください。

皆さんが充実した学校生活を送られ、本学科の教育目標を達成できますよう、私共教職員も全力でサポートいたします。皆さんも３年間を有意義に、将来の夢、目標を忘れることなくお過ごしくださいますようお願いいたします。

建学の精神である 『健康のありがたさを知り手をもって、伝え広める』 ことのできる医療人となってくださることを心より願い期待しております。

2 教育方針・3つのポリシー

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科の教育方針

医療の原点は「手当て」とあるといわれています。本学科は、1956年の開校以来続く「人との触れあいの中で生まれる心からの治療を実現できる医療人を養成する」という理想のもと「基礎に重点をおいた教育」を実践し、医療を通じて社会の役に立ちたいとの志を持つ多様な人材を育成します。

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科の3つのポリシー

I アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、専門士授与方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

本校が求める人材像（学校共通の方針）

- 1 医療専門職としての夢を持ち、前向きに努力する人
- 2 愛情を持って人に接し、協調性のある人
- 3 人の役に立ちたいとの思いを実現する志のある人

学科の求める人材像

医療を通じて社会の役に立ちたいと考える人、様々な分野に関心を持ち、教養・基礎力・実践力・応用力をバランスよく学べる感性豊かな人。

II ディプロマ・ポリシー（専門士授与方針）

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に対して専門士の学位を授与する。

- 1 将来、医療施設、施術所等において臨床にあたる上で必要な、現代医学及び東洋医学の基礎的知識と基本的技能を修得している。
- 2 医療人として必要な基本的態度・習慣を身につけている。
- 3 医学的問題を正しく捉え、自然科学のみならず、社会的、心理的、倫理的方法を統合して解決する為の能力を身につけている。
- 4 生涯にわたり自主的に課題に取り組み、問題点を把握しつつ追求し、解決できる能力及び自己学習する態度・習慣を身につけている。

Ⅲ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科では、専門士授与方針を実現するため、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の3つの科目群に分け、段階的、系統的に教育できるように各科目を配置している。学修の成果は、学修期間内に修得すべき知識や技術、態度・習慣を明示し、到達目標に向けた努力とその成果について客観的な評価を行う。

1 基礎科目

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以下あはき師）に必要な教養科目として、健康科学、人文科学、およびコミュニケーション能力を身につけるための科目を配置する。

2 専門基礎科目

あはき師に必要な基礎医学知識を習得するため、1年次に人体の構造と機能を中心に学び、2年次、3年次に疾病の成り立ち、予防及び回復の促進、保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧はりきゅう（以下あはき）の理念を修得するための科目を配置する。

3 専門科目

あはき師に必要な基礎医学知識を習得するため、1年次には施術の安全性に関する知識と技術、東洋医学の基本的な生理観・病理観、経穴に関する科目を配置する。2年次、3年次には、あはきの治効理論、治療技術やその評価法、および適応範囲に関する知識に加え、医学史、社会保険医療制度、関連法規、医療倫理などを習得するための科目を配置する。

あはき師の育成にあたり、実技授業、臨床実習を職業教育の根幹とし、以下の教育課程を配置する。

（1）実技授業

1年次：安全な施術能力の獲得を目指す基礎あはき実技

2年次：臨床実習前教育を意識した、高度な能力の獲得を目指す応用あはき実技

3年次：開業あはき師を中心に構成された指導者による、実践的かつ卓越した技能の修得を目指す実践あはき実技

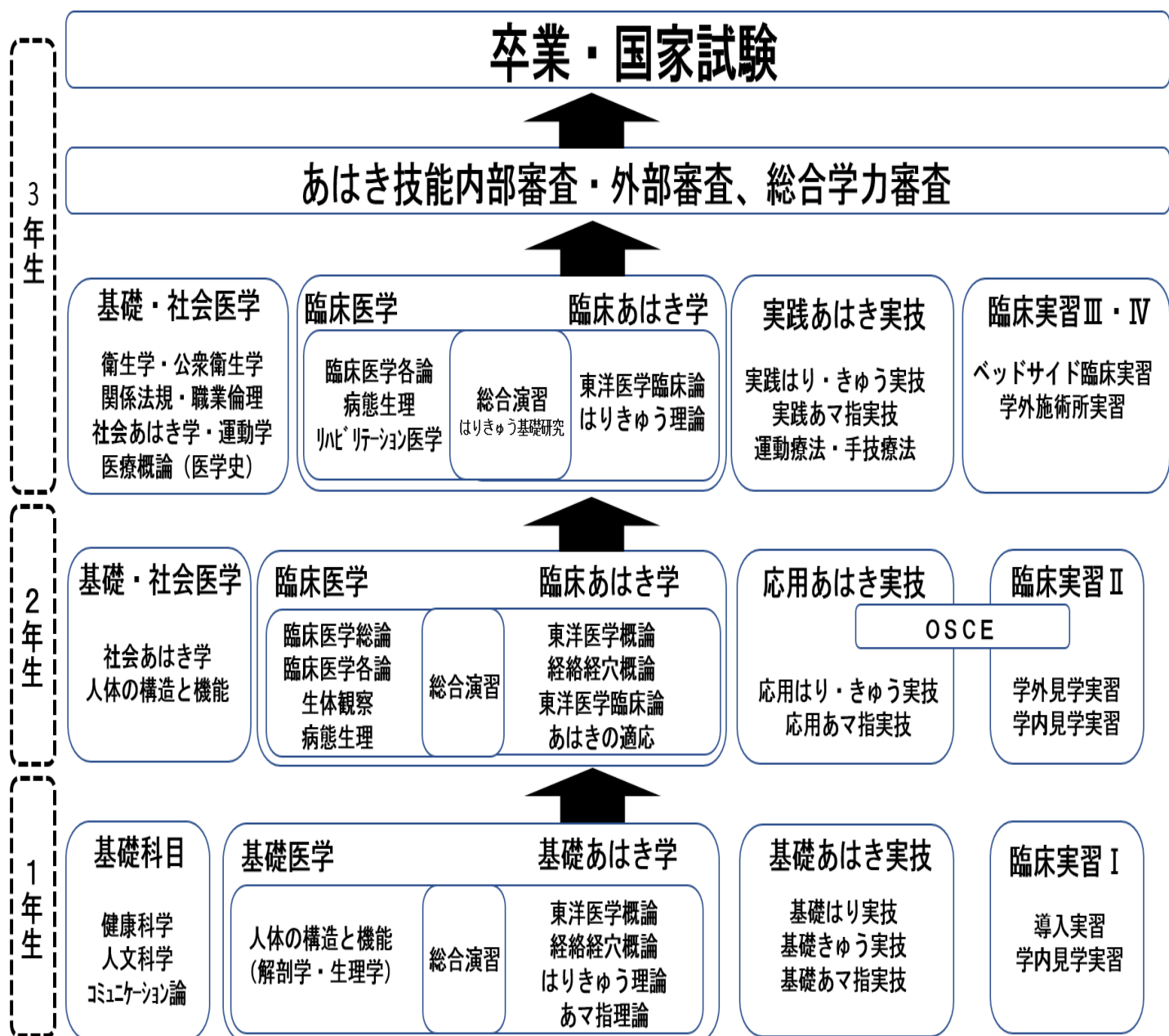
（2）臨床実習

①あはき師の職域拡大、施術者にふさわしい知識と教養を身に付けることを目的とした医療機関（医療機関・介護施設・スポーツ分野等）見学実習

②一般患者に対する施術の機会を目的とした、附属鍼灸治療院における臨床実習

③開業あはき師の指導による施術所臨床実習

3 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科 カリキュラムマップ



鍼灸マッサージ学科と鍼灸学科で開講科目の名称が異なることがあります。

4 鍼灸マッサージ学科 カリキュラム

鍼灸マッサージ学科 教育課程・単位数												
区分		認定規則 単位数	授業科目	単位数	項目別 合計単位数	時間数	授業単位数					
							第1学年	第2学年	第3学年			
基礎分野	科学的 思考の 基礎	14	健康科学Ⅰ	2	14	30	2					
			健康科学Ⅱ	2		30	2					
	健康科学Ⅲ		2	30		2						
人間と 生活	健康科学Ⅳ		2	30		2						
	人文科学Ⅰ	2	30	2								
			人文科学Ⅱ	2	30	2						
			コミュニケーション論	2	30	2						
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	12	人体の構造と機能Ⅰ	1	12	30	1					
			人体の構造と機能Ⅱ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅲ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅳ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅴ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅵ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅶ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅸ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅹ	1		30	1					
			人体の構造と機能Ⅺ	1		30		1				
	疾病の 成り立ち、 回復の 促進 予防	12	運動学	1	12	30			1			
			病理学概論Ⅰ	1		30		1				
			病理学概論Ⅱ	1		30		1				
			臨床医学総論Ⅰ	1		30		1				
			臨床医学総論Ⅱ	1		30		1				
			臨床医学各論Ⅰ	1		30		1				
			臨床医学各論Ⅱ	1		30		1				
			臨床医学各論Ⅲ	1		30			1			
			臨床医学各論Ⅳ	1		30			1			
			リハビリテーション医学Ⅰ	1		30			1			
			リハビリテーション医学Ⅱ	1		30			1			
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	3	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1	3	30			1			
			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1		30			1			
			関係法規	1		30			1			
			医療概論	1		30			1			
			職業倫理	1		15			1			
	基礎あん摩マッ サージ指圧学 基礎きゅう学	9	経絡経穴概論Ⅰ	1	9	30	1					
			経絡経穴概論Ⅱ	1		30	1					
			経絡経穴概論Ⅲ	1		30		1				
			経絡経穴概論Ⅳ	1		30		1				
			東洋医学概論Ⅰ	1		30	1					
			東洋医学概論Ⅱ	1		30	1					
			あん摩マッサージ指圧理論	1		30	1					
			はりきゅう理論Ⅰ	1		30	1					
			はりきゅう理論Ⅱ	1		30			1			
		臨床あん摩マッ サージ指圧学 臨床きゅう学	15	東洋医学概論Ⅲ	1	15	30		1			
東洋医学概論Ⅳ				1	30			1				
生体観察				1	30			1				
病態生理学Ⅰ				1	30			1				
病態生理学Ⅱ				1	30			1				
病態生理学Ⅲ				1	30				1			
病態生理学Ⅳ				1	30				1			
東洋医学臨床Ⅰ				1	30			1				
東洋医学臨床Ⅱ				1	30			1				
東洋医学臨床Ⅲ				1	30				1			
社会あん摩マッ サージ指圧はり きゅうの適応Ⅰ	2	東洋医学臨床Ⅳ	1	2	30			1				
		東洋医学臨床Ⅴ	1		30			1				
		あん摩マッサージ指圧の適応	1		30		1					
		はりきゅうの適応Ⅰ	1		30		1					
		はりきゅうの適応Ⅱ	1		30		1					
		社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅰ	1		30		1					
		社会あん摩マッサージ指圧はりきゅう学Ⅱ	1		30			1				
		基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30	1						
		基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1		30	1						
		応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30		1					
実習	19	応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1	19	30		1					
		基礎はり実技Ⅰ	1		30	1						
		基礎はり実技Ⅱ	1		30	1						
		基礎きゅう実技Ⅰ	1		30	1						
		基礎きゅう実技Ⅱ	1		30	1						
		応用はりきゅう実技Ⅰ	1		30		1					
		応用はりきゅう実技Ⅱ	1		30		1					
		応用はりきゅう実技Ⅲ	1		30		1					
		応用はりきゅう実技Ⅳ	1		30		1					
		応用はりきゅう実技Ⅴ	1		30		1					
		客観的臨床能力評価	1		30		1					
		実践はりきゅう実技Ⅰ	1		30			1				
		実践はりきゅう実技Ⅱ	1		30			1				
		実践はりきゅう実技Ⅲ	1		30			1				
		実践はりきゅう実技Ⅳ	1		30			1				
		実践はりきゅう実技Ⅴ	1		30			1				
		臨床実習	4		臨床実習Ⅰ	1	4	45	1			
					臨床実習Ⅱ	1		45		1		
					臨床実習Ⅲ	1		45			1	
臨床実習Ⅳ	1			45				1				
総合 領域	10	東洋医療総合演習Ⅰ	1	10	30	1						
		東洋医療総合演習Ⅱ	1		30		1					
		東洋医療総合演習Ⅲ	1		30			1				
		東洋医療総合演習Ⅳ	1		30			1				
		東洋医療総合演習Ⅴ	1		30			1				
		臨床手技	1		30			1				
		実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ	1		30			1				
		実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ	1		30			1				
		実践はりきゅう実技Ⅵ	1		30			1				
		運動療法	1		30			1				
		認定規則科目 合計			100	年次別合計 合計		100	2,835	38	31	31
										38	69	100

5 鍼灸学科 カリキュラム

鍼灸学科 教育課程・単位数										
区分		認定規則 単位数	授業科目	単位数	項目別 合計単位数	時間数	授業単位数			
							第1学年	第2学年	第3学年	
基礎分野	科学的 基礎 人間と 生活	14	健康科学Ⅰ	2	14	30	2			
			健康科学Ⅱ	2		30	2			
			健康科学Ⅲ	2		30	2			
			健康科学Ⅳ	2		30	2			
			人文科学Ⅰ	2		30	2			
			人文科学Ⅱ	2		30	2			
専門基礎分野	人体の 構造と機能	12	コミュニケーション論	2	12	30	2			
			人体の構造と機能Ⅰ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅱ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅲ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅳ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅴ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅵ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅶ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅷ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅸ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅹ	1		30	1			
			人体の構造と機能Ⅺ	1		30		1		
	運動学	1	30			1				
	疾病の 成り立ち、 復の促進 予防及び回	12	病理学概論Ⅰ	1	12	30		1		
			病理学概論Ⅱ	1		30		1		
			臨床医学総論Ⅰ	1		30		1		
			臨床医学総論Ⅱ	1		30		1		
			臨床医学各論Ⅰ	1		30		1		
			臨床医学各論Ⅱ	1		30		1		
			臨床医学各論Ⅲ	1		30			1	
			臨床医学各論Ⅳ	1		30			1	
			リハビリテーション医学Ⅰ	1		30			1	
			リハビリテーション医学Ⅱ	1		30			1	
			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1		30			1	
			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1		30		1		
	その他	3	関係法規	1	3	30			1	
			医療概論	1		30			1	
			職業倫理	1		15			1	
	専門分野	基礎あん摩マッ サージ 指圧学 基礎はり学 基礎きゅう学	9	経絡経穴概論Ⅰ	1	9	30	1		
				経絡経穴概論Ⅱ	1		30	1		
				経絡経穴概論Ⅲ	1		30		1	
				経絡経穴概論Ⅳ	1		30		1	
				東洋医学概論Ⅰ	1		30	1		
				東洋医学概論Ⅱ	1		30	1		
				はりきゅう理論Ⅰ	1		30	1		
				はりきゅう理論Ⅱ	1		30			1
基礎はりきゅう学演習				1	30		1			
東洋医学概論Ⅲ				1	30			1		
臨床あん摩マッ サージ 指圧学 臨床はり学 臨床きゅう学		13	東洋医学概論Ⅳ	1	13	30		1		
			生体観察	1		30		1		
			病態生理学Ⅰ	1		30		1		
			病態生理学Ⅱ	1		30		1		
			病態生理学Ⅲ	1		30			1	
			病態生理学Ⅳ	1		30			1	
			東洋医学臨床論Ⅰ	1		30		1		
			東洋医学臨床論Ⅱ	1		30		1		
			東洋医学臨床論Ⅲ	1		30			1	
			東洋医学臨床論Ⅳ	1		30			1	
はりきゅうの適応Ⅰ		1	30		1					
はりきゅうの適応Ⅱ		1	30		1					
その他		2	社会はりきゅう学Ⅰ	1	2	30		1		
			社会はりきゅう学Ⅱ	1		30			1	
実習		15	基礎はり実技Ⅰ	1	15	30	1			
			基礎はり実技Ⅱ	1		30	1			
			基礎きゅう実技Ⅰ	1		30	1			
			基礎きゅう実技Ⅱ	1		30	1			
			応用はりきゅう実技Ⅰ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅱ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅲ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅳ	1		30		1		
			応用はりきゅう実技Ⅴ	1		30		1		
			客観的臨床能力評価	1		30		1		
			実践はりきゅう実技Ⅰ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅱ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅲ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅳ	1		30			1	
			実践はりきゅう実技Ⅴ	1		30			1	
臨床実習		4	臨床実習Ⅰ	1	4	45	1			
			臨床実習Ⅱ	1		45		1		
			臨床実習Ⅲ	1		45			1	
	臨床実習Ⅳ		1	45				1		
総合 領域	10	東洋医療総合演習Ⅰ	1	10	30	1				
		東洋医療総合演習Ⅱ	1		30		1			
		東洋医療総合演習Ⅲ	1		30			1		
		東洋医療総合演習Ⅳ	1		30			1		
		東洋医療総合演習Ⅴ	1		30			1		
		はりきゅう基礎研究	1		30			1		
		徒手療法Ⅰ	1		30		1			
		徒手療法Ⅱ	1		30		1			
		実践はりきゅう実技Ⅵ	1		30			1		
		運動療法	1		30			1		
認定規則科目 合計		94	年次別合計 合計		94	2,655	36	29	29	
							36	65	94	

6 履修規程

この規程は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の細則を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

I. 学事について

1. 学年

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、4月1日から翌年3月31日までで、これを前期と後期の2期に分ける。

2. 学期

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前期・・・ 4月1日から 9月30日まで。

後期・・・ 10月1日から 翌年 3月31日まで。

3. 休業日

本学科の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定されている日
- (3) 創立記念日（10月25日）
- (4) 夏・冬・春季休業日

① ただし、学校長が必要と認めるときは休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

② 荒天時の対応

鍼灸マ学科、鍼灸学科 1 部 柔道整復学科 1 部 理学療法学科 作業療法学科 看護学科	荒天のため、宇多津町または丸亀市に「特別警報」「暴風警報」が午前7時00分に発令されている場合は通学待機とし、午前10時00分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。午前10時00分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。
鍼灸学科 2 部 柔道整復学科 2 部 スポーツ医療学科	午後3時30分に発令されている場合は通学待機とし、午後4時30分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。

③ 授業中に「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関（JR等）に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。

④ 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その状況により学校長が別途判断することがある。

4. 授業及び時限

- (1) 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。
- (2) 授業は、1時限90分を原則とし、講義は、1時間を45分、臨床実習及び臨地実習は、同

60分とする。

授業時間の区分は、以下のとおりである。

区分	1 部				2 部		
時 限	I	II	III	IV	I	II	III
時 間	9 : 0 0 ↓ 1 0 : 3 0	1 0 : 4 0 ↓ 1 2 : 1 0	1 3 : 0 0 ↓ 1 4 : 3 0	1 4 : 4 0 ↓ 1 6 : 1 0	1 7 : 5 5 ↓ 1 8 : 4 0	1 8 : 5 0 ↓ 2 0 : 2 0	2 0 : 3 0 ↓ 2 2 : 0 0

① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間（1部10:40～16:10 2部17:55～22:00）以外及び休業日に行う。

（3） 休講・補習・特別講義・学校行事

① 休講及び時間割の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。

これについては、掲示板により通知する。

② 補習及び特別講義

授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

③ 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

Ⅱ. 出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

1. 出席すべき日数

学年の学期期間で上記休業日以外は、出席しなければならない。

2. 授業の出席

（1） 講義、演習は、授業時間数の3分の2以上の出席が必要である。

（2） 実技、実習、臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。

① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科の実技、実習、臨床実習、補習授業及び特別授業には、原則として必ず出席しなければならない。止むを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

② 柔道整復学科の実技、実習及び臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

③ 理学療法学科、作業療法学科の臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

④ 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。

＜看護学科の臨地実習の履修について＞

基礎看護学実習Ⅰの単位取得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位取得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位取得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

- ⑤ スポーツ医療学科の実技、学内実習及び学外現場実習において、やむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

3. 授業中の心得

(1) 講義・演習・実技・実習について

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

- ① 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ② 授業中、体調の急変等やむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。
- ③ 授業中の携帯電話・スマートフォン等は、必ず電源を切って鞆等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。
- ④ 授業中に飲食をしないこと（ガムを噛むことを含む）。また、授業中飲食物を机の上や床に置かないこと。
- ⑤ 私語や居眠りをしないこと。
- ⑥ 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装（白衣・ジャージ、学校指定の靴）とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。
- ⑦ 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科は、所定の道具も準備すること
- ⑧ スポーツ医療学科は、学内実習の受講の際は、トレーニングウェア、運動シューズを着用し、学外現場実習時には、学校指定のウェア、ポロシャツ、運動シューズを着用すること。

(2) 臨床実習及び臨地実習について

病院などでの臨床実習及び臨地実習では、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

- ① 病院と取り交わした提携書に従って行動する。
- ② 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- ③ 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。
- ④ 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。
- ⑤ 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。
- ⑥ 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を病院のマニュアルにそって励行する。
- ⑦ 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。
- ⑧ 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

4. 欠席、遅刻、早退及び欠課について

(1) 欠席は、1日の授業を全て休んだ場合をいう。

(2) 遅刻は、授業開始より30分（2部の45分授業については15分）以内に入室した場合を

いう。

- (3) 早退とは、授業時間の60分（2部の45分授業については30分）以上出席し退出した場合をいう。
- (4) 欠課とは、出席時間が60分（2部の45分授業については30分）に満たない場合をいう。
- (5) 遅刻、早退の欠課への換算については、遅刻、早退は欠課0.5回（2部の45分授業における欠課は、欠課0.5回）と換算する。
- (6) 欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

5. 補講について

- (1) 出席時間数がやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。
 - ① 鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
 - ② 鍼灸学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
 - ③ 柔道整復学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
 - ④ 理学療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
 - ⑤ 作業療法学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の4
 - ⑥ 看護学科は、講義、演習、実技、実習、は3分の2、臨床実習は5分の5
 - ⑦ スポーツ医療学科は、講義、演習は3分の2、実技、実習、臨床実習は5分の4
- (2) 補講の受講は、不可抗力によるやむを得ない理由（気象状況等による公共交通機関のダイヤの乱れ、急病、交通事故等）のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を提出し、学校長が認めた場合に限る。
- (3) 補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる（本試験は受験不可）。
- (4) 補講料は、10,000円 / 1時限（90分）とする。ただし、感染症による出席停止や入院など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。

※看護学科の臨床実習の場合

① 再実習

各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。

ただし、再実習料を添えて「再実習願」を提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。

再実習料は、5,000円/日とする。

② 補習実習

実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。

6. 忌引期間

- (1) 忌引・出席停止は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの（医師の診断書等）を必ず提出のこと。
提出がなされない場合は欠課とする。
- (2) 学生の親族の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。

区分	続柄	期間	区分	続柄	期間
血族	配偶者	10日	血族	おじ・おば	1日
	父母	7日		孫・曾祖父母	1日
	子供	7日	姻族	配偶者父母	3日
	祖父母	3日		配偶者祖父母	1日
	兄弟姉妹	3日		配偶者兄弟姉妹	1日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により2日以内の日数を認める場合がある。

7. 感染症による出席停止

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1であるものに限る）
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

＜出席停止期間の基準＞

- （1） 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。
- （2） 第二種の感染症（結核を除く）にかかった者については、次の期間とする。ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
 - ① インフルエンザ及び新型インフルエンザ等： 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
 - ② 百日咳： 特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
 - ③ 麻しん： 解熱した後3日を経過するまで。
 - ④ 流行性耳下腺炎： 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。
 - ⑤ 風しん： 発しんが消失するまで。
 - ⑥ 水痘： すべての発しんが痂皮化するまで。
 - ⑦ 咽頭結膜熱： 主要症状が消退した後2日を経過するまで。
 - ⑧ 髄膜炎菌性髄膜炎： 症状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。
- （3） 結核及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という現象が見られた日の翌日を第1日として算定する。

例えば、「解熱した後2日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱－火曜日（解熱後1日目）－水曜日（解熱後2日目）－この間発熱がない場合－木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

8. 休学

学生の休学については、学則第22条に規定している。

9. 復学

学生の復学については、学則第24条に規定している。

原則、復学の時期は、年度の始めとする。

10. 退学

学生の退学については、学則第25条に規定している。

11. 転部

学生の転部については学則第29条に規定している。

※鍼灸学科と柔道整復学科のみが対象となる。

12. 在籍期間

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学 科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科1部、鍼灸学科2部、 柔道整復学科1部、柔道整復学科2部	6年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	8年
スポーツ医療学科	4年

Ⅲ. 学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

1. 定期試験

学期末の試験を定期試験という。

- (1) 柔道整復学科では、前期及び後期のなかで、到達度確認試験を行うことができる。その評価は、定期試験の評価に加えることができる。
- (2) 看護学科とスポーツ医療学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

2. 受験資格

- (1) 講義、演習の受験資格

授業時間数の3分の2以上出席している者

(2) 実技・実習の受験資格

授業時間数の5分の4以上出席している者

※理学療法学科、作業療法学科及び看護学科では、3分の2以上出席している者

(3) 臨床実習及び臨地実習の成績判定資格

実習時間の5分の4以上の出席している者

※看護については、実習時間を満たす者

3. 追試験

追試験については学則第33条に規定している。

- (1) 感染症等やむを得ない理由により定期試験を欠席した者は、追試験を受けることができる。その場合は80点を上限に採点される。
- (2) 追試験を受ける者は、受験料を添えて「追試験受験願」を期日までに当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。ただし感染症による追試験受験料は発生しない。

4. 再試験

- (1) 定期試験の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は60点を上限に採点される。
- (2) 再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。
- (3) 再試験は、基本的に1回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議の協議により再度試験を行うことがある。
- (4) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。

5. 試験にあたっての注意事項

- (1) 試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は遅延証明の提出を条件に、試験開始後15分までの遅刻を認めることがある。
- (2) 受験に際しては、必ず学生証を携行すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に1回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、当該発行日のみ有効とする。
- (3) 試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は再び入室できない。
- (4) 試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。

6. 単位認定と単位取得

- (1) 講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において、60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位認定」、学生側か

らは、「単位取得」という。

- (2) 講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀………90点以上
優………80点以上90点未満
良………70点以上80点未満
可………60点以上70点未満
不可……60点未満

- (3) 臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記(2)のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

- (4) 学業成績を総合的に評価するための基準

- ① 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA (Grade Point Average) を用いる。
- ② GPA は、学期ごとに算定する。
- ③ GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP (Grade Point) (以下「GP」という。) を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

(履修登録した GPA 対象科目の GP × その科目の単位数) の合計

履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計

- ④ GPA の対象科目は、学則別表(1～7)に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。
- ⑤ GP の割当てについては、学則第32条に定める試験の評価(以下「成績評価」という。)に応じて、次表に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀(90～100点)	4
優(80～89点)	3
良(70～79点)	2
可(60～69点)	1
不可(59点以下)	0

- (5) 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

IV. 進級、卒業の認定について

1. 進級認定

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出

席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

2. 卒業認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

V. 褒賞

学生の褒賞については学則第40条に規定している。

VI. 懲戒

学生の懲戒については学則第41条に規定している。

VII. 除籍

学生の除籍については学則第26条に規定している。

VIII. その他留意事項

1. 休講・授業時間割等の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割を変更する場合がある。これについては掲示板により通知する。

2. 掲示による通知、連絡について

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の2回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は学校側にはないので、特に注意しておくこと。

3. 提出物について

各種申請書、レポート、その他当該学科教務及び学校事務局学務部学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

4. 不明な点は、当該学科教員及び学校事務局学務部学生相談窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

5. 大学併修について

本校では、理学療法学科（任意）、作業療法学科（任意）及び看護学科（必修）を対象に、九州保健福祉大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

6. ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附 則

この履修規程は、学則、その他の細則に基づき、令和2年4月1日から施行する。

施行後の規程は、令和2年4月1日以降の入学生に適用し、令和2年3月31日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

7 令和2年度 学事暦（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科1部）

前期

	月	火	水	木	金	土	日
			1 年始式	2 入学式	3 新入生ガイダンス 2・3年生登校日	4	5
4月	6 ①	7 ①	8 ①	9 ①	10 ①	11	12
	13 ②	14 ②	15 ②	16 ②	17 ②	18	19
	20 ③	21 ③	22 ③	23 ③	24 ③	25	26
	27 ④	28 球技大会	29 昭和の日	30 ④			
5月					1 ④	2	3 憲法記念日
	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7 ⑤	8 ⑤	9	10
	11 ⑤	12 ④	13 ④	14 ⑥	15 ⑥	16	17
	18 ⑥	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑦	22 ⑦	23	24
6月	25 ⑦	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑧	29 ⑧	30	31
	1 ⑧	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑨	5 ⑨	6	7
	8 ⑨	9 ⑧	10 ⑧	11 ⑩	12 ⑩	13 職場説明会	14
	15 ⑩	16 ⑨	17 ⑨	18 ⑪	19 ⑪	20	21
7月	22 ⑪	23 ⑩	24 ⑩	25 ⑫	26 ⑫	27 学園祭	28
	29 ⑫	30 ⑪					
			1 ⑪	2 ⑬	3 ⑬	4 予備日	5
	6 ⑬	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑭	10 ⑭	11 予備日	12
8月	13 ⑭	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑮	17 ⑮	18 予備日	19
	20 ⑮	21 ⑭	22 ⑭	23 海の日	24 スポーツの日	25	26
	27 予備日	28 ⑮	29 ⑮	30 前期試験	31 前期試験		
						1 試験予備日	2 試験予備日
9月	3 前期試験	4 前期試験	5 前期試験	6 集中授業	7 夏季休業開始	8	9 はりきゅうマッサージの日
	10 山の日	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
10月	31						
		1 前期再試験	2 前期再試験	3 前期再試験	4 前期再試験	5 試験予備日	6 試験予備日
	7 前期再試験	8 集中授業	9 集中授業	10 集中授業	11 体育祭 集中授業	12	13
	14 集中授業	15 集中授業	16 集中授業	17 集中授業	18 集中授業	19	20
11月	21 敬老の日	22 秋分の日	23 集中授業	24 はき学外実技審査 集中授業	25 集中授業	26	27 東洋療法推進大会(徳島)
	28 ①東洋療法推進大会(徳島)	29 ①	30 ①				

後期

	月	火	水	木	金	土	日
				1 ①	2 あま指字外審査 集中授業	3	4
10月	5 ②	6 ②	7 ②	8 ②	9 ①	10	11
	12 ③	13 ③	14 ③	15 ③	16 ②	17	18
	19 ④	20 ④	21 ④	22 ④	23 ③	24	25 創立記念日・長生き祭
	26 ⑤	27 ⑤	28 ⑤	29 ⑤	30 ④	31	
11月							1 鍼灸同窓会総会
	2 ⑥	3 文化の日	4 ⑥	5 はき学内実技審査	6 ⑤	7	8
	9 ⑦	10 ⑥	11 ⑦	12 ⑥	13 ⑥	14	15
	16 ⑧	17 ⑦	18 ⑧	19 ⑦	20 あま指字内審査	21	22
12月	23 勤労感謝の日	24 ⑧	25 ⑨	26 ⑧	27 ⑦	28	29
	30 ⑨						
		1 ⑨	2 ⑩	3 ⑨	4 ⑧	5	6
	7 ⑩	8 ⑩	9 ⑪	10 ⑩	11 ⑨	12	13
1月	14 ⑪	15 ⑪	16 ⑫	17 ⑪	18 ⑩	19	20
	21 ⑫	22 ⑫	23 あはき実技再審査	24 ⑫	25 ⑪	26	27
	28 冬季休業開始	29	30	31			
					1 元日	2	3
2月	4	5	6 冬季休業終了	7 ※月曜日⑬	8 ⑫	9 学力総合審査・予備日	10
	11 成人の日	12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑬	16 予備日	17
	18 ⑭	19 ⑭	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑭	23 予備日	24
	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28 ⑮	29 ⑮	30	31
3月	1 後期試験	2 後期試験	3 後期試験	4 後期試験	5 後期試験	6 試験予備日	7
	8 集中授業	9 集中授業	10 集中授業	11 建国記念の日	12 学力総合審査・集中授業	13	14
	15 集中授業	16 集中授業	17 集中授業	18 集中授業	19 後期再試験	20 再試験予備日	21
	22 後期再試験	23 天皇誕生日	24 後期再試験	25 後期再試験	26 後期再試験	27 再試験予備日・お節国試	28 はき師国家試験
4月	1 集中授業	2 集中授業	3 集中授業	4 集中授業	5 集中授業	6	7
	8 集中授業	9 集中授業	10 集中授業	11 集中授業	12 卒業式	13	14
	15 補習	16 補習	17 補習	18 補習	19 補習	20 春分の日	21
	22 補習	23 補習	24 補習	25 補習	26 補習	27	28
5月	29 春季休業開始	30	31				

8 令和2年度 学事暦（鍼灸学科2部）

前期																													
月			火			水			木			金		土		日													
4月						1 年始式			2 入学式			3 新入生ガイダンス 2・3年生登校日		4		5													
	6 ①					7 ①			8 ①			9 ①			10 ①		11		12										
	13 ②					14 ②			15 ②			16 ②			17 ②		18		19										
	20 ③					21 ③			22 ③			23 ③			24 ③		25		26										
	27 ④					28 球技大会			29 昭和の日			30 ④																	
5月												1 ④		2		3 憲法記念日													
	4 みどりの日					5 こどもの日			6 振替休日			7 ⑤			8 ⑤		9		10										
	11 ⑤					12 ④			13 ④			14 ⑥			15 ⑥		16		17										
	18 ⑥					19 ⑤			20 ⑤			21 ⑦			22 ⑦		23		24										
	25 ⑦					26 ⑥			27 ⑥			28 ⑧			29 ⑧		30		31										
6月	1 ⑧					2 ⑦			3 ⑦			4 ⑨			5 ⑨		6		7										
	8 ⑨					9 ⑧			10 ⑧			11 ⑩			12 ⑩		13 職場説明会		14										
	15 ⑩					16 ⑨			17 ⑨			18 ⑪			19 ⑪		20		21										
	22 ⑪					23 ⑩			24 ⑩			25 ⑫			26 ⑫		27 学園祭		28										
	29 ⑫					30 ⑪																							
7月						1 ⑪			2 ⑬			3 ⑬		4 予備日		5													
	6 ⑬					7 ⑫			8 ⑫			9 ⑭			10 ⑭		11 予備日		12										
	13 ⑭					14 ⑬			15 ⑬			16 ⑮			17 ⑮		18 予備日		19										
	20 ⑮					21 ⑭			22 ⑭			23 海の日			24 スポーツの日		25		26										
	27 集中授業					28 ⑮			29 ⑮			30 前期試験			31 前期試験														
8月	3 前期試験			4 前期試験			5 前期試験		集中授業		6 集中授業			7 集中授業			8 試験予備日		2 試験予備日										
	10 山の日					11 集中授業					12 集中授業					13 夏季休業					14 夏季休業					15		16	
	17 集中授業					18 集中授業					19 集中授業					20 集中授業					21 集中授業					22		23	
	24 集中授業					25 集中授業					26 集中授業					27 集中授業					28 集中授業					29		30	
	31 集中授業																												
9月						1 前期再試験			2 前期再試験			3 前期再試験			4 前期再試験			5 試験予備日			6 試験予備日								
	7 前期再試験			集中授業		8 集中授業					9 集中授業					10 集中授業					11 集中授業					12		13	
	14 集中授業					15 集中授業					16 集中授業					17 集中授業					18 集中授業					19		20	
	21 敬老の日					22 秋分の日					23 集中授業					24 はきずり実技審査 集中授業					25 集中授業					26		27 東洋療法推進大会(徳島)	
	28 ①東洋療法推進大会(徳島)					29 ①					30 ①																		
後期																													
月			火			水			木			金		土		日													
10月									1 ①			2 集中授業		3		4													
	5 ②					6 ②			7 ②			8 ②			9 ①		10		11										
	12 ③					13 ③			14 ③			15 ③			16 ②		17		18										
	19 ④					20 ④			21 ④			22 ④			23 ③		24		25 創立記念日・長生き祭										
	26 ⑤					27 ⑤			28 ⑤			29 ⑤			30 ④		31												
11月																1 鍼灸同窓会定期総会													
	2 ⑥					3 文化の日			4 ⑥			5 はきずり実技審査 集中授業		6 ⑤		7		8											
	9 ⑦					10 ⑥			11 ⑦			12 ⑥			13 ⑥		14		15										
	16 ⑧					17 ⑦			18 ⑧			19 ⑦			20 集中授業		21		22										
	23 勤労感謝の日					24 ⑧			25 ⑨			26 ⑧			27 ⑦		28		29										
12月	30 ⑨																												
						1 ⑨			2 ⑩			3 ⑨			4 ⑧		5		6										
	7 ⑩					8 ⑩			9 ⑪			10 ⑩			11 ⑨		12		13										
	14 ⑪					15 ⑪			16 ⑫			17 ⑪			18 ⑩		19		20										
	21 ⑫					22 ⑫			23 あはき実技再審査			24 ⑫			25 ⑪		26		27										
1月	26 冬季休業					29 冬季休業			30 冬季休業			31 冬季休業																	
												1 元日		2		3													
	4 冬季休業					5 集中授業			6 集中授業			7 ※月曜日⑬			8 ⑫		9 学力総合審査・予備日		10										
	11 成人の日					12 ⑬			13 ⑬			14 ⑬			15 ⑬		16 予備日		17										
	18 ⑭					19 ⑭			20 ⑭			21 ⑭			22 ⑭		23 予備日		24										
2月	25 ⑮					26 ⑮			27 ⑮			28 ⑮			29 ⑮		30		31										
	1 後期試験					2 後期試験			3 後期試験			4 後期試験			5 後期試験		集中授業		6 試験予備日		7								
	8 集中授業					9 集中授業			10 集中授業			11 建国記念の日			12 学力総合審査・集中授業		13		14										
	15 集中授業					16 集中授業			17 集中授業			18 集中授業			19 後期再試験		集中授業		20 再試験予備日		21								
	22 後期再試験					集中授業		23 天皇誕生日			24 後期再試験		集中授業		25 後期再試験		集中授業		26 後期再試験		集中授業		27 再試験予備日・お師団試		28 はき師国家試験				
3月	1 集中授業					2 集中授業			3 集中授業			4 集中授業			5 集中授業			6		7									
	8 集中授業					9 集中授業			10 集中授業			11 集中授業			12 卒業式			13		14									
	15 補習		集中授業			16 補習		集中授業			17 補習		集中授業			18 補習		集中授業			19 補習		集中授業			20 春分の日		21	
	22 補習					23 補習			24 補習			25 補習			26 補習		27		28										
	29 春季休業					30 春季休業			31 春季休業																				

9 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会会則

第1章 総則

第1条 本会は四国医療専門学校鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科自治会と称す。(以下本会と称する。)

第2章 機関

第2条 本会に次の機関を置く。

1. 自治議会

(役員は任意に選出された自治会員ならびに各H・Rの級長・副級長で構成される。)

自治議会に以下の役職・委員会を設置する。

自治会長

自治副会長

会計

会計監査

学祭委員会

体育祭委員会(球技大会を含む)

アルバム委員会

書記

第3条 自治会員は鍼灸マッサージ学科2名、鍼灸学科1部4名を第1、2学年のH・Rより選出する。

第4条 本会は、鍼灸学科2部へ自治会議の内容を伝達する義務を有する。

1. H・R学生会

2. 部活動・同好会活動

3. 会計監査

第1節 自治総会

第5条 原則、開会しない。自治総会は学校長の承認を必要とし、本会の最高決議機関とする。必要に応じて、授業時間以外に開会する。通常の決議は本会でおこなわれる。

第2節 自治議会

第6条 本会は次のことを行う。

1. 会則の決定及び変更

2. 予算及び決算

3. 学生会の議決事項の承認

4. その他

第7条 自治会員の任期は4月1日より3月31日までの1年とする。再任を妨げないが、各学科において、最終学年時に在籍する学生は着任できない。

第3節 委員会

第8条 本会は、本会が新たな委員会が必要と判断した場合、その都度新たな委員会を設置できる。その委員会は自治会員によって運営される。

第4節 H・R

第9条 本会活動の基礎としてH・R学生会を置く。

第10条 H・Rに級長、副級長を置き、自治議会に参加する。

第5節 部活動・同好会活動

第11条 部活動は個人の能力の増進、趣味、個性の伸長を図ることを目的として集まった会員によってクラブを組織し、顧問教師の指導のもとに随時活動の場を持つ。

第 12 条 部活動は、運営が適切におこなわれていると学校長が認めたときにその設置を認め、顧問の職員を置くことができ、活動内容に応じた予算を受けることができる。

第 13 条 部活動は原則として 10 名以上の在籍者がいなければ結成することができない。

第 14 条 部活動には正、副部長を置き、正、副部長は自治議会の要求があれば議会に出席し、質問に答えなければならない。

第 15 条 部活動に準ずる組織として同好会があり、一定期間の活動の後、学校長がその運営が健全なものと判断したものに限り、部活動に昇格することができる。

第 3 章 会費

第 16 条 本会の会費は自治会費、また学校長が必要と判断した予算、その他によってこれを充てる。

第 17 条 本会の会費は、本会の活動目的を達成するため次の区分により学生会費を学年のはじめに授業料と併せて納入しなければならない。

第 18 条 本会の予算割り当ては、毎年 2 月に自治議会を開会しこれを決定する。ただし、予算決定後、前年度の決算をできない活動についてはこの限りではない。

第 4 章 帳簿

第 19 条 本会に次の帳簿を置く。

1. 自治会則
2. 各役員名簿
3. 議事録
4. 会計簿
5. 備品台帳
6. その他

第 5 章 修正及び改正

第 20 条 本会則の修正及び改正の動議は自治会員の 3 分の 1 以上の要求がある場合認められる。

第 21 条 本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、議会員の 3 分の 2 以上の議決のある場合可決される。

第 6 章 会員の権利及び義務

第 22 条 自治総会及び自治議会において決議されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

第 7 章 附則

第 23 条 本会則は平成 18 年 4 月 1 日よりこれを施行する。

10 令和2年度 シラバス

【シラバスの内容について】

1. 科目区分はその授業がどの科目に属しているかを示します。基礎・専門基礎・専門の3つに区分されます。
2. 履修学年はその授業を履修する学年を表します。
3. 履修時期はその授業をいつ履修するかを示しており、前期・後期・前期集中・後期集中、通年の5つに分類されています。前期集中授業は8月～9月、後期集中授業は2月～3月を予定しています。集中授業は短期間で実施されるので、数日の欠席にもかかわらず規定の出席率を下回る場合もありますので、欠席・遅刻等には十分に注意してください。
4. 単位はその授業を履修すると得られる単位数を示します。単位数の前に※印があるものは通年、あるいは複数の授業を受講して単位認定される授業です。全ての授業を履修して初めて単位が認められます。
5. 講義及び演習については15から30単位時間、実験、実習及び実技については30から45単位時間、臨床実習については45単位時間をもって1単位とします。単位時間とは、講義及び演習、実験、実習及び実技については45分とし、臨床実習については、1単位時間を60分として運用します。
6. 授業概要は、授業の目的、存在意義を示しています。
7. 到達目標とは、履修を通じて修得を目指す「知識」「技能」「態度・習慣」を示しています。
8. 授業計画では1回の授業で学習する内容を示しています。授業は通常半期15回です。
9. 学習方法ではその授業が講義・実技・ロールプレイングなどどのような形態で授業が進むかを示しています。
10. 評価方法は「知識」「技能」「態度・習慣」の3項目をどのように評価するかについて示しています。筆記試験、提出物、授業の取り組み具合、出席状況などから総合的に評価を行います。担当教員により評価方法が異なりますので予め確認しておきましょう。
11. 基礎科目の一部は、通信制大学を利用したテキスト履修があります。履修にあたっては課題の提出があります。期日を守って計画的に学んでください。
12. 授業ではシラバスで指示された教科書を持参してください。(学年の初めに配布します。)
13. 参考書は必ず購入しなければならないものではありません。授業を行なう上で担当教員が参考とする書籍などを記載しています。
14. 学生への要望には担当教員から学生へのメッセージが書かれています。その授業を履修する上での心構えや、持ち物、身だしなみ、授業を受ける上でのルールを記載しています。お互い気持ちよく授業を進めるためにもここに書かれていることを守って授業を受講されることを望みます。
15. このシラバスは令和2年2月末時点のものであり、講師や授業進行などが変更する場合があります。
16. シラバスに記載のない、前期集中授業・後期集中授業については、授業開始概ね1か月前までに連絡します。
17. その他履修に関して不明な点は教職員に問い合わせるようにしてください。

健康科学 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期		2		30		必須		久保 晃信
8 授業の概要													
あん摩マッサージ師はり師きゅう師が備えるべきスポーツ健康科学について学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力を身に付ける。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記したスポーツ種目の競技特性を説明することができる。													
運動処方の概要を説明できる。													
②技能 競技特性を知り、様々なスポーツ競技・運動を体現できる。													
③態度 健康スポーツを通じてコミュニケーション技術および尊重と思いやりの心を修養する。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 鍼灸師として働く自分をデザインする。(導入編)													
第 2 回 生涯スポーツⅠ セルフストレッチング													
第 3 回 生涯スポーツⅡ ソフトボールの競技特性													
第 4 回 生涯スポーツⅡ ソフトボールの競技特性													
第 5 回 生涯スポーツⅢ フットサルの競技特性													
第 6 回 生涯スポーツⅢ フットサルの競技特性													
第 7 回 生涯スポーツⅣ テニスの競技特性													
第 8 回 生涯スポーツⅣ テニスの競技特性													
第 9 回 運動処方の基本的理解Ⅰ													
1. こどもの発育発達と運動指導													
2. トップアスリートのパフォーマンス向上プログラム													
3. メタボリックシンドロームの運動処方													
第 10 回 生涯スポーツⅤ ノルディックウォーキングの特性													
第 11 回 生涯スポーツⅤ ノルディックウォーキングの特性													
第 12 回 生涯スポーツⅤ ノルディックウォーキングの特性													
第 13 回 運動処方の基本的理解Ⅱ													
1. 有酸素・無酸素性運動のスポーツ生理学的評価													
2. 生活習慣病の運動療法													
第 14 回 最大酸素摂取量の測定 インターバル運動中の酸素摂取量の測定													
第 15 回 運動処方の基本的理解Ⅲ													
1. スピード・パワーの定量的測定法													
2. 年齢・競技・レベル別のフィールドテスト法													
11 学習方法													
講義・演習(授業の順序等は変更する場合がある。)													
12 評価方法													
①知識 口頭試問または筆記試験を予定。													
②技能 実演の様子を評価する。													
③態度 授業の取り組み具合を評価する。無断欠席や遅刻は減点する場合がある。													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
競技実演を行うのに相応しい服装と靴で参加すること。													
体調に応じて見学は可。運動制限などがある学生は事前に相談すること。													

健康科学Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期		2		30		必須		久保 晃信
8 授業の概要													
あん摩マッサージ師はり師きゅう師が備えるべきスポーツ健康科学について学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力を身に付ける。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記したスポーツ種目の競技特性を説明することができる。													
運動処方の概要を説明できる。													
②技能 競技特性を知り、様々なスポーツ競技・運動を体験できる。													
③態度 健康スポーツを通じてコミュニケーション技術および尊重と思いやりの心を修養する。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 フィールドテスト													
1. アスリートのフィールドテスト													
2. こどものフィールドテスト													
3. 高齢者の運動器機能テスト													
第 2 回 健康運動・スポーツ指導Ⅰ ペアストレッチングの理論と実際(経絡ストレッチング)													
第 3 回 健康運動・スポーツ指導Ⅰ ペアストレッチングの理論と実際(経絡ストレッチング)													
第 4 回 健康運動・スポーツ指導Ⅱ レジスタンストレーニングの理論と実際(経絡ストレングス)													
第 5 回 健康運動・スポーツ指導Ⅱ レジスタンストレーニングの理論と実際(経絡ストレングス)													
第 6 回 健康運動・スポーツ指導Ⅲ スロージョギング®の理論と実際													
第 7 回 健康運動・スポーツ指導Ⅳ パーソナルトレーニング指導の理論と実際													
第 8 回 鍼灸師として働く自分をデザインする。Vol.2(展開編)													
第 9 回 生涯スポーツ 卓球の競技特性(9～15 回については選択とする。)													
第 10 回 生涯スポーツ 卓球の競技特性													
第 11 回 生涯スポーツ バドミントンの競技特性													
第 12 回 生涯スポーツ バドミントンの競技特性													
第 13 回 生涯スポーツ ソフトバレーの競技特性													
第 14 回 生涯スポーツ ソフトバレーの競技特性													
第 15 回 生涯スポーツ その他の競技特性													
11 学習方法													
講義・演習(授業の順序等に変更する場合がある。)													
12 評価方法													
①知識 口頭試問または筆記試験を予定。													
②技能 実演の様子を評価する。													
③態度 授業の取り組み具合を評価する。無断欠席や遅刻は減点する場合がある。													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
競技実演を行うのに相応しい服装と靴で参加すること。													
体調に応じて見学は可。運動制限などがある学生は事前に相談すること。													

健康科学 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期集中		2		30		必須		猪越 孝治
8 授業の概要													
健康科学の基礎を通じ、運動指導に必要なスポーツ健康科学について学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力を養う。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記したスポーツと身体との関係性について説明することができる。													
②技能 健康科学を理解し、臨床に応用できる。													
③態度 履修を経て、コミュニケーション技術および尊重と思いやりの心が身につく。													
10 授 業 計 画													
第1回 体力学総論													
概念、要素と体力モデル、個人特性、一般的体力と専門的体力、トレーニング													
第2回 バイオメカニクスの基礎理論													
運動の記述、運動の分析													
第3回 スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス													
スポーツ動作、トレーニング動作													
第4回 呼吸循環系・エネルギー代謝と運動													
運動と呼吸循環系、運動とエネルギー代謝													
第5回 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動													
筋力発揮のメカニズム、筋・神経系に対するトレーニング効果、身体機能へのホルモンの作用													
第6回 運動と栄養に関する基礎理論													
五大栄養素の役割、身体組成とエネルギー代謝、スポーツ栄養マネジメント													
第7回 スポーツ選手の競技力向上と栄養													
種目特性、トレーニングスケジュールと栄養、水分補給、栄養・食事計画の立案													
第8回 健康増進と栄養													
食事バランスガイドを活用した食事指導													
第9回 運動と心理に関する基礎理論													
運動やスポーツと心理面のかかわり、メンタルヘルス													
第10回 スポーツ選手の競技力向上への心理の活用													
メンタルトレーニング、イメージトレーニング、プラス思考													
第11回 一般人の健康増進への活用													
メンタルヘルス、カウンセリング													
第12回 救急処置法													
外傷・創傷の応急処置、緊急時の一次救命処置（BLS）													
第13回 スポーツ選手の整形外科的傷害と予防													
足部・足、下腿部、膝関節、股関節、脊柱、肩関節、肘関節、手関節													
第14回 生活習慣病とその予防													
肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧症													
第15回 運動指導の科学													
動作の成り立ち、神経系の発達、動作の習得													
11 学習方法													
講義（授業の順序等に変更する場合がある。）													
12 評価方法													
①知識 口頭試問または筆記試験を予定。													
②技能 課題提出にて評価する。													
③態度 授業の取り組み具合を評価する。無断欠席や遅刻は減点する場合がある。													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
積極的参加を期待する。													

健康科学Ⅱ（社会医学と統計）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期集中		2		30		必須		尾張 豊
8 授業の概要													
医療分野で使われる統計解析手法を具体的な例題をもとに学ぶ。内容は統計学の基礎的な事項が中心となる。講義ではエクセル及び統計ソフト EZR を用いる。EZR は、さまざまな事象から得られるデータを解析するための専用ソフトとして国際的にも高い評価を得ている。また、EZR は基礎的な解析はもちろん高度な解析をすることも可能であるので、将来、さらに学習を深めるためにも有効といえる。同時に、データ加工（グラフの作成など）、データを読み解く基礎力を養う。なお、毎回 EZR を使用する課題の提出を求められる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
基本的な統計解析を実施し、導かれた結果の意味を正しく解釈できる													
【行動目標】													
①知識 統計学の基礎的な用語について説明できる													
②技能 無料統計ソフト EZR を使用して基本的な統計解析ができる													
③態度 授業に積極的に参加する態度を身につける													
10 授 業 計 画													
第1回 統計学の基本的な知識とは？（生徒の身の回りに存在する事象を用いて説明する）													
第2回 EZR の操作・Excel データの EZR への取り込み、データの要約を行う													
第3回 正規性の確認・検定と等分散性の確認・検定を行う													
第4回 対応のある2群間の連続変数を比較する(1)													
第5回 対応のある2群間の連続変数を比較する(2)													
第6回 独立した2群間の連続変数を比較する(1)													
第7回 独立した2群間の連続変数を比較する(2)													
第8回 対応のある2群間の比率を比較する(1)													
第9回 対応のある2群間の比率を比較する(2)													
第10回 独立した2群間の比率を比較する(1)													
第11回 独立した2群間の比率を比較する(2)													
第12回 対応のある3群以上の連続変数を比較する(1)													
第13回 対応のある3群以上の連続変数を比較する(2)													
第14回 独立した3群以上の間の連続変数を比較する(1)													
第15回 独立した3群以上の間の連続変数を比較する(2)													
11 学習方法													
視聴覚教室のコンピュータにダウンロードされている無料統計ソフト EZR を操作しながら学習する													
12 評価方法													
①知識 統計学の基礎的な用語について筆記試験をする（30点）													
②技能 第1回を除いて、統計ソフト EZR を使用する課題を毎回プリントアウトして提出する（70点）													
③態度 遅刻・欠席は減点の対象になる可能性がある													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし（毎回、資料が配布される）													
14 学生への要望													
自分で統計ソフトを操作することによって、学習目標を達成することが可能となるので欠席をしないこと													

健康科学Ⅲ（生活習慣と健康）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期		2		—		必須		遠藤 隆行
8 授業の概要													
健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1. 健康と生活習慣の関係を概念として説明できる。													
2. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる。													
3. アルコールの健康影響を説明できる。													
4. 喫煙の健康影響について説明できる。													
5. 運動の意義と効果を説明できる。													
6. 健康増進法、健康日本 21（第二次）について説明ができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 章 生活習慣病の特徴:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ。													
第 2 章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ。													
第 3 章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ。													
第 4 章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ。													
第 5 章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ。													
第 6 章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ。													
第 7 章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ。													
第 8 章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康障害について学ぶ。													
第 9 章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ。													
11 学習方法													
人間総合科学大学による通信制授業（テキスト履修）によって行われる。													
12 評価方法													
科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。													
13 教科書													
山田早百合「生活習慣と健康」人間総合科学大学 2007 年													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
上記以外として、健康日本 2 1（第二次）: 2013 年 4 月から 10 年計画でスタートした健康増進法を基盤とした国の施策に対しても関心を向けて下さい。													

健康科学Ⅳ（心身一如の科学）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎分野		1 学年		後期		2		—		必須		久住 眞理
8 授業の概要													
人間のこころとからだが密接不可分であるとする心身一如（心身相関）の考え方について、その哲学、宗教的、科学的な背景を学習するとともに、心身一如を支える科学的メカニズムを学び、人間の健康の実現に応用する視点を修得することを目的とする。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1. 哲学や思想史のなかで心身一如がどのように扱われてきたのかを説明出来る。													
2. 心身一如を支える生理学的機序の基礎を説明できる。													
3. 皮膚や筋等への組織に加えた刺激が人間の感情や身体機能に与える影響を説明できる。													
4. 人間の健康の実現に心身相関の科学を応用するために必要となる視点を説明できる。													
10 授 業 計 画													
第Ⅰ章 心身一如と心身相関の科学													
古くから哲学、宗教の領域で議論されてきた心身一如の思想を概観し、心身一如が注目される背景を人間の健康や幸福の実現という観点から科学的に捉え直し、その意義を社会的背景を踏まえながら探る。													
第Ⅱ章 からだの感覚と幸福感・健康の関係													
心身相関支える生理学的な仕組みの基礎と、こころを生み出す脳の仕組み等について学んだあとに、体性感覚に焦点をあてて、この感覚から生まれる感情や、身体機能へどのような影響が及ぶのかを学ぶ。体表に刺激を加える鍼灸・指圧・マッサージなどの効果の科学的仕組みを理解する上でも重要となる。													
第Ⅲ章 からだのリズムとこころ													
人間の身体機能に備わる様々なゆらぎ現象と調節機構の関連、さらにこころとの関連性を学ぶことで、第Ⅱ章とともに心身相関の観点から人間の健康（well-being）の実現に向けて応用するために必要となる重要な視点を考察する。													
11 学習方法													
人間総合科学大学による通信制授業（テキスト履修）によって行われる。													
12 評価方法													
科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。													
13 教科書													
久住武「心身一如の科学」 人間総合科学大学 2018 年													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
本科目では、人間のこころとからだ、文化の関連性について「心身一如」というキーワードから考えてみます。この考え方の歴史的な変遷や、生活での応用可能となる身近なテーマについて取り上げて、学際的な観点から「心身相関」を考える姿勢を修得していただきます。													

人文科学 I（古典に親しむ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期		2		30		必須		金子 えつこ
8 授業の概要													
中国伝統医学の古典、またその大陸医学が渡来した日本における古典医学書のテキスト等を紹介し抜粋で読解する。 また、『蘭学事始』『解体新書』等を歴史の流れの中に位置づけつつ読解する。最終的には、古典医学や有名古典に関する基礎的な知識と教養を身につけ、また古典に親しむこと、古典読書の日常化を目標とする。													
9 到達目標													
【一般目標】													
医療古典に親しむ。医療古典を読解する。													
【行動目標】													
①知識 医療古典に関する基礎知識を養い、よくつかう古語や漢文の句を説明できる。													
②技能 医学関連の古文書を読みこなせる。													
③態度 医学関連の古文書を読むことを喜びの自己領域に入れることができる。 古代から連綿と受け継がれてきた書物に対し敬意と謙虚さを持つことができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 概論													
第 2 回 『黄帝内経』より『素問』1													
第 3 回 『黄帝内経』より『素問』2													
第 4 回 『黄帝内経』より『靈枢』													
第 5 回 『神農本草経』													
第 6 回 『傷寒雑病論』より『傷寒論』 レシピを漢文で読む													
第 7 回 日本医療史概論 / 『医心方』													
第 8 回 『啓迪集』													
第 9 回 医聖ヒポクラテスについて 江戸時代の文献を参考に													
第 10 回 『蘭学事始』													
第 11 回 小石川療養所について / 『解体新書』1													
第 12 回 『解体新書』2													
第 13 回 『ターヘル・アナトミア』と『ハルマ和解』													
第 14 回 『養生訓』 / 江戸時代の医療と医学者													
第 15 回 後期まとめ													
11 学習方法													
講義（資料および毎回の書き込み式授業プリントに沿った講義形式）													
12 評価方法													
①知識 期末試験による評価													
②技能 毎回の授業に関するミニレポートの提出による評価													
③態度 授業での上記以外の諸成果による総合判断													
13 教科書													
教科書は使用しない													
参考書													
参考書は随時紹介する													
14 学生への要望													
積極的に学び、伸ばしたい学生を歓迎する。学生のレベルや希望を、ある程度、考慮する。													

人文科学Ⅱ（スポーツ社会学）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		後期		2		30		必須		逢坂 十美
8 授業の概要													
社会学およびその思考法について学び、スポーツの歴史およびスポーツの事象を通して社会学的捉え方を習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
社会学的思考法と専門用語を理解し、スポーツを始めとした社会の事象における問題点や課題を見出す視点を養う。													
【行動目標】													
①知識 社会学における専門用語とその内容を説明することができる。													
②技能 社会学の専門用語を道具として社会の事象、特にスポーツの事象の課題、問題点を発見する力が身につく。													
③態度 社会において当たり前と思われるような事柄に潜在している問題点や課題を見つけ出そうとする態度が身につく。													
10 授 業 計 画													
第1回 社会学的思考法（1）社会学におけるヒトの見方													
第2回 社会学的思考法（2）社会学という道具													
第3回 社会学的思考法（3）「常識にとらわれる」ということ													
第4回 社会学的思考法（4）社会におけるパラドクス													
第5回 社会学的思考法（5）パラドクスの具体的事例													
第6回 スポーツの歴史的発展（1）スポーツの源流													
第7回 スポーツの歴史的発展（2）イギリスにおけるスポーツの変容と発展													
第8回 スポーツの歴史的発展（3）スポーツから近代スポーツへの転換													
第9回 スポーツの歴史的発展（4）近代オリンピック 100 年の発展と変容													
第10回 近代オリンピックにみるパラドクス													
第11回 近代スポーツと健康との結びつき													
第12回 健康のパラドクスとスポーツ													
第13回 高齢者競技スポーツにおいて「健康」とはどのようなことか													
第14回 近代スポーツにおける今日的課題を探る													
第15回 まとめ													
11 学習方法													
講義を行う。必要に応じて映像等を視聴するほか、グループでディスカッションを行う場合がある。													
12 評価方法													
①知識 試験（論述）による評価。試験は 60 点以上を合格とする。													
②技能 授業のなかで行うディスカッション、課題等の成果物により評価する。													
③態度 授業のなかで行うディスカッション等における積極性、主体性を加味する。													
13 教科書													
定まったテキストは用いない。													
資料は授業の都度教員より配布する。													
参考書													
授業中に配布するレジュメ等で参考となる書籍等を提示する。													
14 学生への要望													
本授業は一般教養科目であり国家試験に直結するものではない。しかしながら本授業の内容は、近い将来、社会生活を続けていくうえで助けとなるよう、社会学という道具によって社会やヒトの捉え方、考え方を提示することを目指している。授業においては質問、意見など積極的参加を期待したい。													

人文科学 I (気分と感情の文化)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期集中		2		30		必須		石井 香里
8 授業の概要													
気分や感情の仕組みを理解し自身でコントロールできるようになることは、コミュニケーションが欠かせない現代において大変重要なことである。対外的なコミュニケーションスキルだけでなく、あらゆるネガティブ感情の対処に役立つアンガーマネジメントの基礎・応用を身に付ける。													
さらに、セラピストとしての業務に活かすことができる、美容セラピー・芳香セラピーの効果ついて、実習を踏まえて体感し、知識とともに実践方法を具体的に習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①気分や感情に関して理解を深める。													
②美容や芳香が及ぼす効果を理解する。													
【行動目標】													
①知識 気分や感情をコントロールするコミュニケーションスキルと、美容セラピー・芳香セラピーの効果について説明できる。													
②技能 気分や感情をコントロールするコミュニケーションスキルと、美容セラピー・芳香セラピーに関する技法を体現できる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
1 日目 第 1 回 基本的なコミュニケーションスキル 1													
自分のコミュニケーションスキルを知る。													
第 2 回 基本的なコミュニケーションスキル 2													
話を聞く技法、意欲を引き出す力													
2 日目 第 3 回 アンガーマネジメント 基礎 1													
アンガーマネジメントとは													
第 4 回 アンガーマネジメント 基礎 2													
アンガーマネジメントとは													
3 日目 第 5 回 アンガーマネジメント 応用 1													
アンガーマネジメントを活かして													
第 6 回 アンガーマネジメント 応用 2													
アンガーマネジメントを活かして													
4 日目 第 7 回 美容と文化 基礎 1													
セラピストに求められるもの													
第 8 回 美容と文化 基礎 2													
美容のセラピー効果とは													
5 日目 第 9 回 美容と文化 応用 1													
美容セラピーの実践方法													
第 10 回 美容と文化 応用 2													
美容セラピーの実践方法													
6 日目 第 11 回 香りと文化 1													
アロマセラピーとは													
第 12 回 香りと文化 2													
アロマセラピー実践													
11 学習方法													
講義・演習・グループワーク													
12 評価方法													
①知識 試験またはレポート・提出物にて知識を評価する													
②技能 試験またはレポート・提出物にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
参考書													
なし													
なし													
14 学生への要望													
専門科目と並行し、本授業を履修することでセラピストと技量を深める一助にしてもらいたい。													

人文科学Ⅱ（色彩と人間）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期集中		2		30		必須		江島 美根子
8 授業の概要													
色は、「人と人」「モノと人」のコミュニケーションをとるための重要な役割を果たす大切な要素として認識され、人々の関心も年々高まっている。ファッション界では勿論重要だが、住まいのコーディネート、街づくりの色彩計画、食生活での栄養バランス、企業のイメージ戦略などの重要なカギと言われ、「色彩」は、今やフォルムのデザインと共に大きく評価され重要視される時代である。													
色は言葉以上に瞬時に多くのことを伝えることができる情報である。													
色彩における物理的性質、および色彩が人の心や体に与える影響や効果について学習し、カラーカードや布の色見本を用いたカラー演習を通して配色理論・配色技法を学ぶ。													
色を「人と人」「モノと人」のコミュニケーションツールとして認識し、色に対する感受性や分析能力を高めるとともに、意図した効果が得られる色彩表現力を身につけることを目的とする。													
9 到達目標													
【一般目標】													
色彩理論についての基礎を学び、配色技法の習得を通じて人間関係を深める基礎を身につける。													
カラーコーディネートを通じて人間関係を深める行動力を身につける。													
【行動目標】													
①知識	色の物理的性質や色が持つ心理的効果など色彩学における基礎知識を説明できる。												
	配色理論に基づいた客観的で効果的な配色技法について説明できる。												
②技能	商品や広告、ファッションなど生活で目にする色について分析、考察することができる。												
	目的に合わせた配色、色選びなどの色彩表現ができる。												
③態度	正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。												
10 授 業 計 画													
1 日目	第 1 回	色の性質											
	第 2 回	色の分類	記号による表示										
2 日目	第 3 回	色彩心理	色の心理的効果 1										
	第 4 回	色彩心理	色の心理的効果 2										
3 日目	第 5 回	色彩調和	配色の基本ルール 1										
	第 6 回	色彩調和	配色の基本ルール 2										
4 日目	第 7 回	光と色	光の物理的性質										
	第 8 回	色と視覚	照明										
5 日目	第 9 回	色彩と生活	ファッション	パーソナルカラー									
	第 10 回	色彩と生活	商品パッケージと色										
6 日目	第 11 回	色彩と人柄	（キャラクターイメージと色彩）										
	第 12 回	課題	「開業する治療院の色彩計画」										
11 学習方法													
講義・演習													
12 評価方法													
①知識	試験またはレポート・提出物にて評価する												
②技能	提出物、実技試験にて評価する												
③態度	出席状況で評価する。（正当な理由のない欠席は 10 点減点とする。）												
13 教科書													
「色彩検定 3 級テキスト」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
持参品（カラーワーク時に必要）													
はさみ・スティックのり・色鉛筆・筆記用具・カラーカード													

コミュニケーション論(コミュニケーション入門)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	基礎		1 学年		前期・後期		2		—		必須		鈴木 淳子
8 授業の概要													
具体的事例を通して、コミュニケーションの実践につながる理論と、医療・福祉の現場における患者対応や指導、職場の人間関係、職種間の連携構築に必要となる人間理解の基礎を学ぶ。また、自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1. 自己と他者、そして相互の理解に必要なコミュニケーションの基礎技法について説明できる。													
2. 人間関係から生じる感情やストレスの仕組みと、対処に必要な技法を説明できる。													
3. 安定した人間関係の形成要因とこれに必要な視点、技法について説明できる。													
4. 自己成長の観点からコミュニケーション力の重要性を説明できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 章 「視点をかえれば人間関係が変わる」													
職場の人間関係に焦点をあわせて、自己の感情発現の仕組みとコントロールの方法について学ぶ。さらに、職場の上司や同僚の行動に対して負の感情を抱いた際に必要となる具体的な対応と技法を理解する。													
第 2 章 「過度な期待がいらいだちを生む」													
医療・福祉現場の人間関係や施術者-患者関係の中で生じる否定的な感情（怒り、苛立ち、失望、リアリティ・ショック）を生む仕組みを理解し、事例を通して、同僚を含む他者への支援を行う際に必要となる技法とポイント（傾聴、チャンクダウン、承認、共感的理解）について学ぶ。													
第 3 章 「相手を知ればストレスが減る」													
職場の中でストレスが生じる様々な場面を想定し、安定した人間関係の阻害要因となる恐れや不安、促進要因となる安心感やラポール・信頼関係、相互理解と協調関係の形成に重要となる視点や技法（質問やフィードバックの方法等）を学ぶ。													
第 4 章 「自分の中の勇気を呼び覚ます」													
他者と良好なコミュニケーションを図るために、ソーシャルネットワークの作り方や自分自身の中で生じる様々なストレスとの向き合い方と理論を学習し、自己成長の観点から、人間関係力やコミュニケーション力を修得する意義を学ぶ。													
11 学習方法													
人間総合科学大学による通信制授業（テキスト履修）によって行われる。													
12 評価方法													
科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。													
13 教科書													
医療・福祉現場のコミュニケーション（三輪書店）													
参考書													
なし													
14 学生への要望													

人体の構造と機能 I (解剖学 I)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1 学年	前期	1	30	必須	樋元 栄作
8 授業の概要 医療者として骨・靱帯・関節について、名称、形状、位置と役割について理解する。また、スライド講義や骨模型を使用し、関連を平面的に知るだけではなく、常に立体的なイメージを持って理解できる。						
9 到達目標 【一般目標】 骨の構造・名称・配置・連結を理解する。 知識をもとに骨の名称や構造を問う質問に解答できる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 骨の構造・名称・配置・連結を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション、人体の区分、骨の形状・分類を示す用語 第2回 脊柱の構成1：脊柱と椎骨（構造と部位名称など） 第3回 脊柱の構成2：頸椎、胸椎（構造と部位名称など） 第4回 脊柱の構成3：腰椎、仙骨、尾骨（構造と部位名称など） 第5回 体幹：胸骨、肋骨、胸郭（構造と部位名称など） 第6回 上肢の骨格（上肢帯）：鎖骨、肩甲骨（構造と部位名称など） 第7回 上肢の骨格（自由上肢）1：上腕骨、橈骨、尺骨（構造と部位名称など） 第8回 上肢の骨格（自由上肢）2：手の骨、上肢の関節（構造と部位名称など） 第9回 下肢の骨格（下肢帯）：寛骨、仙腸関節（構造と部位名称など） 第10回 下肢の骨格（自由下肢）1：大腿骨、膝蓋骨（構造と部位名称など） 第11回 下肢の骨格（自由下肢）2：脛骨、腓骨（構造と部位名称など） 第12回 下肢の骨格（自由下肢）3：足の骨、下肢の関節（構造と部位名称など） 第13回 頭蓋骨1：脳頭蓋、顔面頭蓋（構造と部位名称など） 第14回 頭蓋骨2：頭蓋冠、頭蓋底（構造と部位名称など） 第15回 頭蓋骨3：眼窩、鼻腔、口腔（構造と部位名称など）						
11 学習方法 講義、演習						
12 評価方法 ①知識 定期試験によって評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 「解剖学」第2版 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院						
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。 解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。 授業で骨模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。						

人体の構造と機能Ⅱ（解剖学Ⅱ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		樋元 栄作
8 授業の概要													
医療者として筋について名称、分類、形状、位置と作用について理解する。また、スライド講義や筋模型を使用し、平面的に知るだけではなく、常に立体的なイメージを持って理解できる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
筋の構造・名称・配置・作用を理解する。													
知識をもとに筋の名称や作用に関する知識を身につける。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 筋の構造・名称・配置・作用を説明することができる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 筋の形状、補助装置、筋の作用と関節運動、浅胸筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 2 回 体幹の筋 1：深胸筋、横隔膜、腹部の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 3 回 体幹の筋 2：会陰筋、背部の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 4 回 体幹の筋 3：後頭下筋、上肢帯の筋、回旋筋腱板（起始・停止・作用・支配神経）													
第 5 回 体幹の筋 4：上腕の筋、前腕の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 6 回 上肢の筋 1：前腕の筋（屈筋群）（起始・停止・作用・支配神経）													
第 7 回 上肢の筋 2：前腕の筋（伸筋群）（起始・停止・作用・支配神経）													
第 8 回 上肢の筋 3：手の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 9 回 下肢の筋 1：下肢帯の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 10 回 下肢の筋 2：大腿の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 11 回 下肢の筋 3：下腿の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 12 回 下肢の筋 4：足の筋（起始・停止・作用・支配神経）													
第 13 回 頭頸部の筋 1：（起始・停止・作用・支配神経）													
第 14 回 頭頸部の筋 2：（起始・停止・作用・支配神経）													
第 15 回 部位での局所解剖（頸肩部、腰背部、鼠径部など）													
11 学習方法													
講義、演習													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「解剖学」第 2 版													
参考書													
「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院													
14 学生への要望													
授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。													
解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。													
授業で筋模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。													

人体の構造と機能Ⅲ（解剖学Ⅲ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1 学年	前期	1	30	必須	筒井 邦彦 渡辺 冴夏
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識である、細胞・組織・呼吸器系・消化器系に関する知識を学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 解剖学の基礎知識となる細胞・組織・呼吸器系・消化器系に関する知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 細胞内器官や組織の種類、特徴を説明できる。 呼吸器の配置、機能を説明できる。 消化器の配置、機能を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構成1（細胞）：細胞の構造、細胞分裂と遺伝子 第2回 人体の構成2（組織）：上皮組織、結合組織 第3回 人体の構成3（組織）：筋組織、結合組織 第4回 人体の構成4：骨格系 第5回 人体の構成5：神経系 第6回 人体の構成6：体表の構造 第7回 呼吸器系1：鼻腔、副鼻腔 第8回 呼吸器系2：咽頭、喉頭 第9回 呼吸器系3：気管、気管支 第10回 呼吸器系4：肺 第11回 消化器系1：消化管の基本構造、口腔 第12回 消化器系2：唾液腺、咽頭、食道 第13回 消化器系3：胃、小腸、大腸 第14回 消化器系4：肝臓 第15回 消化器系5：胆嚢、膵臓、腹膜						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 定期試験によって評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「解剖学」 第2版				参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」（医学書院）		
14 学生への要望 人体を理解するための基礎となる科目である。教科書を読んだ上で授業に臨むこと。						

人体の構造と機能Ⅲ（解剖学Ⅲ）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1 学年	前期	1	30	必須	渡辺 冴夏
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識である、細胞・組織・循環器系・呼吸器系に関する知識を学習する。						
9 到達目標 【一般目標】 解剖学の基礎知識となる細胞・組織・循環器系・呼吸器系に関する知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じることができる。 【行動目標】 ①知識 細胞内器官や組織の種類、特徴を説明できる。 循環器の配置、機能を説明できる。 呼吸器の配置、機能を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 人体の構成1（細胞）：細胞の構造、細胞分裂と遺伝子 第2回 人体の構成2（組織）：上皮組織、結合組織 第3回 人体の構成3（組織）：筋組織、結合組織 第4回 人体の構成4：骨格系 第5回 人体の構成5：神経系 第6回 人体の構成6：体表の構造 第7回 循環器系1：血管系、心臓 第8回 循環器系2：動脈系 第9回 循環器系3：静脈系 第10回 循環器系4：胎児循環、リンパ系 第11回 循環器系5：臓器への分布 第12回 呼吸器系1：鼻腔、副鼻腔 第13回 呼吸器系2：咽頭、喉頭 第14回 呼吸器系3：気管、気管支 第15回 呼吸器系4：肺						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「解剖学」 第2版				参考書 「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」（医学書院）		
14 学生への要望 人体を理解するための基礎となる科目である。教科書を読んだ上で授業に臨むこと。						

人体の構造と機能Ⅳ(解剖学Ⅳ)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		田中 直子 樋元 栄作
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として循環器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 解剖学の基礎知識となる循環器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 循環器の構造と機能を説明できる。 泌尿器の構造と機能を説明できる。 生殖器の構造と機能を説明できる。 内分泌の構造と機能を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画 第1回 循環器系1：血管系、心臓 第2回 循環器系2：動脈系 第3回 循環器系3：静脈系 第4回 循環器系4：胎児循環、リンパ系 第5回 循環器系5：臓器への分布 第6回 泌尿器系1：腎臓 第7回 泌尿器系2：膀胱・尿路 第8回 生殖器系1：男性生殖器 第9回 生殖器系2：女性生殖器 第10回 生殖器系3：生殖・発生 第11回 内分泌系1：内分泌総論 第12回 内分泌系2：下垂体、松果体 第13回 内分泌系3：甲状腺、上皮小体、副腎 第14回 内分泌系4：膵臓、性腺 第15回 まとめ（復習）													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験によって評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「解剖学」 第2 版								参考書 「プロメテウス解剖学アトラスコンパクト版」医学書院					
14 学生への要望 人体を理解するための基礎となる科目である。教科書を読んだ上で授業に臨むこと。													

人体の構造と機能Ⅳ(解剖学Ⅳ)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		樋元 栄作	
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
解剖学の基礎知識となる消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の知識を習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 消化器の構造と機能を説明できる。													
泌尿器の構造と機能を説明できる。													
生殖器の構造と機能を説明できる。													
内分泌の構造と機能を説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 消化器系1													
第2回 消化器系2													
第3回 消化器系3													
第4回 消化器系4													
第5回 消化器系5													
第6回 泌尿器系1：腎臓													
第7回 泌尿器系2：膀胱・尿路													
第8回 生殖器系1：男性生殖器													
第9回 生殖器系2：女性生殖器													
第10回 生殖器系3：生殖・発生													
第11回 内分泌系1：内分泌総論													
第12回 内分泌系2：下垂体、松果体													
第13回 内分泌系3：甲状腺、上皮小体、副腎													
第14回 内分泌系4：膵臓、性腺													
第15回 まとめ（復習）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「解剖学」 第2版													
参考書													
「プロメテウス解剖学アトラスコンパクト版」医学書院													
14 学生への要望													
人体を理解するための基礎となる科目である。教科書を読んだ上で授業に臨むこと。													

人体の構造と機能Ⅴ（解剖学Ⅴ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		杉本 良子
8 授業の概要 人体の構造に関し、感覚器系・神経系を中心に講義を行う。													
9 到達目標 【一般目標】 感覚器系や神経系の知識を習得し、様々な疾患への理解やはりきゅう臨床の礎を養う。 【行動目標】 ①知識 感覚器系や神経系に関する問に解答することができる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。 (万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。) 教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する。													
10 授 業 計 画 第 1 回 視覚器 眼球及び眼球の付属器の構造 第 2 回 平衡聴覚器 外耳・中耳・内耳の構造 第 3 回 味覚・嗅覚器 味覚・嗅覚の構造 第 4 回 中枢神経 神経系の概要、脊髄の構造 第 5 回 中枢神経 脳幹（延髄、橋、中脳）の構造 第 6 回 中枢神経 小脳、間脳、大脳（辺縁系）の構造 第 7 回 中枢神経 大脳（新皮質）の構造 第 8 回 中枢神経 脳室、髄膜、脳脊髄液、脳内の血管の構造 第 9 回 中枢神経 伝導路（下行性伝導路） 第 10 回 中枢神経 伝導路（上行性伝導路） 第 11 回 末梢神経 脳神経（第Ⅰ～Ⅵ脳神経）の構造 第 12 回 末梢神経 脳神経（第Ⅶ～Ⅻ脳神経）の構造 第 13 回 末梢神経 脊髄神経の構造 第 14 回 末梢神経 自律神経の構造 第 15 回 まとめ													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 筆記試験 ②技能 課題を提出することで評価を有効とする。 ③態度 無断欠席等について減点することがある。													
13 教科書 「解剖学」 医歯薬出版								参考書 毎回参考資料を配布する。					
14 学生への要望 自ら進んでイラストを描くことは解剖学の理解に大いに役立つ。そのため労を惜しまず実践して欲しい。 本校の学習支援サイト e-459 を用いた感覚器・神経系（中枢神経・末梢神経）の自学自習を推奨する。													

人体の構造と機能Ⅵ（生理学Ⅰ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		前期		1		30		必須		樋元 栄作
8 授業の概要													
生理学では生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。本授業では、特に神経系について学びを進めていく。													
9 到達目標													
【一般目標】													
神経系の機能、伝導、伝達、反射などのメカニズムを理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 神経機能について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 神経系の分類とニューロンの構造と働き：ニューロン、支持細胞、変性と再生など													
第2回 神経線維の興奮伝導：静止電位、活動電位、興奮の伝導など													
第3回 シナプス伝達：興奮の伝達、神経伝達物質など													
第4回 中枢神経系の分類と機能：反射機能、感覚系の統合、運動系の統合など													
第5回 反射：反射と反射弓、反射の特徴と種類など													
第6回 脊髄：ベルマジャンディーの法則、脊髄ショック、脊髄内の伝導路など													
第7回 脳幹、小脳、視床、視床下部													
第8回 大脳1：大脳基底核、大脳辺縁系など													
第9回 大脳2：新皮質、脳波の分類など													
第10回 脳脊髄液、末梢神経系：脳神経、脊髄神経など													
第11回 自律神経系1：交感神経系、副交感神経系など													
第12回 自律神経系2：内臓求心性神経の働き、消化管における壁内神経叢など													
第13回 自律神経系3：自律神経系の中樞、自律神経の関与する反射など													
第14回 自律神経系4：内臓—内臓反射、体性—内臓反射、内臓—体性反射など													
第15回 総まとめ													
11 学習方法													
講義、演習（授業開始時に前回までの確認問題を行う。）													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「生理学」 第3版													
参考書													
「生理学の基本がわかる事典」西東社													
14 学生への要望													
他教科との繋がりがあり、また将来臨床においても役に立つ学科である。その為、単なる暗記に終わらず、機序の理解に努める必要がある。													
授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。授業には集中力を持って臨んで下さい。													
また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。													

人体の構造と機能Ⅶ(生理学Ⅱ)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である人体の機能（生理学の基礎、循環）についての講義を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
人体の機能のうち、生理学の基礎と循環についてを習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 人体機能の特徴、細胞の構造と機能が説明できる。													
血液、心臓や血管の機能と働き、血液循環やその調節のメカニズム、リンパ系の機能が説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由がない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 生理学の基礎：生理機能の特徴、細胞の構造と機能1（細胞膜の構造と機能、細胞質と細胞小器官）													
第2回 生理学の基礎：細胞の構造と機能2（核、DNA、RNA、タンパク質合成）													
第3回 生理学の基礎：物質代謝、体液の組成と働き、物質移動													
第4回 循環：血液の組成と働き1 総論、赤血球													
第5回 循環：血液の組成と働き2 白血球、血小板、血漿													
第6回 循環：止血													
第7回 循環：線維素溶解、血液型													
第8回 循環：心臓血管系、心臓の構造と働き1（心筋の特性、刺激伝導系）													
第9回 循環：心臓の構造と働き2（心機能の調節、心電図、神経支配）													
第10回 循環：血液循環1（血管の構造と働き、脈拍、毛細血管の循環）													
第11回 循環：血液循環2（静脈、血管の神経支配、血圧）													
第12回 循環：循環調節1（調節の仕組み、反射性調節）													
第13回 循環：循環調節2（特殊な部位の循環）													
第14回 循環：リンパ系													
第15回 まとめ（復習）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業や定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね、評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「生理学」 第3版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

人体の構造と機能Ⅷ(生理学Ⅲ)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1 学年	後期	1	30	必須	樋元 栄作
8 授業の概要 生理学では生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。本授業では、特に呼吸と消化・吸収について学びを進めていく。						
9 到達目標 【一般目標】 呼吸器系・消化器系の機能と調節メカニズムに関する知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 呼吸・消化・吸収のメカニズムについて説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 呼吸1：呼吸器系の構造と機能（外呼吸と内呼吸など） 第2回 呼吸2：肺機能（一回換気量、残気量、換気とガス交換など） 第3回 呼吸3：ガス交換とガスの運搬（拡散、体液の酸塩基平衡など） 第4回 呼吸4：呼吸運動とその調節（呼吸中枢、ヘーリングブロイエル反射など） 第5回 理解度の確認、まとめ（復習） 第6回 消化と吸収1：消化器系の構造と機能（解剖学的消化器系の確認、復習） 第7回 消化と吸収2：各栄養素の消化と吸収、消化酵素の種類と働き 第8回 消化と吸収3：消化管運動（咀嚼、嚥下、消化管運動と調節など） 第9回 消化と吸収4：消化管運動（胃の運動、小腸の運動、大腸の運動など） 第10回 消化と吸収5：消化液（唾液、胃液など） 第11回 消化と吸収6：消化液（膵液、胆汁、大腸液など） 第12回 消化と吸収7：消化管ホルモン（ガストリン、セクレチン、コレシストキニンなど） 第13回 消化と吸収8：各栄養素の吸収（糖質、タンパク質、脂肪など） 第14回 消化と吸収9：肝臓の働き（物質代謝、解毒作用、生体防衛作用など） 第15回 消化と吸収10：摂食の調節、まとめ（復習）						
11 学習方法 講義、演習（授業開始時に前回までの確認問題を行う。）						
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「生理学」第3版				参考書 「生理学の基本がわかる事典」西東社		
14 学生への要望 授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。授業には集中力を持って臨んで下さい。 また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。						

人体の構造と機能Ⅳ(生理学Ⅳ)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		1 学年		後期		1		30		必須		杉本 良子
8 授業の概要													
医療者として代謝・体温・排泄の機能・調節について理解する。また、スライド講義でイメージを持って理解し、メカニズムを説明できる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
代謝・体温・排泄の機能と調節のメカニズムを理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 代謝・体温・排泄のメカニズムについて説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 体温1：体温調節（核心温度と外殻温度、体温の変動など）													
第2回 体温2：体熱の産生と放散（基礎代謝量、ふるえ産熱など）													
第3回 体温3：発汗とその調節（汗腺、発汗の種類など）													
第4回 体温4：体温調節の障害（うつ熱、セットポイントなど）、まとめ（復習）													
第5回 排泄1：腎臓の基本的構造と機能（体液の調節、ホルモンの産生と分泌など）													
第6回 排泄2：腎循環（腎血流量（RBF）など）、尿生成（糸球体濾過）													
第7回 排泄3：尿生成（尿細管の再吸収など）													
第8回 排泄4：尿生成（尿細管の分泌、クリアランスなど）													
第9回 排泄5：腎臓と体液の調節（体液のpH調節、浸透圧調節など）													
第10回 排泄6：蓄尿と排尿（尿管・膀胱・尿道の構造と働き、膀胱と尿道の支配神経など）、まとめ（復習）													
第11回 代謝1：食品の栄養素、代謝（栄養素のエネルギー、基礎代謝、呼吸商など）													
第12回 代謝2：各栄養素の働きと代謝（糖質）													
第13回 代謝3：各栄養素の働きと代謝（脂質、タンパク質）													
第14回 代謝4：各栄養素の働きと代謝（ビタミン）													
第15回 代謝5：各栄養素の働きと代謝（無機質）、まとめ（復習）													
11 学習方法													
講義、演習（授業開始時に前回までの確認問題を行う。）													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「生理学」第3版													
参考書													
「生理学の基本がわかる事典」西東社													
14 学生への要望													
授業はスライドや板書を用いて解説する形で行っていきます。授業には集中力を持って臨んで下さい。													
また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。													
各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。													

人体の構造と機能Ⅹ(生理学Ⅴ)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	1 学年	前期	1	30	必須	楠本 真也
8 授業の概要 あはき臨床を実践するにあたり、医学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な機能を理解する。						
9 到達目標 【一般目標】 ホルモンの作用、生殖機能、筋の運動について理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 ホルモンの階層性支配、男女の性反射、運動反射について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第 1 回 内分泌 (ホルモン総論、ホルモンの構造、受容体、フィードバック) 視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン 第 2 回 内分泌 (各内分泌腺の働き) 視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン 第 3 回 内分泌 (各内分泌腺の働き) 副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、腎ホルモン、性ホルモン 第 4 回 内分泌 (各内分泌腺の働き) そのほかのホルモン (腎臓、心臓、松果体)、まとめ 第 5 回 生殖・成長と老化 男性・女性生殖器総論 第 6 回 生殖・成長と老化 性反射 (勃起と射精) 第 7 回 生殖・成長と老化 性周期 (子宮内膜周期と卵巣周期) 第 8 回 生殖・成長と老化 スキャモンの成長曲線、老化の特徴、まとめ 第 9 回 筋 骨格筋の微細構造 第 10 回 筋 興奮収縮連関 第 11 回 筋 筋の収縮様式、筋へのエネルギー供給、まとめ 第 12 回 運動 脊髄に支配される運動反射 第 13 回 運動 脳幹に支配される運動反射 第 14 回 運動 反射と随意運動の関係 (伸張反射とγループ) 第 15 回 総まとめ						
11 学習方法 講義 (質疑応答形式)						
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「生理学」 第 3 版			参考書 なし			
14 学生への要望 初学者にとって聞きなれない単語もあり難しいと感じることも多いと思うが、自身の体の中で起こっている仕組みを理解する気持ちを忘れずに学習して欲しい。また生理学は 2 年で学習する科目の基礎となる部分のため、土台作りのためにも復習はしっかりと行うように。						

人体の構造と機能 XI（局所解剖学）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		前期		1		30		必須		樋元 栄作
8 授業の概要													
局所解剖学では1年生で修得した解剖学の基礎知識を基に局所（部位ごと）の構造や走行などの学びを進めていく。													
9 到達目標													
【一般目標】													
局所の（頭頸部、体幹、上肢、下肢）構造・血管・神経の走行や通過部位を理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 局所の（頭頸部、体幹、上肢、下肢）構造・血管・神経の走行や通過部位について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 体幹の局所解剖1：構造、区分の復習（胸部、腹部、背部など）													
第2回 体幹の局所解剖2：脈管系（胸壁、腹壁、背部の動静脈の走行・通過部位など）													
第3回 体幹の局所解剖3：神経系（胸壁、腹壁、背部の神経の走行・通過部位など）													
第4回 理解度の確認、まとめ（復習）													
第5回 上肢の局所解剖1：構造の復習（腋窩、肘窩、手根管など）													
第6回 上肢の局所解剖2：脈管系（上肢の動静脈、リンパの走行・通過部位など）													
第7回 上肢の局所解剖3：神経系（腕神経叢、橈骨神経、正中神経、尺骨神経の走行・通過部位など）													
第8回 下肢の局所解剖1：構造の復習（大腿三角、筋・血管裂孔、筋区画など）													
第9回 下肢の局所解剖2：脈管系（下肢の動静脈、リンパの走行・通過部位など）													
第10回 下肢の局所解剖3：神経系（腰神経叢、大腿神経、坐骨神経の走行・通過部位など）													
第11回 理解度の確認、まとめ（復習）													
第12回 頭頸部の局所解剖1：構造の復習（前頭三角、後頭三角など）													
第13回 頭頸部の局所解剖2：脈管系（総頸動脈、鎖骨下動脈の走行・通過部位など）													
第14回 頭頸部の局所解剖3：神経系（脳神経Ⅰ～Ⅵの走行・通過部位など）													
第15回 頭頸部の局所解剖4：神経系（脳神経Ⅶ～Ⅻの走行・通過部位など）													
11 学習方法													
講義、演習（授業開始時に前回までの確認問題を行う。）													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「解剖学」第2版													
参考書													
「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院													
「解剖トレーニングノート」第5版 医学教育出版社													
14 学生への要望													
授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。													
解剖学は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。													
授業で模型を使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。													

運動学

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期		1		30		必須		米永 繁樹
8 授業の概要 運動学を学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸師に必要な基礎知識としての運動学を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 運動学、身体各部の機能を説明できる。 骨・筋の構造と機能を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第 1 回 運動学の基礎 1) 関節と運動の力学 2) 姿勢とその異常 第 2 回 運動学の基礎 3) 運動路と感覚路 第 3 回 身体各部の機能 1) 脊柱と体幹 第 4 回 身体各部の機能 2) 肩甲帯・肩関節 第 5 回 身体各部の機能 3) 肘・前腕・手・手指 第 6 回 身体各部の機能 4) 骨盤・膝・足 第 7 回 第 6 回目までのおさらい。 第 8 回 正常歩行と異常歩行 顔面・頭部の筋 第 9 回 骨・関節の構造と機能 第 10 回 筋の構造と機能 第 11 回 神経の構造と機能 第 12 回 関節可動域と測定（その 1）主に上半身 第 13 回 関節可動域と測定（その 2）主に下半身 第 14 回 健康づくりのための運動指針について 第 15 回 ストレッチの方法 頭頸部、上肢帯ならびに下肢・下肢帯のストレッチ													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 授業で学習した知識を、学科試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「リハビリテーション医学」 第 3 版 参考書 なし													
14 学生への要望 積極的に学習してほしい。													

病理学概論 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		前期		1		30		必須		小泉 博幸
8 授業の概要													
病理学とは病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問と定義されています。本授業ではテキストに従い、病因、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常について学習します。													
9 到達目標													
【一般目標】													
病因、循環障害、退行性病変について学習し、様々な疾患を学習する上での礎を養う。													
【行動目標】													
①知識 病因、循環障害、退行性病変について説明できる。													
②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。													
教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。													
10 授 業 計 画													
第1回 オリエンテーション（授業の進め方）、病理学とはどのような学問か													
第2回 疾病についての基本的な考え方、疾病の概念、疾病の分類、疾病の症候と経過													
第3回 疾病の一般、内因													
第4回 内分泌疾患													
第5回 免疫													
第6回 外因①（栄養素の不足と過剰）													
第7回 外因②（物理的・化学的要因）													
第8回 外因③（生物的要因）													
第9回 循環障害①（循環系の復習、充血、うっ血、虚血（貧血）、出血、止血、血液凝固）													
第10回 第1～8回の中間評価													
循環障害②血栓症、血栓の形成誘因、塞栓症、塞栓症の種類、梗塞、貧血性梗塞、出血性梗塞）													
第11回 循環障害③（水腫、浮腫、脱水症、一次的脱水、二次的脱水、ショック、ショックの原因、ショックの種類）													
第12回 退行性病変①（萎縮、数的減少、細胞縮小、変性、加齢、老化）													
第13回 退行性病変②（生活習慣病、胆石症、糖尿病、痛風、肥満、内臓脂肪型肥満、動脈硬化）													
第14回 退行性病変③（壊死、凝固壊死、融解壊死、アポトーシス、死、死の判定、脳死、脳死の判定）													
第15回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 筆記試験													
②技能 課題を提出することで評価を有効とする。													
③態度 無断欠席等について減点することがある。													
13 教科書													
「病理学概論」 医歯薬出版													
参考書													
毎回参考資料を配布する。													
14 学生への要望													
病理学は他の学問（解剖学、生理学、物理学、化学、微生物学、免疫学、遺伝学、分子細胞生物学、衛生学など）と密接に関わる学問である。多岐に渡る知識を広く、楽しく学んでほしい。													
本校の学習支援サイト e-459 を用いた病理学の自学自習を推奨する。													

病理学概論Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		前期		1		30		必須		小泉 博幸
8 授業の概要													
病理学とは病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問と定義されています。本授業ではテキストに従い、病因、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常について学習します。													
9 到達目標													
【一般目標】													
進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常について学習し、様々な疾患を学習する上での礎を養う。													
【行動目標】													
①知識 進行性病変、炎症、腫瘍・免疫異常・アレルギー、先天性異常について説明できる。													
②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。													
教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 進行性病変①（肥大、仕事肥大、代償性肥大、仮性肥大、増殖、再生、化生、直接化生、間接化生）													
第 2 回 進行性病変②（移植、自己移植、同種移植、異種移植、同系移植、異系移植、拒絶、創傷治癒、異物の処理）													
第 3 回 これまでの学習内容の確認													
第 4 回 炎症①（炎症の一般、炎症の機序、循環障害、急性炎症と慢性炎症）													
第 5 回 炎症②（炎症の種類、滲出性炎症、増殖性炎症、漿液性炎、化膿性炎、線維索性炎、出血性炎など）													
第 6 回 これまでの学習内容の確認													
第 7 回 腫瘍①（腫瘍の一般、腫瘍の構造、腫瘍の特色などを学ぶ。）													
第 8 回 中間評価（第 1～6 回）													
腫瘍③（腫瘍の分類、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍）													
第 9 回 腫瘍④（腫瘍の発生、腫瘍の増殖、腫瘍の影響）													
第 10 回 腫瘍⑤（良性腫瘍の種類、悪性腫瘍の種類、腫瘍の内因・外因、治療、統計）													
第 11 回 これまでの学習内容の確認													
第 12 回 免疫異常（免疫の基礎、I～V型アレルギー、免疫不全）													
第 13 回 先天異常①（先天性代謝異常、常染色体遺伝、伴性遺伝、優性遺伝、劣性遺伝）													
第 14 回 先天異常②（奇形）													
第 15 回 これまでの学習内容の確認													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 筆記試験													
②技能 課題を提出することで評価を有効とする。													
③態度 無断欠席等について減点することがある。													
13 教科書													
「病理学概論」 医歯薬出版													
参考書													
毎回参考資料を配布する。													
14 学生への要望													
病理学は他の学問（解剖学、生理学、物理学、化学、微生物学、免疫学、遺伝学、分子細胞生物学、衛生学など）と密接に関わる学問である。多岐に渡る知識を広く、楽しく学んでほしい。													
本校の学習支援サイト e-459 を用いた病理学の自学自習を推奨する。													

臨床医学総論 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		前期		1		30		必須		堤野 猛
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師が診察を行う際に必要な基本的な知識と診断能力を身につける。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①診察の意義、一般的心得を理解できる。													
②診察の順序、診察方法の基本的な知識を学び、主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。													
③当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 診察の基礎を学び、情報収集を行う中で患者の状態を把握できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 オリエンテーション/診察の意義・診察の一般的心得・関連用語の確認・理解 (これからの内容の整理、専門用語に慣れてもらうために関連用語などから学習)													
第 2 回 診察の種類(方法)、診察の順序、診察の記録(意義・方法) [診察の種類(方法)を確認し、診察の順序、診察の記録方法について学習]													
第 3 回 医療面接 1 [医療面接の内容を理解して、医療面接で行う項目(主訴、現病歴、既往歴、社会歴、家族歴)を学習]													
第 4 回 医療面接 2 [医療面接の内容を理解して、実際に医療面接を行い、学習]													
第 5 回 基本診察(視診:視診方法、視診のポイント・触診:触診方法、触診ポイント)													
第 6 回 基本診察(打診:打診方法、打診音、打診ポイント・聴診:聴診方法、聴診音、聴診ポイント)													
第 7 回 バイタルサイン(体温:正常体温、異常な体温など)													
第 8 回 バイタルサイン(脈拍:正常脈拍、異常な脈拍など)													
第 9 回 バイタルサイン(血圧 1:測定方法、正常血圧、異常な血圧など)													
第 10 回 バイタルサイン(血圧 2:実際に測定方法を行う)													
第 11 回 バイタルサイン(呼吸:正常呼吸、異常な呼吸など)													
第 12 回 全身の診察(顔貌・顔色、精神状態)													
第 13 回 全身の診察(言語:構音障害と失語症、身体計測:周径方法、身長・体重など)													
第 14 回 全身の診察(体型・体格、栄養状態)													
第 15 回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験の結果で評価する。													
②技能 定期試験の結果で評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「臨床医学総論」 第 2 版													
参考書													
「臨床医学各論」 第 2 版													
「診察と手技がみえる」 メディックメディア													
14 学生への要望													
臨床医学総論は診察方法を学んでいきます。主観的な情報と客観的な情報を診察のどの種類(方法)を用いて行うのか、得た情報からどのように診断するかを中心に学習を進めて欲しいと思います。聞きなれない用語、単語が出てくると思いますが、臨床に出た時に必要な知識になるので、日々の復習をしっかりと行って欲しい。													

臨床医学総論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	2 学年	後期・後期集中	1	30	必須	堤野 猛
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師が診察を行う際に必要な基本的な知識と診断能力を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 全身の診察から主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。 局所の診察から主観的・客観的な情報を収集し、患者の状態を診断するのに役立てる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 診察の基礎を学び、情報収集を行う中で患者の状態を把握できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 全身の診察 1 姿勢と体位：疾患特有な姿勢など 第2回 全身の診察 2 行：異常な歩行 第3回 全身の診察 3 膚、粘膜、皮下組織：色の変化、発疹など 第4回 全身の診察 4 下組織：浮腫、発汗、体毛、レイノー現象、癢痒 第5回 全身の診察 5 爪の状態、リンパ節：爪の色、形状、リンパ節の腫脹・特徴など 第6回 全身の診察 6 その他の一般的状態：食欲、睡眠 第7回 全身の診察 7 その他の一般的状態：便通、排尿 第8回 局所の診察 8 頭部、顔面：異常な頭部の診察など、顔面の麻痺、腫脹など 第9回 局所の診察 9 眼 1：診察方法、異常な所見など 第10回 局所の診察 10 眼 2：診察方法、異常な所見など 第11回 局所の診察 11 鼻、耳：診察方法、異常所見など 第12回 局所の診察 11 口腔：診察方法、異常所見など 第13回 局所の診察 12 頸部：診察方法、異常所見など 第14回 局所の診察 13 胸部、乳房：診察方法、異常所見など 第15回 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 定期試験の結果で評価する。 ②技能 定期試験の結果で評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 「臨床医学総論」 第3版 「臨床医学各論」 第3版 「診察と手技がみえる」 メディックメディア						
14 学生への要望 臨床医学総論は診察方法を学んでいきます。主観的な情報と客観的な情報を診察のどの種類（方法）を用いて行うのか、得た情報からどのように診断するかを中心に学習を進めて欲しいと思います。聞きなれない用語、単語が出てくるとはありますが、臨床に出た時に必要な知識になるので、日々の復習をしっかりと行って欲しい。						

臨床医学各論 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		前期		1		30		必須		楠本 真也
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である整形外科疾患についての講義を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
あはき臨床に必要な整形外科疾患の知識を習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 整形外科疾患における治療法や画像診断の種類や特徴を説明できる。													
関節疾患について説明できる。													
骨代謝性疾患・骨腫瘍について説明できる。													
筋・腱疾患、形態異常について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由がない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 整形外科疾患 1 総論（治療法）													
第2回 整形外科疾患 2 総論（画像診断）													
第3回 整形外科疾患 3 関節疾患（関節炎、関節の可動域の異常）													
第4回 整形外科疾患 4 関節疾患（五十肩）													
第5回 整形外科疾患 5 関節疾患（変形性股関節症、変形性膝関節症）													
第6回 整形外科疾患 6 関節疾患（変形性足関節症、変形性肘関節症、手指の変形性関節症）													
第7回 整形外科疾患 7 骨代謝性疾患・骨腫瘍（骨粗鬆症、くる病・骨軟化症）													
第8回 整形外科疾患 9 骨代謝性疾患・骨腫瘍（転移性骨腫瘍）													
第9回 整形外科疾患 10 骨代謝性疾患・骨腫瘍（骨肉腫、骨軟骨腫）													
第10回 整形外科疾患 11 筋・腱疾患（特殊な筋炎・筋膜炎、ばね指）													
第11回 整形外科疾患 12 筋・腱疾患（ドケルバン病、重症筋無力症）													
第12回 整形外科疾患 13 形態異常（先天性股関節脱臼）													
第13回 整形外科疾患 14 形態異常（斜頸、側彎症）													
第14回 整形外科疾患 15 形態異常（外反母趾、内反足）													
第15回 まとめ（復習）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業や定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね、評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「臨床医学各論」 第2版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

臨床医学各論Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		2 学年		後期		1		30		必須		楠本 真也
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である整形外科疾患、リウマチ性疾患・膠原病についての講義を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
あはき臨床に必要な整形外科疾患、リウマチ性疾患・膠原病の知識を習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 脊椎疾患について説明できる。													
脊髄損傷、外傷などについて説明できる。													
リウマチ性疾患・膠原病について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由がない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 整形外科疾患 16 脊椎疾患 (椎間板ヘルニア)													
第2回 整形外科疾患 17 脊椎疾患 (後縦靱帯骨化症、脊椎分離・すべり症)													
第3回 整形外科疾患 18 脊椎疾患 (頸部・腰部変形性脊椎症)													
第4回 整形外科疾患 19 脊椎疾患 (頸部・腰部脊柱管狭窄症)													
第5回 整形外科疾患 20 脊椎疾患 (腰痛症、頸椎捻挫)													
第6回 整形外科疾患 21 脊髄損傷													
第7回 整形外科疾患 22 外傷 (骨折、脱臼、捻挫)													
第8回 整形外科疾患 23 外傷 (スポーツ外傷・傷害；総論、テニス肘、ゴルフ肘)													
第9回 整形外科疾患 24 外傷 (スポーツ外傷・傷害；野球肘、野球肩、ジャンパー膝)													
第10回 整形外科疾患 25 その他の整形外科疾患 (胸郭出口症候群、頸腕症候群・頸肩腕症候群)													
第11回 整形外科疾患 26 その他の整形外科疾患 (ガングリオン、手根管症候群)													
第12回 リウマチ性疾患・膠原病 1 総論、関節リウマチ													
第13回 リウマチ性疾患・膠原病 2 全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、ベーチェット病													
第14回 リウマチ性疾患・膠原病 3 多発性筋炎・皮膚筋炎、多発動脈炎、食物アレルギー、血清病													
第15回 まとめ (復習)													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業や定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね、評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「臨床医学各論」 第2版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

臨床医学各論Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要													
腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の概要、成因と病態生理、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の学びを通じ、あはき師としてふさわしい教養を身に付ける。													
【行動目標】													
①知識	腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患について説明できる。												
②技能	当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。												
③態度	体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。(万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。)												
教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。													
10 授 業 計 画													
第 1 回	腎臓・尿路疾患 1 腎臓・泌尿器系の機能、総論、糸球体腎炎												
第 2 回	腎臓・尿路疾患 2 ネフローゼ症候群、腎不全												
第 3 回	腎臓・尿路疾患 3 感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎）												
第 4 回	腎臓・尿路疾患 4 腫瘍性疾患（腎腫瘍、膀胱癌）												
第 5 回	腎臓・尿路疾患 5 結石症、前立腺疾患（前立腺肥大、前立腺癌）												
第 6 回	内分泌疾患 1 内分泌系の機能												
第 7 回	内分泌疾患 2 下垂体疾患（クッシング病、先端巨大症、下垂体性低身長症、尿崩症）												
第 8 回	内分泌疾患 3 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎）												
第 9 回	内分泌疾患 4 副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、アジソン病、褐色細胞腫）												
第 10 回	代謝・栄養疾患 1 糖代謝異常（糖尿病）												
第 11 回	代謝・栄養疾患 2 脂質代謝異常（脂質異常症、肥満症、いそう）												
第 12 回	代謝・栄養疾患 3 尿酸代謝異常（高尿酸血症、痛風）												
第 13 回	代謝・栄養疾患 4 その他の代謝異常（ビタミン欠乏症、骨軟化症）												
第 14 回	まとめ（復習）												
第 15 回	まとめ（復習）												
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識	筆記試験												
②技能	課題を提出することで評価を有効とする。												
③態度	無断欠席等について減点することがある。												
13 教科書													
「臨床医学各論」 医歯薬出版													
参考書													
毎回参考資料を配布する。													
14 学生への要望													
腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の多くは国民病とも言われ、あはき臨床で頻繁に遭遇する疾患である。本授業での学びが病態把握やインフォームドコンセント、患者指導に役立つことを期待する。													
本校の学習支援サイト e-459 を用いた腎臓・泌尿器、内分泌、代謝・栄養疾患の自学自習を推奨する。													

臨床医学各論Ⅳ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		後期		1		30		必須		渡辺 冨夏
8 授業の概要													
循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の概要、成因と病態生理、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の学びを通じ、あはき師としてふさわしい教養を身に付ける。													
【行動目標】													
①知識 循環器、赤血球・白血球疾患について説明できる。													
②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出することができる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。（万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。）													
教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 心臓の機能、形態、検査法													
第2回 心不全													
第3回 心臓弁膜疾患（僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症・逸脱症候群・大動脈狭窄症・閉鎖不全症）													
第4回 不整脈（期外収縮、心房細動、心室細動ほか）、先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症）、特発性心筋症、心筋炎													
第5回 冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）													
第6回 動静脈疾患（動脈硬化、大動脈瘤、大動脈解離、バージャー病、閉塞性動脈硬化症、大動脈炎症候群、静脈瘤）													
第7回 血圧異常（高血圧症、低血圧症）													
第8回 これまでのまとめ													
第9回 中間評価													
第10回 貧血1（貧血の診断と評価、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血）													
第11回 貧血2（溶血性貧血、再生不良性貧血）													
第12回 白血球疾患（白血病）、リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）													
第13回 出血性疾患：（紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群（DIC））													
第14回 これまでのまとめ													
第15回 評価													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 筆記試験													
②技能 課題を提出することで評価を有効とする。													
③態度 無断欠席等について減点することがある。													
13 教科書													
「臨床医学各論」 医歯薬出版													
参考書													
毎回参考資料を配布する。													
14 学生への要望													
循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の中にはあはき臨床で頻繁に遭遇する疾患がある。本授業での学びが病態把握やインフォームドコンセント、患者指導に役立つことを期待する。													
本校の学習支援サイト e-459 を用いた循環器、赤血球・白血球疾患、出血素因性疾患の自学自習を推奨する。													

リハビリテーション医学Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期		1		30		必須		中川 裕理
8 授業の概要													
リハビリテーション医学における基本的な知識を学び、各疾患におけるリハビリテーションについて学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
リハビリテーション医学における基本的な知識を学び、各疾患におけるリハビリテーションについて理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 リハビリテーションの概要、基本的理念、リハビリテーション医学の概念、障害の捉え方を説明できる。													
障害の評価、医学的リハビリテーションの方法にはそれぞれ何があるか説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 リハビリテーションの概要													
第2回 障害と生活のとらえ方1（障害の評価：ICIDH）													
第3回 障害と生活のとらえ方2（障害の評価：ICF）													
第4回 リハビリテーション医学と医療1（リハビリテーション医学の概要）													
第5回 リハビリテーション医学と医療2（リハビリテーション医学とチームアプローチ・進め方）													
第6回 リハビリテーション医学と医療3（地域ケアとリハビリ、高齢社会）													
第7回 障害の評価（心身機能・身体構造）1													
第8回 障害の評価（心身機能・身体構造）2													
第9回 障害の評価1（活動・参加）													
第10回 障害の評価2（合併症、運動麻痺、失行失認、摂食嚥下）													
第11回 医学的リハビリテーション1（理学療法）													
第12回 医学的リハビリテーション2（作業療法）													
第13回 医学的リハビリテーション3（言語聴覚療法）													
第14回 医学的リハビリテーション4（補装具療法）													
第15回 まとめ													
11 学習方法													
講義および演習													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「リハビリテーション医学」 第4版													
参考書													
「リハビリビジュアルブック」 第2版 学研プラス													
「目でみるリハビリテーション医学」 第2版 東京大学出版会													
14 学生への要望													
リハビリテーション医学の基本は障害学であり、単なる「訓練」ではなく、多くの専門職が連携して問題を解決していく総合的アプローチである。どの場面で鍼灸師の専門性を生かせるかを想像しながら、学習してもらいたい。													

リハビリテーション医学Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		後期		1		30		必須		中川 裕理
8 授業の概要													
リハビリテーション医学における基本的な知識を学び、各疾患におけるリハビリテーションについて学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
リハビリテーション医学における基本的な知識を学び、各疾患におけるリハビリテーションについて理解できる。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識	前期で学んだことも復習し、各疾患に対して評価・リハビリ内容・治療について説明できる。												
②技能	自主的に学習することができる。												
③態度	正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。												
10 授 業 計 画													
第 1 回	各疾患のリハビリテーション 1（脳卒中：急性期の評価、リハビリ内容）												
第 2 回	各疾患のリハビリテーション 2（脳卒中：回復期の評価、リハビリ内容）												
第 3 回	各疾患のリハビリテーション 3（脊髄損傷：概要、急性期の評価、リハビリ内容）												
第 4 回	各疾患のリハビリテーション 4（脊髄損傷：回復期の評価、リハビリ内容）												
第 5 回	各疾患のリハビリテーション 5（切断：概要、評価、特徴など）												
第 6 回	各疾患のリハビリテーション 6（小児：概要、評価、リハビリ内容）												
第 7 回	各疾患のリハビリテーション 7（関節リウマチ：概要、リハビリ内容）												
第 8 回	各疾患のリハビリテーション 8（末梢神経障害：概要、評価、リハビリ内容）												
第 9 回	各疾患のリハビリテーション 9（パーキンソン病：概要、評価、リハビリ内容）												
第 10 回	各疾患のリハビリテーション 10（呼吸器疾患：概要、評価、リハビリ内容）												
第 11 回	各疾患のリハビリテーション 11（心疾患：概要、評価、リハビリ内容）												
第 12 回	各疾患のリハビリテーション 12（骨関節疾患：変形性股関節症、大腿骨頸部骨折）												
第 13 回	運動学：歩行（歩行サイクル、歩行分析）												
第 14 回	確認テスト												
第 15 回	まとめ												
11 学習方法													
講義および演習													
12 評価方法													
①知識	定期試験によって評価する。												
②技能	授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。												
③態度	出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。												
13 教科書													
「リハビリテーション医学」 第 4 版													
参考書													
「リハビリビジュアルブック」 第 2 版 学研プラス													
「リハビリテーションにおける評価 Ver. 2」 医歯薬出版株式会社													
14 学生への要望													
リハビリテーション医学の基本は障害学であり、単なる「訓練」ではなく、多くの専門職が連携して問題を解決していく総合的アプローチである。どの場面で鍼灸師の専門性を生かせるかを想像しながら、学習してもらいたい。													

衛生学・公衆衛生学 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期		1		30		必須		名越 文人
8 授業の概要													
衛生学・公衆衛生学を教授し、あはき師が備えるべき素養を身に付ける。													
9 到達目標													
【一般目標】													
衛生学を社会医学の科学として理解させ、病気の予防、健康保持増進についての基礎能力を養う。													
コメディカルな分野で日常臨床に応用する能力を培い PHC の展開に役立てる。													
情報化社会における現代社会のライフスタイルや環境に常に関心をもたせ健康づくりに向けての科学的即応力を育てる。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記した学習内容について説明できる。													
②技能 自ら進んで学習し、当該科目に関するメモやノートをまとめることができる。													
③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 衛生学・公衆衛生学の歴史（欧米、日本について）													
第 2 回 公衆衛生活動（人口統計、衛生統計、及び健康教育等について）													
第 3 回 健康の概念（健康の語源について、WHO の健康について）													
第 4 回 慢性疾患と生活 1（生活環境、食物、アルコール、喫煙等について）													
第 5 回 慢性疾患と生活 2（人口統計、健康水準、健康指標について）													
第 6 回 疾病予防と健康管理 1（病気の自然史と予防について）													
第 7 回 疾病予防と健康管理 2（病気予防の段階について）													
第 8 回 感染症の予防対策 1（感染症とは）													
第 9 回 感染症の予防対策 2（感染症成立要件と各種病原菌）													
第 10 回 感染症の予防対策 3（感染の三条件対策と予防接種について）													
第 11 回 消毒 1（消毒とは、種類と方法について）													
第 12 回 消毒 2（消毒の応用について）													
第 13 回 環境保健 1（環境とは、環境問題について）													
第 14 回 環境保健 2（物理的、化学的環境公害について）													
第 15 回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 筆記試験にて評価する。													
②技能 課題または成果物の提出（未提出の場合は評価を減点する場合がある。）													
③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点する場合がある。）													
13 教科書													
「衛生学・公衆衛生学」第 2 版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
積極的に参加すること。													

衛生学・公衆衛生学Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		後期		1		30		必須		名越 文人
8 授業の概要													
衛生学・公衆衛生学を教授し、あはき師が備えるべき素養を身に付ける。													
9 到達目標													
【一般目標】													
衛生学を社会医学の科学として理解させ、病気の予防、健康保持増進についての基礎能力を養う。													
コメディカルな分野で日常臨床に応用する能力を培い PHC の展開に役立てる。													
情報化社会における現代社会のライフスタイルや環境に常に関心をもたせ健康づくりに向けての科学的即応力を育てる。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記した学習内容について説明できる。													
②技能 自ら進んで学習し、当該科目に関するメモやノートをまとめることができる。													
③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 母子保健 1（母子保健とライフサイクル、有害因子について）													
第 2 回 母子保健 2（母子保健の指標、母子保健行政及び対策）													
第 3 回 学校保健 1（意味、構成、特質について）													
第 4 回 学校保健 2（関係職員、健康診断、保健の教育課程について）													
第 5 回 産業保健 1（目的と歴史、職業病、労災の動向について）													
第 6 回 産業保健 2（職業病とその対策、健康診断、健康増進について）													
第 7 回 成人・老人保健 1（成人老人の健康状態、成人保健について）													
第 8 回 成人・老人保健 2（生活習慣病の特徴と種類について）													
第 9 回 成人・老人保健 3（老人保健と福祉対策について）													
第 10 回 精神保健（定義と歴史、精神の病気について）													
第 11 回 生活環境・食品衛生活動（水、衣服、住居、食品衛生について）													
第 12 回 地域保健と国際保健（地域保健とは、WHO の活動について）													
第 13 回 衛生行政と保健医療制度（衛生行政機構の概要と国民医療費について）													
第 14 回 疫学（疫学とは、その調査方法、評価について）													
第 15 回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 筆記試験にて評価する。													
②技能 課題または成果物の提出（未提出の場合は評価を減点する場合がある。）													
③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点する場合がある。）													
13 教科書													
「衛生学・公衆衛生学」第 2 版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
積極的に参加すること。													

関係法規

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎	3 学年	前期・前期集中	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許は国家資格であり、様々な法律による制約を受ける為、業務を行う上で知っておくべき各種法律の内容について理解する。						
9 到達目標 【一般目標】 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として業務に従事する上で必要な法律である「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（以下、あはき法）」、「医療関連法規」の知識を修得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 「あはき法」「医療関係法規」について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理ができ、欠課等の連絡が習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 導入・序論法の意義、法の体系、医療過誤とリスクマネジメント、インフォームド・コンセント 第2回 あはき法 1 免許と試験 1 法制定の目的、免許の資格要件 第3回 あはき法 2 免許と試験 2 免許に関する事務など、施術者の身分、試験 第4回 あはき法 3 業務 1 業務の独占と範囲、施術に関する注意 第5回 あはき法 4 業務 2 施術所などに関する規則、業務開始の届出など 第6回 あはき法 5 業務 3 施術所の名称の制限及び広告の制限、業務の停止 第7回 あはき法 6 業務 4 医療類似行為 第8回 あはき法 7 学校、養成施設、指定試験機関、指定登録機関、試験委員 第9回 あはき法 8 罰則、あはき法の復習 第10回 関係法規 1 医事法規と医療制度、医療法 第11回 関係法規 2 医師法、その他の医療従事者に関する法律 第12回 関係法規 3 薬事法規 第13回 関係法規 4 衛生関係法規 第14回 関係法規 5 社会福祉関係法規、その他の関係法規 第15回 関係法規 6 社会保険関係法規、鍼灸マッサージの療養費						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「関係法規」				参考書 なし		
14 学生への要望 開業する際の知識等、あはき師として業務を行う上で必要となる内容であり、また法律の内容を知り遵守することは自分自身を守るということに繋がる。将来の為と思って取り組む必要がある。						

医療概論

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期・後期		1		30		必須		東郷 俊宏・他
8 授業の概要													
社会保障制度・医療倫理などについて調べ学習を行い、その学習内容をクラスメイトに対してプレゼンテーションを行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
調べ学習を通じて、医療の原点や現状、問題点、社会的発展を考える力を養う。													
【行動目標】													
①知識 医学史の概要、現代社会の医療、社会保障制度、医療倫理について説明できる。													
②技能 テーマに沿い情報を収集し、自らの考えと結びつけ発展させ、聞き手に分かりやすいように発表できる。													
③態度 積極的・能動的な態度で行動でき、他者との協力をもって物事を推進できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 ガイダンス・テーマ選定													
第2回 グループワーク（1回目発表用：形式不問）													
第3回 グループワーク（1回目発表用：形式不問）													
第4回 グループワーク（1回目発表用：形式不問）													
第5回 グループワーク（1回目発表用：形式不問）													
第6回 発表（1回目：第1グループ）													
第7回 発表（1回目：第2グループ）													
第8回 発表（1回目：第3グループ）													
第9回 グループワーク（2回目発表用：PowerPoint）													
第10回 グループワーク（2回目発表用：PowerPoint）													
第11回 グループワーク（2回目発表用：PowerPoint）													
第12回 グループワーク（2回目発表用：PowerPoint）													
第13回 発表（2回目：第1グループ）													
第14回 発表（2回目：第2グループ）													
第15回 発表（2回目：第3グループ）													
11 学習方法													
講義、演習（グループワーク・プレゼンテーション）													
12 評価方法													
①知識 選定したテーマの理解度など発表内容にて評価する。													
②技能 発表態度、発表技術、資料内容、質疑応答内容にて評価する。													
③態度 授業態度、聴講態度、質問の回数・内容、まとめノートにて評価する。													
13 教科書													
「医療概論」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
基本的にグループワークが中心となる為、各自が積極的に取り組むこと。また、テーマについて深く考え、決められた時間内でいかに分かりやすく伝えられるか、グループ内で繰り返し討議すること。													

職業倫理

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		集中		1		15		必須		東郷 俊宏・他
8 授業の概要													
施術所において実務経験のあるあはき師の見地から職業倫理について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
望ましい施術者像を考え、あはき師としてふさわしい素養を身につける。													
【行動目標】													
①知識 望ましいあはき師像を列挙できる。													
②技能 自ら進んで授業に参加し、自身の考えを述べることができる。													
③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 職業倫理とは													
第 2 回 同上													
第 3 回 職能団体 職能団体の定める職業倫理													
第 4 回 同上													
第 5 回 職業倫理を学ぶ・考える													
第 6 回 同上													
第 7 回 グループワーク 1													
第 8 回 グループワーク 2													
11 学習方法													
講義・演習													
12 評価方法													
①知識 筆記試験にて評価する。													
②技能 課題または成果物の提出（未提出の場合は評価を減点する場合がある。）													
③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点することもある）													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
積極的な参加を期待する。													

経絡経穴概論 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		榎田 和敏
8 授業の概要													
臨床の現場においてあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要な経絡経穴の知識・技能を習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
正経十二経脈に督脈と任脈を合わせた十四経脈の流注（接続部含む）と経穴名（経穴番号含む）、取穴に必要な体表区分（体表指標含む）と骨度法（同身寸含む）を理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 十四経脈の流注と経穴名、体表区分と骨度法を述べることができる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 オリエンテーション・経絡経穴の概要													
第2回 督脈と任脈（小テスト：経穴名・順番・体表区分）													
第3回 手の太陰肺経と手の陽明大腸経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第4回 足の陽明胃経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第5回 足の太陰脾経と手の少陰心経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第6回 手の太陽小腸経と第2回～5回までの復習（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第7回 足の太陽膀胱経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第8回 足の少陰腎経と手の厥陰心包経と手の少陽三焦経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第9回 足の少陽胆経（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第10回 足の厥陰肝経と第7回～9回までの復習（小テスト：経穴名・順番・体表区分 接続部）													
第11回 督脈と取穴法（小テスト：取穴部位・取穴法）													
第12回 任脈と体表指標（小テスト：取穴部位・体表指標）													
第13回 手の陽明大腸経（小テスト：取穴部位）													
第14回 手の太陰肺経と第11回～13回までの復習（小テスト：取穴部位）													
第15回 グループに分かれて第11回～14回までの取穴実技													
11 学習方法													
講義と演習													
必要に応じて実技も行う。													
12 評価方法													
①知識 定期試験と小テストにて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「新版 経絡経穴概論」													
参考書													
特に指定しない。													
必要に応じて適宜参考プリントを配布する。													
14 学生への要望													
予習や復習を行うことを前提として授業を進める。留意のこと。													

経絡経穴概論Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期		1		30		必須		襖田 和敏
8 授業の概要													
臨床の現場においてあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要な経絡経穴の知識・技能を習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
正経十二経脈に督脈と任脈を合わせた十四経脈の取穴部位を理解することを目標とする。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 十四経脈の取穴部位を述べるができる。													
四肢末端や背部等の主要経穴の取穴を実際に行うことができる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 足の陽明胃経1（小テスト：取穴部位）													
第2回 足の陽明胃経2（小テスト：取穴部位）													
第3回 足の太陰脾経（小テスト：取穴部位）													
第4回 手の少陰心経と第1回～3回までの復習（小テスト：取穴部位）													
第5回 グループに分かれて第1回～4回までの取穴実技													
第6回 足の太陽膀胱経1（小テスト：取穴部位）													
第7回 足の太陽膀胱経2（小テスト：取穴部位）													
第8回 足の少陰腎経（小テスト：取穴部位）													
第9回 手の太陽小腸経と第6回～8回までの復習（小テスト：取穴部位）													
第10回 グループに分かれて第6回～9回までの取穴実技													
第11回 手の厥陰心包経と足の厥陰肝経（小テスト：取穴部位）													
第12回 手の少陽三焦経（小テスト：取穴部位）													
第13回 足の少陽胆経1（小テスト：取穴部位）													
第14回 足の少陽胆経2（小テスト：取穴部位）													
第15回 グループに分かれて第11回～14回までの取穴実技													
11 学習方法													
講義と演習													
必要に応じて実技も行う。													
12 評価方法													
①知識 定期試験と小テストにて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「新版 経絡経穴概論」													
参考書													
特に指定しない。													
必要に応じて適宜参考プリントを配布する。													
14 学生への要望													
予習や復習を行うことを前提として授業を進める。留意のこと。													

経絡経穴概論Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		渡辺 冴夏
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるはき師の見地から、下記3項目を教授する。													
臨床現場で使用頻度の高い要穴を中心に、奇経八脈と奇穴を学習する。													
解剖学的な位置を理解する。													
横並びなどの位置関係を正確に理解する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
経穴名だけではなく、臨床上の意義や取穴部位から経穴を想起できるようになる。													
【行動目標】													
①知識 五要穴・五行穴の表の運用について説明できる。													
解剖学的な位置を説明できる。													
②技能 要穴の取穴部位を取穴できる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 要穴の概要													
第2回 五要穴 1 原穴、郄穴													
第3回 五要穴 2 絡穴、募穴、俞穴													
第4回 五俞穴・五行穴 井穴、榮穴、俞穴、経穴、合穴													
第5回 要穴の確認 グループワーク 1 経穴かるた作成													
第6回 要穴の確認 グループワーク 2 経穴かるた実践													
第7回 取穴実技													
第8回 中間まとめ・復習													
第9回 四総穴・八会穴・交会穴・下合穴													
第10回 奇経八脈・八脈交会穴													
第11回 要穴の応用 難経六十九難													
経筋・皮部について													
第12回 奇穴 1 頭頸部、胸腹部、背部													
第13回 奇穴 2 上肢部、下肢部、よく知られている組み合わせ													
第14回 奇穴の確認 グループワーク													
第15回 経絡・経穴の現代的研究													
まとめ													
11 学習方法													
講義、実技、演習													
12 評価方法													
①知識 前期末に筆記試験または口頭試問													
②技能 実地（実技）試験													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「新版 経絡経穴概論」													
参考書													
「解剖学」「東洋医学概論」													
14 学生への要望													
臨床的意義を考えながら経穴を学ぶこと。													
経絡経穴の意味を理解し取穴できるよう、復習を行うこと。													
解剖学的な用語から経穴部位が想起できるよう、解剖学を復習しておくこと。													

東洋医学概論 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		東郷 俊宏 久保 昌紀
8 授業の概要 東洋医学の概念のうち、全般的な特徴と生体物質（気血津液）について学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 東洋医学の考え方や気血津液の正常な働きとその病理・病証を理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 東洋医学の特徴、精気血津液・神・陰陽の生理と病理を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理ができ、欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第1回 導入、東洋医学の特徴：東洋医学の沿革 第2回 東洋医学の特徴：人体の見方 第3回 東洋医学の特徴：東洋医学的治療 第4回 東洋医学の特徴：日本の東洋医学の現状 第5回 生理と病理：生体物質と神 精の生理・病理 第6回 生理と病理：生体物質と神 精の病理、気の生理 第7回 生理と病理：生体物質と神 気の病理 第8回 生理と病理：生体物質と神 気の病理 第9回 生理と病理：生体物質と神 血の生理 第10回 生理と病理：生体物質と神 血の生理・病理 第11回 生理と病理：生体物質と神 津液の生理・病理 第12回 生理と病理：生体物質と神 生体物質の相互関係 第13回 生理と病理：生体物質と神 生体物質の相互関係、神の生理 第14回 生理と病理：生体物質と神 神の生理・病理 第15回 生理と病理：生体物質と神 陰陽の生理・病理													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「新版 東洋医学概論」								参考書 なし					
14 学生への要望 東洋医学を初めて学ぶ者にとって、精・気・血・津液など理解しづらいことが多く存在する。まずは興味を持つことから始め、また将来の臨床に生かすため、それらの機能や病理を論理的に学習する必要がある。													

東洋医学概論Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期		1		30		必須		東郷 俊宏 久保 昌紀
8 授業の概要 東洋医学の概念のうち、五臓六腑について学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 五臓六腑の正常な働きとその病理・病証を理解できる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 五臓の生理と病理、関連領域、六腑の生理と病理を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理ができ、欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第1回 蔵象：蔵象学説、五臓とその機能に関連した領域 肝系統 1 第2回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肝系統 2 第3回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肝系統 3 第4回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肝系統 4 第5回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 心系統 1 第6回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 心系統 2 第7回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 心系統 3 第8回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 脾系統 1 第9回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 脾系統 2 第10回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 脾系統 3 第11回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肺系統 1 第12回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肺系統 2 第13回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 肺系統 3、腎系統 1 第14回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 腎系統 2 第15回 蔵象：五臓とその機能に関連した領域 腎系統 3、三焦													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「新版 東洋医学概論」								参考書 なし					
14 学生への要望 東洋医学を初めて学ぶ者にとって、五臓六腑など理解しづらいことが多く存在する。まずは興味を持つことから始め、また将来の臨床に生かすため、それらの機能や病理を論理的に学習する必要がある。													

東洋医学概論Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		堤野 孟
8 授業の概要													
病因病機や東洋医学的な診察方法を学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1 年で学習した内容をふまえ、弁証に必要な病因病機を理解する。													
経絡経穴概論の流注から経脈病証を理解する。													
東洋医学的な診察方法を学習し、臨床実習で必要とさせる基礎知識を身に付ける。													
【行動目標】													
①知識 各臓腑経絡の病証を説明できる。													
②技能 東洋医学的な診断が行える。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 五臓六腑の復習													
第 2 回 五臓の相互関係 1													
第 3 回 五臓の相互関係 2													
第 4 回 六腑の協調関係、気機の相互関係													
第 5 回 経絡													
第 6 回 経絡 経脈病証													
第 7 回 病因病機 外感病因 1													
第 8 回 病因病機 外感病因 2													
第 9 回 病因病機 内傷病因													
第 10 回 東洋医学と哲学 1 陰陽学説													
第 11 回 東洋医学と哲学 2 五行学説													
第 12 回 四診 望診 神色形態													
第 13 回 四診 望診 舌診													
第 14 回 聞診 1													
第 15 回 聞診 2													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験により評価する													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する													
13 教科書													
「新版 東洋医学概論」 医道の日本社													
参考書													
適宜紹介する													
14 学生への要望													
一年次から連続した内容であるため、学んだことをもう一度よく復習して授業に臨むこと。													

東洋医学概論Ⅳ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		堤野 孟
8 授業の概要													
病因病機や東洋医学的な診察方法を学習する。													
事前に配布されたプリントを授業までに各自で学習することで、授業での理解をより深める。													
9 到達目標													
【一般目標】													
東洋医学的な診察方法を学習し、臨床実習に必要な基礎知識を身に付ける。													
学習した内容を適用し、弁証論治に役立てる。													
【行動目標】													
①知識 四診法の意義を説明できる。													
各臓腑経絡の病証を説明できる。													
②技能 東洋医学的な診断を行える。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 問診 寒熱、飲食、睡眠、二便													
第2回 問診 身体各部の症状、汗、疼痛													
第3回 切診 寸口脈診													
第4回 切診 脈状診													
第5回 切診 比較脈診													
第6回 切診 腹診、四診合参													
第7回 弁証論治 八綱弁証、気血津液弁証													
第8回 弁証論治 臓腑弁証													
第9回 弁証論治 六経弁証、標本													
第10回 弁証論治 治法													
第11回 弁証論治 治療法の概要 補瀉													
第12回 弁証論治 治療法の概要 刺法													
第13回 弁証論治 治療法の概要 刺法													
第14回 弁証論治 弁証論治の進め方と証の決定													
第15回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験により評価する													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する													
13 教科書													
「新版 東洋医学概論」 医道の日本社													
参考書													
適宜紹介する													
14 学生への要望													
臓腑の生理・病理を踏まえたうえでの診察方法の学習である。東洋医学臨床論とも繋がる重要な範囲であるため、他の科目も意識しながら学習すること。													

はりきゅう理論Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		伊ヶ崎 克己
8 授業の概要													
はり施術及びきゅう施術で用いる器材、技術、衛生的処置などについて述べることができる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①はり・きゅう施術で用いる基材の構造や特徴、材料、一般的方式や術式、特殊技術を理解する。													
②はり・きゅう施術で生じやすい感染、傷害、折鍼、副作用などのリスクを理解する。													
③当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 はり・きゅう施術で用いる基材の構造や特徴、材料を説明できる。													
はり・きゅう施術の一般的方式や術式、さらには特殊技術について説明できる。													
はり・きゅう施術で生じやすい感染、傷害、折鍼、副作用などのリスクについて説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 概論 （授業の進め方、はり施術・きゅう施術の意義、特徴）													
第2回 鍼の基礎知識													
第3回 古代九鍼													
第4回 刺鍼の方式													
第5回 刺鍼の術式 1													
第6回 刺鍼の術式 2													
第7回 特殊鍼法 1													
第8回 特殊鍼法 2													
第9回 灸の基礎知識													
第10回 灸の施術法													
第11回 鍼灸の臨床応用 1													
第12回 鍼灸の臨床応用 2													
第13回 リスク管理 1 （鍼療法）													
第14回 リスク管理 2 （灸療法）													
第15回 リスク管理 3 （感染症対策など）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「はりきゅう理論」													
参考書													
特になし													
14 学生への要望													
・講義は教科書の内容に沿った配布プリントを中心に進めるが、必ず、教科書の予習・復習を行うこと。													
・講義で学ぶ知識を実技で確認すること。													
・はり・きゅう施術についての知識を患者に説明できるように理解すること。													

はりきゅう理論Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3 学年	前期	1	30	必須	榎田 和敏
8 授業の概要						
はり師、きゅう師として必要な鍼灸施術の科学的解釈の状況を鑑み、現時点でおおよそ認知されている内容を理解する。						
9 到達目標						
【一般目標】						
鍼灸による物理的な刺激が、生体にどのような機序で影響を及ぼすかを基礎医学の観点から理解する。						
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。						
【行動目標】						
①知識	解剖生理学の観点から、鍼灸治効の基礎について説明できる。					
	神経系・内分泌系・免疫系の観点から、鍼灸療法の一般的治効理論について説明できる。					
②技能	自主的に学習することができる。					
③態度	正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。					
10 授 業 計 画						
第 1 回	鍼灸治効の基礎	(イントロダクション／痛みの種類)				
第 2 回	鍼灸治効の基礎	(痛覚受容器の種類と特徴／内因性発痛物質)				
第 3 回	鍼灸治効の基礎	(求心性神経線維の種類と特徴)				
第 4 回	鍼灸治効の基礎	(痛覚投射部位／熱痛の発生と特徴／関連痛／温度感覚の受容と伝達／触圧感覚の受容と伝達／筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導)				
第 5 回	鍼灸治効と基礎	(鍼灸刺激と反射)				
第 6 回	鍼灸治効と基礎	(鍼麻酔／鍼鎮痛前半)				
第 7 回	鍼灸治効と基礎	(鍼鎮痛後半)				
第 8 回	鍼灸治効と基礎	(鍼鎮痛後半／刺激と反応)				
第 9 回	鍼灸療法の一般治効理論	(自律神経の概要／自律神経系の化学的伝達と受容体)				
第 10 回	鍼灸療法の一般治効理論	(自律神経系の生理的機能／血管の自律神経調節機序／鍼の血流に及ぼす影響前半)				
第 11 回	鍼灸療法の一般治効理論	(鍼の血流に及ぼす影響後半／鍼灸刺激とポリモーダル受容器／灸療法と炎症)				
第 12 回	鍼灸療法の一般治効理論	(炎症反応と各種メディエーター／鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響)				
第 13 回	鍼灸療法の一般治効理論／関連学説	(鍼刺激による免疫系への影響／鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用／サイバネティックスの学説)				
第 14 回	関連学説	(ホメオスタシス／ストレス学説前半)				
第 15 回	関連学説	(ストレス学説後半／レイリー現象／圧発汗反射の学説)				
11 学習方法						
講義						
12 評価方法						
①知識	定期試験にて評価する。					
②技能	授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。					
③態度	出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。					
13 教科書				参考書		
「はりきゅう理論」				特に指定しない。		
				必要に応じて適宜参考プリントを配布する。		
14 学生への要望						
最低限1・2年生で学習した解剖生理学の知識があることを前提として授業を進める。留意のこと。						

東洋医学臨床論Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		大網 直人
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成について理解する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把握および治療計画について説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長できる。													
10 授 業 計 画 第1回 治療原則（現代医学的治効理論と東洋医学的治効理論） 第2回 頸肩腕痛 1（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア） 第3回 頸肩腕痛 2（頸肩腕痛、外傷性頸部症候群） 第4回 上肢痛（胸郭出口症候群） 第5回 肩凝り 1 第6回 肩凝り 2 第7回 肩凝り 3 第8回 腰下肢 1（変形性腰椎症、腰椎椎間板ヘルニア） 第9回 腰下肢 2（椎間関節性腰痛、腰椎分離・すべり症、仙腸関節炎） 第10回 腰下肢 3（脊柱管狭窄症、根性坐骨神経痛、梨状筋症候群） 第11回 膝痛 1（膝蓋軟骨軟化症、離断性骨軟骨炎、タナ障害、弾発膝、ペーカー嚢腫） 第12回 膝痛 2（変形性膝関節症）、股関節痛（変形性股関節症、先天性股関節亜脱臼） 第13回 肩関節痛（肩関節周囲炎、棘上筋腱板炎、上腕二頭筋長頭腱炎、肩関節拘縮） 第14回 運動麻痺 1 上肢（橈骨神経麻痺、正中神経麻痺、尺骨神経麻痺） 下肢（総腓骨神経麻痺、脛骨神経麻痺） 第15回 運動麻痺 2 脳血管障害後遺症													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」								参考書 「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」文光堂 「針灸学〔臨床編〕」東洋学術出版社					
14 学生への要望 東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎概念の復習をして下さい。													

東洋医学臨床論Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		大綱 直人
8 授業の概要													
東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成について理解する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把握および治療計画について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。													
正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣を身につける。													
担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 便秘と下痢 1													
(弛緩性・痙攣性・直腸性)慢性便秘、イレウス、便秘の病証（気秘、虚秘、熱秘、冷秘、血虚、陰虚）													
第 2 回 便秘と下痢 2													
便秘の病証（気秘、虚秘、熱秘、冷秘、陰虚）、下痢（浸透圧性・滲出性・分泌性、腸管運動異常）													
第 3 回 便秘と下痢 3													
過敏性腸症候群、下血、下痢の病証（寒湿、湿熱、食滞、肝脾不和、腎陽虚）													
第 4 回 咳嗽 1													
湿性・乾性咳、喀痰・喀血、病証（風寒、風熱、痰湿、痰熱、肝火、肺陰虚、肺気虚）													
第 5 回 咳嗽 2													
病証（風寒、風熱、痰湿、痰熱、肝火、肺陰虚、肺気虚）													
第 6 回 喘息													
病証（風寒、痰熱、肺気虚、脾気虚、腎気虚）													
第 7 回 腹痛 1													
胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃脘痛（寒邪、食滞、肝鬱、脾胃虚寒）													
第 8 回 腹痛 2													
クローン病、潰瘍性大腸炎、下腹部痛の病証（寒邪、食滞、肝鬱、脾陽虚）													
第 9 回 悪心・嘔吐													
中枢性・末梢性の嘔吐 急性・慢性胃炎 病証 {外邪 食滞 肝鬱 痰飲 脾胃虚弱 胃陰虚}													
第 10 回 月経困難 1													
月経前症候群、月経困難症 経早の病証（鬱熱、実熱、虚熱、気虚）													
第 11 回 月経困難 2													
不正性器出血、子宮内膜症、子宮筋腫、経遅の病証（実寒、虚寒、肝鬱、血虚）													
第 12 回 月経異常 3													
性周期療法、基礎体温グラフ、経乱の病証（腎虚、肝鬱）													
第 13 回 食欲不振													
胃神経症、神経性食欲不振症、病証（肝胃不和、脾胃湿熱、食滞、胃陰虚、脾胃虚弱）													
第 14 回 肥満とやせ 1													
単純・症候性肥満、肥満症の病証（気虚、痰湿）													
第 15 回 肥満とやせ 2													
やせ（精神・消化器・消耗性・内分泌疾患）、やせの病証（脾胃虚弱、気血両虚）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」													
参考書													
「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」文光堂													
「針灸学〔臨床編〕」東洋学術出版社													
14 学生への要望													
東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎の復習を徹底して下さい。													

東洋医学臨床論Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		大網 直人
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の視点で様々な症候・疾患にアプローチできる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の視点で説明できる。 ②技能 自ら進んで授業に参加できる。 ③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画 第 1 回 発疹（含むアトピー性皮膚炎） 第 2 回 胸痛・胸水・動悸 第 3 回 動悸 第 4 回 不妊（不育症 1） 第 5 回 不妊（不育症 2） 第 6 回 排尿障害・乏尿 第 7 回 無尿・浮腫 第 8 回 インポテンツ 第 9 回 発熱 第 10 回 口渇 第 11 回 易感染 第 12 回 小児の症状 1 第 13 回 小児の症状 2 第 14 回 まとめ 第 15 回 まとめ													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 筆記試験にて評価する。 ②技能 課題または成果物の提出（未提出の場合は評価を減点する場合がある。） ③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点することもある。）													
13 教科書 参考書 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 なし													
14 学生への要望 積極的に参加すること。													

東洋医学臨床論Ⅳ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		久保 昌紀
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に定めた症候・疾患について東西両医学の視点で様々な症候・疾患にアプローチできる。 【行動目標】 ①知識 授業計画に記した項目について説明できる。 ②技能 自ら進んで授業に参加できる。 ③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画 第 1 回 診断と治療 第 2 回 診察と記録 第 3 回 施術の基礎 第 4 回 症候に対する東西両医学からのアプローチ 1 第 5 回 症候に対する東西両医学からのアプローチ 2 第 6 回 症候に対する東西両医学からのアプローチ 3 第 7 回 症候に対する東西両医学からのアプローチ 4 第 8 回 疾患に対する東西両医学からのアプローチ 1 第 9 回 疾患に対する東西両医学からのアプローチ 2 第 10 回 疾患に対する東西両医学からのアプローチ 3 第 11 回 疾患に対する東西両医学からのアプローチ 4 第 12 回 高齢者に対する鍼灸施術 第 13 回 スポーツ領域における鍼灸施術 第 14 回 産業衛生における鍼灸施術 第 15 回 健康と鍼灸治療													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 筆記試験にて評価する。 ②技能 課題または成果物の提出（未提出の場合は評価を減点する場合がある。） ③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点することもある。）													
13 教科書 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」								参考書 なし					
14 学生への要望 積極的に参加すること。													

はりきゅうの適応 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		松木 宣嘉
8 授業の概要													
東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。 あはき臨床で遭遇する様々な愁訴を観察し、その適否を鑑別するための基礎を養う。													
9 到達目標													
【一般目標】 鍼灸臨床に必要な鑑別と施術計画の作成ができる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 鍼灸適応可否の鑑別、病態把および治療計画について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる													
10 授 業 計 画													
第 1 回 頭痛 1 現代医学的な考え方（一次性頭痛、二次性頭痛）													
第 2 回 頭痛 2 東洋医学的な考え方（風寒、風熱、風湿、肝陽亢進、痰濁、瘀血、腎虚、気血両虚）													
第 3 回 顔面痛 1 現代医学的な考え方（三叉神経痛、舌咽神経痛、帯状疱疹後神経痛、ラムゼイ・ハント症候群、非定型顔面痛など）													
第 4 回 顔面痛 2 東洋医学的な考え方（風寒、肝火、胃火、陰虚）													
第 5 回 顔面神経麻痺 1 現代医学的な考え方（中枢性顔面神経麻痺、末梢性顔面神経麻痺）													
第 6 回 顔面神経麻痺 2 東洋医学な考え方 （風寒、風熱、風湿、胃火上炎、肝火上炎・肝胆火逆、気血両虚、瘀血阻絡）													
第 7 回 歯痛 現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方（風火、風寒、胃火、虚火）													
第 8 回 眼精疲労 現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方（肝血虚、肝腎陰虚）													
第 9 回 鼻汁・鼻閉 1 現代医学的な考え方（アレルギー性鼻炎、急性鼻炎、慢性鼻炎、慢性副鼻腔炎など）													
第 10 回 鼻汁・鼻閉 2 東洋医学的な考え方 （風寒犯肺、風熱犯肺、痰湿阻肺、肺経鬱熱、肝胆鬱熱、肺気虚、脾虚湿盛）													
第 11 回 脱毛 現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方（血熱、瘀血、気血両虚、肝腎陰虚）													
第 12 回 眩暈 1 現代医学的な考え方（末梢性めまい、中枢性めまい）													
第 13 回 眩暈 2 東洋医学的な考え方（肝陽亢進、痰濁、気血両虚、腎精不足）													
第 14 回 耳鳴・難聴 1 現代医学的な考え方（メニエール病、突発性難聴など）													
第 15 回 耳鳴・難聴 2 東洋医学的な考え方（肝火上炎、痰火鬱結、腎精不足、脾胃虚弱、風熱侵襲・風寒化熱）													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」													
参考書													
「図解鍼灸療法技術ガイド ― 鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべてⅠ・Ⅱ」文光堂													
「針灸学〔臨床編〕」東洋学術出版社													
14 学生への要望													
東洋医学概論、経絡経穴概論の基礎知識なくしてこの科目を修得するのは困難です。基礎概念の復習をして下さい。													

はりきゅうの適応Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	後期	1	30	必須	小泉 博幸
8 授業の概要 東洋医学概論で学んだ知識を更に深め、基礎概念を臨床に応用できるよう学習する。 あはき臨床で遭遇する様々な愁訴を観察し、その適否を鑑別するための基礎を養う。						
9 到達目標 【一般目標】 授業計画に記した症候や疾患について、現代医学・伝統医学的観点から概要・成因・診断・治療・経過と予後について学び、はりきゅうの適否を判断する上で必要な知識を養う。 【行動目標】 ①知識 スポーツ外傷、老年、鎮痛剤・向精神薬について説明できる。 血圧異常、不眠、倦怠、のぼせ、精神疾患、関節リウマチについて説明できる。 ②技能 当該授業に関するメモやノート、資料をまとめ提出できる。 ③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。(万欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。) 教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長できる。						
10 授 業 計 画 第1回 不眠 第2回 疲労と倦怠 第3回 のぼせと冷え（更年期障害） 第4回 関節リウマチ 第5回 血圧異常 第6回 精神疾患（統合失調症、うつ病、パニック障害、双極性障害、脅迫性障害、適応障害など） 第7回 薬物療法（NSAIDs、向精神薬、ステロイド剤、降圧剤） 第8回 スポーツ外傷・障害1（整形外科：頭頸部・体幹） 第9回 スポーツ外傷・障害2（整形外科：上肢） 第10回 スポーツ外傷・障害3（整形外科：下肢） 第11回 スポーツ外傷・障害4（内科、婦人科、循環器、熱中症） 第12回 老年医学（高齢者の特徴） 第13回 老年医学（認知症） 第14回 予備学習1 第15回 予備学習2						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 筆記試験 ②技能 課題を提出することで評価を有効とする。 ③態度 無断欠席等について減点することがある。						
13 教科書 「東洋医学臨床論」「臨床医学総論」「臨床医学各論」 「図解鍼灸療法技術ガイド ― 鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべてⅠ・Ⅱ」						
参考書 「鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法」東洋療法学 校協会スポーツ東洋療法研究委員会						
14 学生への要望 授業計画に記した疾患やトラブルは”はりきゅう”臨床現場において遭遇する頻度が多い。いずれの項目にも関心を示し、生涯新しい情報をアップデートするための礎にしてほしい。 本校の学習支援サイト e-459 を用いた自学自習を推奨する。						

病態生理学 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である感染症、消化管疾患の病態生理について学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な感染症、消化管疾患の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第 1 回 感染症 1 総論、細菌感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風） 第 2 回 感染症 2 細菌感染症（ブドウ球菌感染症、細菌性食中毒、細菌性赤痢、コレラ） 第 3 回 感染症 3 細菌感染症（腸チフス・パラチフス） ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎） 第 4 回 感染症 4 ウイルス感染症（単純ヘルペス感染症、水痘・带状疱疹、重症急性呼吸器症候群 SARS） 性感染症（梅毒、淋病） 第 5 回 感染症 5 性感染症（性器クラミジア感染症、エイズ） 消化管疾患 1 総論 第 6 回 消化管疾患 2 口腔疾患（歯周病、顎関節症、その他の口腔疾患） 第 7 回 消化管疾患 4 口腔疾患（その他の口腔疾患）、食道疾患（食道癌） 第 8 回 消化管疾患 4 食道疾患（食道炎・食道潰瘍、その他の食道疾患） 第 9 回 消化管疾患 5 胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍） 第 10 回 消化管疾患 6 胃・十二指腸疾患（胃癌、その他の胃・十二指腸疾患） 第 11 回 消化管疾患 7 腸疾患（急性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病） 第 12 回 消化管疾患 8 腸疾患（過敏性腸症候群（IBS）、虫垂炎、大腸癌） 第 13 回 消化管疾患 9 腸疾患（腸閉塞、その他の腸疾患） 第 14 回 消化管疾患 10 腹膜疾患（急性腹膜炎、結核性腹膜炎、癌性腹膜炎） 第 15 回 まとめ（復習）													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「臨床医学各論」 第 2 版 参考書 なし													
14 学生への要望 教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

病態生理学Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である肝胆膵疾患、呼吸器疾患の病態生理について学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 あはき臨床に必要な肝胆膵疾患、呼吸器疾患の知識を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 取り扱う疾患の病態生理、疫学、症状、診断、治療、予後を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 授業での学びをまとめ、整理できる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第 1 回 肝臓疾患 1 総論、急性肝炎 第 2 回 肝臓疾患 2 慢性肝炎、薬物性肝障害、アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH など） 第 3 回 肝臓疾患 3 肝硬変、肝癌、肝血管腫 第 4 回 肝臓疾患 4 その他の肝疾患 胆道疾患 1 胆石・胆嚢炎 第 5 回 胆道疾患 2 胆嚢癌・総胆管癌、その他の胆嚢疾患 第 6 回 膵臓疾患 1 総論、急性膵炎 第 7 回 膵臓疾患 2 慢性膵炎、膵癌 第 8 回 呼吸器疾患 1 総論、感染性呼吸器疾患（上気道炎） 第 9 回 呼吸器疾患 2 感染性呼吸器疾患（急性気管支炎、肺炎、肺結核） 第 10 回 呼吸器疾患 3 閉塞性呼吸器疾患（肺気腫、慢性気管支炎） 第 11 回 呼吸器疾患 4 閉塞性呼吸器疾患（気管支喘息） 拘束性呼吸器疾患（特発性肺線維症） 第 12 回 呼吸器疾患 4 その他の呼吸器疾患（気胸、肺癌、悪性中皮腫） 第 13 回 呼吸器疾患 5 その他の呼吸器疾患（気管支拡張症、過換気症候群、肺動脈血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群、急性呼吸促迫症候群） 第 14 回 まとめ（復習） 1 第 15 回 まとめ（復習） 2													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「臨床医学各論」 第 2 版 参考書 なし													
14 学生への要望 教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

病態生理学Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		前期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である神経疾患の病態生理についての講義を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
あはき臨床に必要な神経疾患の知識を習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 脳血管疾患について説明できる。													
感染性疾患、脳・脊髄腫瘍について説明できる。													
変性疾患、認知症性疾患について説明できる。													
筋疾患、末梢神経疾患、神経痛などについてについて説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由がない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 神経疾患 1 総論													
第 2 回 神経疾患 2 脳血管疾患（脳塞栓、脳血栓、一過性脳虚血発作）													
第 3 回 神経疾患 3 脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血）、感染性疾患（髄膜炎）													
第 4 回 神経疾患 4 感染性疾患（神経梅毒、ポリオ）、脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍）													
第 5 回 神経疾患 5 脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍・脊髄腫瘍）、基底核変性疾患（パーキンソン病）													
第 6 回 神経疾患 6 基底核変性疾患（ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、ウィルソン病）													
第 7 回 神経疾患 7 その他の変性疾患（脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺）													
第 8 回 神経疾患 8 認知症性疾患（アルツハイマー病、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、ピック病）													
第 9 回 神経疾患 9 筋疾患（重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー）、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）													
第 10 回 神経疾患 10 末梢神経疾患（ギランバレー症候群、圧迫性および絞扼性ニューロパチー）													
第 11 回 神経疾患 11 末梢神経疾患（ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群）													
第 12 回 神経疾患 12 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛）													
第 13 回 神経疾患 13 機能性頭痛（緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛）													
第 14 回 まとめ（復習） 1													
第 15 回 まとめ（復習） 2													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 授業や定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね、評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「臨床医学各論」 第 2 版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

病態生理学Ⅳ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門基礎		3 学年		後期		1		30		必須		鎌倉 素子
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な知識である小児科・外科・麻酔科・婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻科・精神科・心療内科疾患の病態生理についての講義を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
あはき臨床に必要な小児科・外科・麻酔科・婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻科・精神科・心療内科疾患の病態生理の知識を習得する。													
当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 小児科疾患・一般外科について説明できる。													
麻酔科・婦人科疾患・皮膚科疾患について説明できる。													
眼科疾患・耳鼻科疾患について説明できる。													
精神科疾患・心療内科について説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由がない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 小児科疾患：小児神経症、小児夜尿症													
第 2 回 一般外科 1 損傷概論、熱傷、凍瘡、凍傷													
第 3 回 一般外科 2 ショック、外科的感染症、救急処置、心肺蘇生法													
第 4 回 麻酔科：全身麻酔、局所麻酔													
第 5 回 婦人科疾患 1 月経困難症、月経前症候群、子宮内膜症、子宮頸癌、子宮体癌													
第 6 回 婦人科疾患 2 乳癌、更年期障害、月経異常													
第 7 回 皮膚科疾患 接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、じんま疹、円形脱毛症													
第 8 回 眼科疾患 1 結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障													
第 9 回 眼科疾患 2 緑内障、眼精疲労、飛蚊症、加齢黄斑変性症													
第 10 回 耳鼻科疾患 1 メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎													
第 11 回 耳鼻科疾患 2 扁桃炎・扁桃周囲炎、声帯ポリープ、咽頭癌、喉頭癌													
第 12 回 精神科疾患 1 心身症、統合失調症、うつ病													
第 13 回 精神科疾患 2 てんかん、不眠症、アルコール依存症、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）PTSD													
第 14 回 心療内科：摂食障害（神経性食欲不振症、過食症）													
第 15 回 まとめ													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
① 知識 定期試験にて評価する。													
② 技能 授業や定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね、評価する。													
③ 態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「臨床医学各論」 第 2 版													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
教科書を必ず読み、分からない箇所は自身で調べる習慣をつけること。													

生体観察

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		杉本 良子
8 授業の概要													
医療者として、患者の全体像を把握する能力と局所の身体所見の診察と検査法の意義・陽性所見を理解する。 また、ペアでの演習や診察道具を使用することで体をつかって理解する。													
9 到達目標													
【一般目標】 授業計画に掲げた検査法を理解する。 検査法に理解を深め、患者の病態把握に必要な力を養う。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。													
【行動目標】													
①知識 患者の全体像を把握するための検査法の意義、陽性所見を説明できる。													
②技能 自主的に学習することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 整形外科的検査法 1（頸部・胸部・肩関節の検査法）													
第 2 回 整形外科的検査法 2（腰・下肢の検査法）													
第 3 回 整形外科的検査法 3（股関節・膝関節の検査法）													
第 4 回 感覚検査法（表在性・深部・複合感覚など）													
第 5 回 反射検査 1（粘膜・皮膚・深部反射など）													
第 6 回 反射検査 2（自律神経・病的反射など）													
第 7 回 局所の診察（肺・胸膜・心臓）													
第 8 回 腹部の診察（皮膚線条、腹壁静脈の怒張、圧痛点など）													
第 9 回 腹部・背部の診察（筋性防御、腹水、側弯の分類など）													
第 10 回 上肢の診察（上肢の変形、下垂手、くも状指など）													
第 11 回 下肢の診察（膝 OA、尖足、外反母趾など）													
第 12 回 脳神経系の検査 1（第Ⅰ～Ⅵ脳神経）													
第 13 回 脳神経系の検査 2（第Ⅶ～Ⅻ脳神経）													
第 14 回 髄膜刺激症状の検査													
運動機能検査 1（錐体路系、錐体外路系障害など）													
第 15 回 運動機能検査 2（筋肉の異常、不随意運動、協調運動など）													
11 学習方法													
講義、演習（授業開始時に前回までの確認問題を行う。）													
12 評価方法													
①知識 定期試験によって評価する。													
②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「臨床医学総論」第 2 版													
参考書													
「診察と手技がみえる vol.1」第 2 版 メディックメディア													
14 学生への要望													
授業はスライドを用いて解説する形で行っていきます。													
検査法は各種名称を数多く憶えなくてはなりません。授業には集中力を持って臨んで下さい。また知識を定着させるには講義外での学習が重要となります。各自で教科書や参考書を基に調べるなど予習・復習をすること。													
授業で血圧計、音叉、ペンライト、打鍵器などを使用するので、丁寧に扱い学習に励むこと。													

基礎はり実技Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		杉本 良子（はき師） 堤野 孟（はき師）
8 授業の概要													
施術所において業務歴のあるはき師の見地から、基礎はり技術について教授する。													
医療者としての身だしなみや衛生管理を身につける。													
鍼の基本技術を習得するため刺鍼練習器や自身の身体に刺鍼練習を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
はり師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身につけることができる。													
【行動目標】													
①知識	臨床家としての身だしなみ、衛生管理の重要性を説明できる。												
	鍼道具の使い方、刺鍼の一連の流れを説明できる。												
②技能	片手挿管（12 回/分）と自身・他者への無痛切皮ができる。												
	自身の下腿に銀鍼（直刺 1cm 旋撚刺法）と硬鍼（直刺 1cm 送り込み刺法）の 3 本を 4 分以内にできる。												
③態度	正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。												
10 授 業 計 画													
第 1 回	オリエンテーション（前期の目標、道具の確認など）、手洗い、角度計・深度計作成												
第 2 回	片手挿管、刺鍼の一連の流れ（消毒、前揉撚、押手、刺手、弾入・切皮、抜鍼、後揉撚、消毒） オートクレープの使い方												
第 3 回	片手挿管、送り込み刺法（刺鍼練習台 硬鍼寸 6/寸 3 直刺 1cm）												
第 4 回	片手挿管、旋撚刺法（刺鍼練習台 銀鍼 直刺 1cm）												
第 5 回	片手挿管、送り込み・旋撚刺法（刺鍼練習台 1～6 硬鍼/銀鍼 直刺 1cm）、堅もの通し												
第 6 回	自身（下腿）への無痛切皮（消毒、前揉撚、押手、刺手、弾入・切皮、抜鍼、後揉撚、消毒）												
第 7 回	自身（下腿）への送り込み刺法（硬鍼寸 6/寸 3 直刺 1cm）												
第 8 回	自身（下腿）への旋撚刺法（銀鍼 直刺 1cm）												
第 9 回	自身（下腿）への送り込み・旋撚刺法（硬鍼/銀鍼 直刺 1cm）												
第 10 回	他者（前腕部）への消毒、無痛切皮（硬鍼/銀鍼 1 人 20 分）												
第 11 回	片手挿管の試験（12 回/分）												
第 12 回	自身（下腿）への送り込み・旋撚刺法（硬鍼/銀鍼 直刺 1cm）												
第 13 回	自身（下腿）への送り込み・旋撚刺法（硬鍼/銀鍼 直刺 1cm タイム測定）												
第 14 回	自身（下腿）への送り込み・旋撚刺法（硬鍼/銀鍼 直刺 1cm 3 本 4 分以内タイム測定）												
第 15 回	人体刺鍼の試験												
11 学習方法													
実技													
履修内容別に指導教員によるデモンストレーションおよび各自の実技演習（2 人 1 組による実技演習含む）を行う。													
毎授業の初めに指の運動、片手挿管の測定を行う。													
12 評価方法													
①知識	授業にて評価する。												
②技能	実技試験にて評価する。												
③態度	身だしなみ、出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。												
13 教科書													
参考書													
「はりきゅう実技〈基礎編〉」 第 2 版													
「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版													
14 学生への要望													
持ち物：鍼道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル													
・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。													
・授業終了 5 分前に実技室の掃除をするのでクラスで協力して行うこと。													
・授業で行う指の運動や片手挿管は、刺鍼するうえで重要な動きなので授業外（家など）でも練習をすること。													

基礎はり実技Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期		1		30		必須		杉本 良子（はき師） 堤野 孟（はき師）
8 授業の概要													
施術所において業務歴のあるはき師の見地から、基礎はり技術について教授する。													
医療者としての身だしなみや衛生管理を身につける。													
鍼の基本技術を習得するため刺鍼練習器や自身と他者の身体に刺鍼練習を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
はり師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身につけることができる。													
【行動目標】													
①知識	臨床家としての身だしなみ、衛生管理の重要性を説明できる。												
	鍼道具の使い方、刺鍼の一連の流れを説明できる。												
②技能	他者の身体に銀鍼（斜刺 1cm 旋撚刺法）と硬鍼（直刺・水平刺 1cm 送り込み刺法）の 6 本を 5 分以内にできる。												
③態度	正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。												
10 授 業 計 画													
第 1 回	オリエンテーション（後期の目標など）、前期の復習（片手挿管、刺鍼練習器・自身の下腿への直刺 1cm） 相手の前腕陽経に切皮練習												
第 2 回	斜刺の旋撚刺法（刺鍼練習台 1～6 銀鍼 斜刺 1cm） 相手の前腕陽経に直刺 1cm 刺入（硬鍼寸 3-1）												
第 3 回	水平刺（横刺）の送り込み刺法（刺鍼練習台 1～6 硬鍼寸 6/寸 3 水平刺 1cm） 相手の前腕陽経に直刺 1cm 刺入（銀鍼寸 6-2）												
第 4 回	自身と他者（下腿）への刺鍼（硬鍼 送り込み刺法 水平刺 1cm・銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm）												
第 5 回	他者（下腿後面）への直刺（銀鍼/硬鍼寸 6・寸 3 直刺 1cm、硬鍼 送り込み刺法 水平刺 1cm・銀鍼 旋撚 刺法 斜刺 1cm）												
第 6 回	他者（腰部）への刺鍼（硬鍼寸 3 送り込み刺法 直刺 1cm）												
第 7 回	他者（腰部）への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm・硬鍼寸 3/寸 6 送り込み刺法 直刺 1cm）												
第 8 回	他者（腰部）への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm・硬鍼 送り込み刺法 直刺・水平刺 1cm）												
第 9 回	片手挿管の試験（12 回/分）												
第 10 回	他者（腰部）への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm・硬鍼 送り込み刺法 直刺・水平刺 1cm タイム測定）												
第 11 回	他者（腰部）への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm・硬鍼 送り込み刺法 直刺・水平刺 1cm タイム測定）												
第 12 回	他者（腰部）への刺鍼（銀鍼 旋撚刺法 斜刺 1cm・硬鍼 送り込み刺法 直刺・水平刺 1cm タイム測定）												
第 13 回	人体刺鍼の試験												
第 14 回	人体刺鍼の試験												
第 15 回	人体への円皮鍼・皮内鍼												
11 学習方法													
実技													
履修内容別に指導教員によるデモンストレーションおよび各自の実技演習（2 人 1 組による実技演習含む）を行う。													
毎授業の初めに指の運動、片手挿管の測定を行う。													
12 評価方法													
①知識	定期試験にて評価する。												
②技能	授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。												
③態度	身だしなみ、出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。												
13 教科書													
「はりきゅう実技〈基礎編〉」 第 2 版													
参考書													
「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版													
14 学生への要望													
持ち物：鍼道具、教科書、筆記用具、指定のバスタオル													
・実技中は無駄な私語は慎み、教員の指示以外の事は事故に繋がる恐れがあるので行わないこと。													
・授業終了 5 分前に実技室の掃除をするのでクラスで協力して行うこと。													
・授業で行う指の運動や片手挿管は、刺鍼するうえで重要な動きなので授業外（家など）でも練習をすること。													

基礎きゅう実技Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1 学年	前期	1	30	必須	久保 昌紀（はき師） 渡辺 冨夏（はき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、きゅう師に必要な基礎知識と基本技術、施術を能力・態度について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 灸師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ心地よいお灸を確実にできる能力・態度を養う。 当該科目を実践することの重要性や知識、楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 手洗い・消毒法・タオルワーク・危険行為に関する注意点を列挙できる。 ②技能 灸の種類、使い方を理解し、施灸〔こより、すえる、点火（線香を持つ、灰をはらう、点火）〕の一連の流れを身に付ける。 米粒大の透熱灸が正確にすえることができる。竹の上に3点3壮を3分間で15壮以上できる。 温灸、隔物灸についても体験し、施灸できるように技術の習得、灸の知識を深める。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。 施灸の上達を目標に自主的に練習できる。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション（前期の目標、道具の確認など、米粒大模型作り） 艾をひねる1 艾に触れる（こより作り→棒状灸作り） 第2回 艾をひねる2 大きさをそろえる（米粒大模型を参考に米粒大作り） 第3回 艾をひねる3 艾柱を立てる（タオル、紙など） 第4回 艾をひねる4 艾柱に点火（一連の流れ：線香を持つ、灰を払う、点火を竹の上で点火） 第5回 艾をひねる5 硬い灸・柔らかい灸（竹に貼った紙の上で点火） 第6回 艾をひねる6 柔らかい施灸（竹に貼った紙の上で点火） せんねん灸、カマヤミニ（自身の合谷・足三里へ施灸） 第7回 温灸1 温灸用艾の使用（腰陽関に他者施灸） 第8回 温灸2 温灸用艾を使用（連続施灸を行う。腰陽関と命門に他者施灸） 第9回 隔物灸1 隔物灸（塩灸を神関に他者施灸） 第10回 隔物灸2 隔物灸（味噌灸を大腸俞に他者施灸） 第11回 隔物灸3 隔物灸（しょうが灸を腎俞に他者施灸） 第12回 3点3壮チェック 米粒大の艾柱をすえて点火 第13回 その他の灸 棒灸、押灸（肩・腰に他者施灸） 第14回 竹の上に3点3壮を3分間で15壮以上（タイム測定） 第15回 まとめ						
11 学習方法 実技 履修内容別に指導教員がデモンストレーション：20分 各自の実技演習：30分交代（2人1組での実技演習も含む）を行う。 毎授業の初めに竹への施灸練習（米粒大で3点3壮）を行う。						
12 評価方法 ①知識 授業、実技試験にて実技に関する内容を尋ね評価する。 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「はりきゅう実技〈基礎編〉」 第2版				参考書 「新版 経絡経穴概論」 第2版 「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版		
14 学生への要望 持ち物：灸道具、竹、教科書、ノート、筆記用具、指定のバスタオルなど忘れ物がないようにする。 ＊授業が始まる前に実技ができる状態にセッティングする。 施灸練習をするために、放課後または自宅でする課題を作成するので、時間を作り施灸練習を行うこと。						

基礎きゅう実技Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	1 学年	後期	1	30	必須	久保 昌紀（はき師） 渡辺 冴夏（はき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、きゅう師に必要な基礎知識と基本技術、施術を能力・態度について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 灸師に必要な基礎知識と基本技術を修得し、施術を安全かつ心地よいお灸を確実にできる能力・態度を習得する。 当該科目を実践することの重要性や知識、楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 手洗い・消毒法・タオルワーク・危険行為に関する注意点を列挙できる。 ②技能 前期で習得した米粒大の艾炷を自身へ施灸できる。 前期で習得した米粒大の艾炷を他者へ施灸できる（透熱灸・八分灸）。 様々な部位への施灸を透熱灸と八分灸で行えることができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。 施灸の上達を目標に自主的に練習できる。						
10 授 業 計 画 第1回 火傷について 自身の足底へ米粒大の透熱灸（失眠） 第2回 灸痕化膿について 前回の復習：失眠へ米粒大透熱灸（他者）自身の足底への米粒大の透熱灸（灸点紙）＋緩和法（裏内庭、湧泉） 第3回 八分灸について 竹を使用し八分灸の練習と自身の下腿前面へ八分灸（足三里） 第4回 灸の熱さ・感度 前回の復習：足三里へ八分灸（他者）と自身の下腿外側へ八分灸（陽陵泉） 第5回 灸あたりについて 他者の腰部への施灸（腎俞・大腸俞へ八分灸） 第6回 下肢への施灸 他者の下腿後面へ八分灸（承山・崑崙） 第7回 背部への施灸 他者の背部へ八分灸（身柱・膏肓） 第8回 上肢への施灸 他者の上肢へ八分灸（曲池・外関） 第9回 肩上部への施灸 他者の肩上部へ八分灸（大椎・肩井） 第10回 他者への八分灸をチェック 指導教員（複数人）による八分灸が確実に正確にできるかチェック 第11回 頭部への施灸 他者の頭部へ透熱灸（百会） 第12回 肩部への施灸 他者の肩部へ八分灸（天髎・肩髃・曲垣） 第13回 腹部への施灸 他者の腹部へ八分灸（中脘・天枢） 第14回 他者への施灸 [4分間で八分灸を5壮（タイム測定）] 第15回 まとめ						
11 学習方法 実技 前期と同様に行う。人体・他者の人体への施灸になるため安全に行えるように注意しながら、技術を修得する。						
12 評価方法 ①知識 授業、実技試験にて実技に関する内容を尋ね評価する。 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「はりきゅう実技〈基礎編〉」 第2版			参考書 「新版 経絡経穴概論」第2版 「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版			
14 学生への要望 持ち物：灸道具、竹、教科書、ノート、筆記用具、指定のバスタオルなど忘れ物がないようにする。 ＊授業が始まる前に実技ができる状態にセッティングする。 人体施灸が始まるため、自身または他者への練習を放課後に残って練習を行うこと。 また放課後または自宅でできる課題を引き続き行うので、時間を作り施灸練習を行うこと。						

基礎はりきゅう学演習

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		樫本 栄作(あはき師)
8 授業の概要													
1 年時に履修する基礎医学、基礎はりきゅう学について問題演習を行う。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1 年時に履修する基礎医学・基礎はりきゅう学について、知識を深める。													
【行動目標】													
①知識 1 年時に履修する基礎医学・基礎はりきゅう学に関する問いに説明できる。													
②技能 自主的に学習できる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理ができ、欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 ガイダンス													
はりきゅう実技演習 1													
第 2 回 はりきゅう実技演習 2													
第 3 回 はりきゅう実技演習 3													
第 4 回 形成評価													
第 5 回 はりきゅう実技演習 4													
第 6 回 はりきゅう実技演習 5													
第 7 回 はりきゅう実技演習 6													
第 8 回 形成評価													
第 9 回 はりきゅう実技演習 7													
第 10 回 はりきゅう実技演習 8													
第 11 回 はりきゅう実技演習 9													
第 12 回 はりきゅう実技演習 10													
第 13 回 形成評価													
第 14 回 はりきゅう実技演習 11													
第 15 回 総まとめ													
11 学習方法													
演習													
12 評価方法													
①知識 形成評価と出席率にて評価する。													
②技能 授業にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「経絡経穴概論」「解剖学」「はりきゅう実技〈基礎編〉」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
各科目の復習の時間であるので積極的に取り組むように。													

応用はりきゅう実技 I (身体観察実技)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員	
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		杉本 良子（はき師）	
8 授業の概要														
施術所において業務歴のある（あ）はき師の見地から、理学的検査法について教授する。														
本実習では、主として頭頸部、上肢部、腰下肢部、四肢関節の理学的検査法を学ぶ。														
実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。														
9 到達目標														
【一般目標】														
理学的検査法など各種検査・評価法について、その目的・意義・方法・判定法を理解し正確で安全な検査法・評価法を実践できるようになる。														
【行動目標】														
①知識 理学的検査法など各種検査法・評価法について、その目的・意義・方法・判定法を説明できる。														
②技能 理学的検査法など各種検査法・評価法を自発的に選択し、正確かつ安全に実演できる。														
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。														
10 授 業 計 画														
	第 1 回	頸部の理学的検査法 1 頸部の ROM 測定、筋力検査、反射検査、ジャクソンテスト、スパーリングテスト、イートンテスト												
	第 2 回	頸部の理学的検査法 2 モーリーテスト、アレンテスト、アドソンテスト、エデンテスト、ライトテスト、ルーステスト、頸部の理学的検査法の復習												
	第 3 回	肩と上肢の理学的検査法 1 肩関節の ROM 測定、筋力検査、肩甲上腕リズム、ヤーガソンテスト、スピードテスト、ストレッチテスト												
	第 4 回	肩と上肢の理学的検査法 2 ペインフルアークサイン、ドロップアームテスト、ダウバーンサイン、インピンジメントテスト、下方引下げテスト												
	第 5 回	肩と上肢の理学的検査法 3 上肢の ROM 測定、肘の外反・内反ストレステスト、トムゼンテスト、中指伸展テスト、チェアテスト、ミルテスト												
	第 6 回	肩と上肢の理学的検査法 4 ファレンテスト、ティネル徴候、フローマン徴候、アイヒホッフテスト、肩と上肢の理学的検査法の復習												
	第 7 回	頸部、肩、上肢の理学的検査法の評価												
	第 8 回	腰背部の理学的検査法 1 ROM 測定、FFD、反射検査、腰背部の筋力検査、側弯検査、下肢挙上試験、ブラガードテスト、ラセグテスト、ボンネットテスト												
	第 9 回	腰背部の理学的検査法 2 ケンプテスト、大腿神経伸展テスト、ニュートンテスト、ボンブハンドルテスト、トーマステスト、パトリックテスト、ゲンスレンテスト												
	第 10 回	腰背部の理学的検査法の復習												
	第 11 回	下肢関節の理学的検査法 1 下肢関節の ROM 測定、筋力検査、下肢アライメント、マックマレーテスト、ステインマンテスト、アプレーテスト												
	第 12 回	下肢関節の理学的検査法 2 膝蓋跳動、膝蓋骨圧迫テスト、外反・内反ストレステスト、前方引き出しテスト・後方押し込みテスト、ラックマンテスト、N テスト、グラスピングテスト、トレンデレンブルグ徴候												
	第 13 回	下肢関節の理学的検査法の復習												
	第 14 回	腰背部、下肢関節の理学的検査法の評価												
	第 15 回	主要な運動機能検査 バレー徴候、指鼻試験、上肢回内・回外試験、膝踵試験、振り子様運動、ロンベルグ試験、他												
11 学習方法														
実技、講義とデモンストレーションを実施後、ペアで課題の実践を実施する。														
12 評価方法														
	① 知識	各部位のロールプレイで評価する。												
	② 技能	各部位のロールプレイで評価する。												
	③ 態度	各部位のロールプレイ、授業に於ける課題への取り組み姿勢と出席状況から評価する。												
13 教科書														
	「図解 鍼灸療法技術ガイド I」 出版社 文光堂							参考書						
	「臨床医学総論」 医歯薬出版							なし						
14 学生への要望														
各種検査法・評価法の技能習得には、実践練習が不可欠である。課外でも積極的に練習に励むこと。														

応用はりきゅう実技Ⅱ（弁証配穴刺鍼）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		大網 直人（あはき師）
8 授業の概要													
施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、臨床で良く診る病証の鑑別と弁証配穴の意義と適切な施術方法について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
各病証の病因病機を理解し病証の鑑別が適切にできる。病証に基づいた弁証配穴の意義を理解し適切な配穴と刺鍼手技ができる。													
【行動目標】													
①知識 各病証の病因病機を理解し各病証の鑑別のポイントや配穴の意義を説明できる。													
②技能 配穴の意義を理解し刺鍼順や各配穴に対する刺鍼手技を適切に実践できる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣を身につける。													
正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一次席や遅刻する場合には連絡できる。													
担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回	肝鬱気滯	肝鬱気滯の病証と解説 疏肝理気の実技（太衝、内関、三陰交、膈俞、肝俞）と補瀉手技（提挿補瀉法）											
第 2 回	肝火上炎	肝火上炎の病証と解説 清肝瀉火の実技（行间、膈俞、肝俞、風池、百会）と補瀉手技（捻転補瀉法・提挿補瀉法）											
第 3 回	心肝火旺	心肝火旺の病証と解説 清瀉心肝の実技（太衝、神門、肝俞、心俞、身柱、風池、百会）と補瀉手技（捻転・提挿補瀉法）											
第 4 回	肝気犯脾	肝気犯脾の病証と解説 疏肝健脾の実技（太衝、内関、足三里、中脘、天枢：胃の六つ灸）と補瀉手技（提挿・開闔補瀉）											
第 5 回	肝の病証の演習	第 1 ～ 4 回での病証の症例問題を出題し病証に対応した施術を実施する。											
第 6 回	肝陽亢進 1	平肝潜陽・滋陰降火 1	肝腎陰虚の病証と解説 2 滋補肝腎の実技（太溪、太衝、三陰交、復溜）										
第 7 回	肝陽亢進 2	平肝潜陽・清熱瀉火 1	肝陽亢進の病証と解説（頭痛・肩凝り・高血圧を想定した配穴） 2 肝陽亢進の実技（太溪、太衝、三陰交、風池、百会）										
第 8 回	心腎不交	心腎不交の病証と解説（不眠症を想定した配穴） 滋補心腎・清心瀉火の実技（太溪、太衝、三陰交、神門、風池、百会）											
第 9 回	脾胃虚弱	脾胃虚弱の病証と解説（食欲不振・下痢を想定した配穴） 補益脾胃の実技（足三里、中脘、脾俞、胃俞）											
第 10 回	脾腎陽虚	脾腎陽虚の病証と解説（冷えによる腰痛を想定した配穴） 温補脾腎の実技（足三里、中脘、脾俞、胃俞、関元、太溪、腎俞、命門）											
第 11 回	肺脾気虚	肺脾気虚の病証と解説（鼻汁・鼻閉を想定した配穴） 補益肺脾の実技（足三里、中脘、脾俞、胃俞、太淵、肺俞、大椎）											
第 12 回	肝血虚	肝血虚の病証と解説（肩凝りや眼精疲労を想定した配穴） 補益肝血の実技（太衝、三陰交、合谷、光明、攢竹、魚腰、天柱、風池）											
第 13 回	気滯血瘀	気滯血瘀の病証と解説 理気活血の実技（合谷－太衝、合谷－三陰交、内関－三陰交、関元－中脘）											
第 14 回	痰湿	痰湿の病証と配穴解説、去湿去痰（水分、天枢、陰陵泉、足三里、豊隆、腎俞、委陽、失眠）											
第 15 回	総合演習	課題病証の中から 1 病証をクジで選び、治療配穴に施術を行う。											
11 学習方法													
実技、病証・配穴・施術方法の解説後にペアーで課題を実践する。													
12 評価方法													
①知識 実技試験で評価する。													
②技能 実技試験の評価と授業における課題の達成度で評価する。													
③態度 実技試験の評価、授業に於ける課題への取り組み姿勢と出席状況から評価する。													
13 教科書								参考書					
「東洋医学臨床論はりきゅう編」								特に指定しない					
その他：資料プリントを配布する													
14 学生への要望													
適切な治療方針を確立する上で弁証配穴の理解は重要である。病証の理解と配穴の意義について深く学んで欲しい。正確な取穴と適切な刺鍼手技を習得し、経穴を効くものではなく、効かせることができる技能を習得して欲しい。													

応用はりきゅう実技Ⅲ（伝統鍼灸実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	後期	1	30	必須	伊ヶ崎 克己 (はき師)
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、「はりきゅう実技＜基礎編＞」第1章2：鍼の基本実技や「東洋医学概論」第4章で履修する東洋医学的診断法、刺鍼法・治療法に関する技術について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 下記の行動目標を達成する。 【行動目標】 ①知識 下記授業計画に挙げた診断法、治療法について説明できる。 ②技能 症状の弁別により病証を決定し、適切な刺鍼施術を選択・実施できる。 病証が示す諸症状の原因と過程（病機）を把握し、患者に説明できる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 東医学的診断 1 切診（脈診-1） 第2回 東医学的診断 2 切診（脈診-2） 第3回 基本刺鍼法 接触鍼法と脈状変化 第4回 東医学的診断 3 切診（脈診-3、取穴と脈状変化） 第5回 東医学的診断 4 切診（脈診-4、脈差診による立証） 第6回 東医学的診断 5 切診（腹診と脈診の一致） 第7回 東医学的診断 6 問診（スコアの活用と立証） 第8回 臨床応用（肩こり）1 四街治療（標治、絡穴・下合穴の利用） 第9回 臨床応用（肩こり）2 切皮置鍼（補法本治法と標治法） 第10回 臨床応用（肩こり）3 平補平瀉法（局所治療） 第11回 臨床応用（肩こり）4 虚実夾雑証（瀉法治療法） 第12回 臨床応用（肩こり他）5 奇経治療法-1 第13回 臨床応用（肩こり他）6 奇経治療法-2 第14回 臨床応用（肩こり他）7 経筋治療法-1 第15回 臨床応用（肩こり他）8 経筋治療法-2						
11 学習方法 実技						
12 評価方法 ①知識 定期試験によって評価する。 ②技能 定期試験によって評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 「はりきゅう実技＜基礎編＞」を参考						参考書 なし
14 学生への要望 ・実習であるため原則的に欠席は認められないことを留意。 ・班単位の実習となる場合、役割分担を明確にしながら積極的に実習に参加すること。						

応用はりきゅう実技Ⅳ(症候別鍼灸実技)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		新開 弘枝（はき師）
8 授業の概要													
施術所において業務歴・開業歴のある「あはき師」の見地から、臨床において遭遇する可能性の高い主要症候について、鑑別診断するための診察法および治療方法を教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
あはき臨床において遭遇する可能性の高い主要症候について、鑑別診断するための診察法および治療方法を理解し、実践できる。													
【行動目標】													
①知識 授業計画に記した疾患・病態を説明でき、用いる経穴を列挙できる。													
②技能 疾患について鑑別診断するための情報を聴取できる。													
疾患に対する診察法を実施できる。													
疾患について治療の適否を診断できる。													
主な症候に対する東洋医学的な考え方で治療することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 肩こり1													
手少陽三焦経、外関～支溝・四瀆（上四瀆）、僧帽筋上部線維、他への施術													
第2回 肩こり2													
手太陽小腸経、後溪・腕骨・陽谷・養老 僧帽筋中部線維、他への施術													
第3回 頸肩腕痛（頸椎症、頸肩腕症候群）1													
頸部表層、手太陽小腸経、他への施術													
第4回 頸肩腕痛（頸椎症、頸肩腕症候群）2													
手陽明大腸経、曲池・手三里・合谷、胸鎖乳突筋・斜角筋、他への施術													
第5回 上肢痛1（胸郭出口症候群）													
局所、手陽明経、手太陰経への施術													
第6回 上肢痛2（手根管症候群、肘部管症候群、ギヨン管症候群、外側・内側上顆炎、ドケルバン病、他）													
局所、大陵、小海、神門、他への施術													
第7回 肩関節痛1（腱板炎・肩峰下滑液包炎、上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩、他）													
局所、手陽明経、手太陰経、他への施術													
第8回 肩関節痛2（腱板炎・肩峰下滑液包炎、上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩、他）													
局所、手陽明経、手少陽経、手太陽経、他への施術													
第9回 腰痛・腰下肢痛1（筋筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛、変形性脊椎症、根性坐骨神経痛、梨状筋症候群）													
局所、足太陽膀胱経（崑崙・飛揚・委陽）への施術													
第10回 腰痛・腰下肢痛2（筋筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛、変形性脊椎症、根性坐骨神経痛、梨状筋症候群）													
局所、足少陽胆経（足臨泣・地五会・丘墟・陽陵泉）、他への施術													
第11回 膝関節痛1（変形性膝関節痛、膝蓋靱帯炎）													
局所、足厥陰肝経（行間・太衝・中封）、他への施術													
第12回 膝関節痛2（変形性膝関節痛、膝蓋靱帯炎）													
局所、足陽明胃経（内庭・衝陽・解溪）への施術													
第13回 股関節痛：変形性股関節症													
局所、足少陽胆経（地五会・足臨泣・丘墟・陽陵泉）、他への施術													
第14回 総復習・評価1													
第15回 総復習・評価2													
11 学習方法													
実技													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 定期試験にて評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
なし 参考書													
なし													
14 学生への要望													
主な症候について、現代医学的な考え方を把握したうえで取り組めるよう習慣をつけること。													
主要経穴の取穴部位および流注はもちろん、触診による確認も併せて行うこと。													

応用はりきゅう実技Ⅴ（現代鍼灸実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	後期	1	30	必須	渡辺 冨夏（はき師）
8 授業の概要 施術所にて業務歴のあるはき師の見地から、臨床現場において遭遇頻度の高い、肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛、腰痛・腰下肢痛、膝関節痛、頭痛について鑑別と罹患筋の触察などの技術を教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 症状ごとに適切な理学検査を選択し、鑑別能力や適切な刺鍼・施灸する能力を身につける。 【行動目標】 ①知識 授業計画に定めた疾患・病態の鑑別方法を説明できる。 授業計画に定めた疾患・病態の治療に用いる経穴を列挙できる。 ②技能 授業計画に定めた疾患・病態について疾患法を実施できる。 授業計画に定めた疾患・病態に適した経穴に対し、刺鍼・施灸することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。						
10 授 業 計 画 第1回 オリエンテーション 肩こりに対する鑑別・罹患筋の触察 第2回 肩こりに対する鑑別・罹患筋の触察の復習、刺鍼 第3回 頸肩腕痛に対する罹患部位の触察 第4回 頸肩腕痛に対する鑑別・罹患部位の触察の復習、刺鍼 第5回 上肢痛に対する鑑別と罹患筋の触察 第6回 上肢痛に対する鑑別と罹患筋の触察の復習、刺鍼 第7回 肩関節痛に対する鑑別・罹患部位の触察 第8回 肩関節痛に対する鑑別・罹患部位の触察の復習、刺鍼 第9回 腰痛・腰下肢痛の鑑別・罹患部位の触察 第10回 腰痛・腰下肢痛の鑑別・罹患部位の触察の復習、刺鍼 第11回 膝関節痛に対する鑑別と罹患部位の触察 第12回 膝関節痛に対する鑑別と罹患部位の触察の復習、刺鍼 第13回 頭痛に対する鑑別・罹患部位の触察と刺鍼 第14回 まとめ、総復習① 第15回 まとめ、総復習②						
11 学習方法 講義、実技 冒頭、講義にて鑑別法・筋の触察法・取穴部位について学ぶ。残りの時間で学生同士でペアを組み練習する。一症例につき2コマ使用し、1コマ目で理解・練習、2コマ目で反復・習得とする。第14回、第15回の授業は、学生の希望の症例、もしくは教員が再度復習の必要を感じた症例について講義・鑑別法・触察・刺鍼などを行う。						
12 評価方法 ①知識 後期末に筆記試験または口頭試問に評価する。 ②技能 後期末に実技試験にて評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 「図解鍼灸療法技術ガイド ― 鍼灸臨床の場で必ず役 なし 立つ実践のすべてⅠ・Ⅱ」						
14 学生への要望 実技時間を多く確保するため、準備・集合など素早く行動すること。 本実技は筋の知識が必要となるため、解剖学の復習をすること。						

実践はりきゅう実技Ⅰ(美容鍼灸実技)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、「美容を目的とした鍼灸」の手技を教授する。その対象は顔面部のみならず全身の多岐にわたる。全体治療をベースとし、クライアントとのふれあい、コミュニケーションを大事にした美容鍼灸を習得する。													
9 到達目標													
【行動目標】													
①知識 鍼灸師に必要な美容皮膚学、肌診断、カウンセリング、リスク管理について説明できる。													
②技能 取穴と刺鍼方向、角度を正確に行えること。 美容経穴の刺鍼 20 本は 5 分以内に行えること。 解剖と経絡経穴を理解した上で、身体各部位と頭部・顔面部の刺鍼をスムーズに行える。													
③態度 相手に対する思いやりを持てる。 最初から最後まで丁寧な施術が身につく。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 講義：美容鍼とは・カンペールの顔面角・顔のゴールデンプロポーション・顔のチェックポイントと実技の手順について 実技：体のバランスチェックと足三里の鍼													
第 2 回 実技：第 1 回の復習＋頸肩ストレッチとマッサージ													
第 3 回 実技：第 2 「回までの復習＋合谷の鍼													
第 4 回 講義：皮膚の生理作用・ターンオーバー・老化要因・肌分析 実技：第 3 回までの復習													
第 5 回 実技：美容基本経穴の刺鍼 1													
第 6 回 実技：美容基本経穴の刺鍼 2													
第 7 回 講義：ニキビ・シミ 実技：症状別治療 1													
第 8 回 講義：シワ たるみ 実技：症状別治療 2													
第 9 回 講義：クマ 実技：症状別治療 3													
第 10 回 講義：生理周期と肌 実技：症状別治療 4													
第 11 回 講義：美容鍼灸カウンセリングの目的 実技：症状別治療 5													
第 12 回 実技：問診から治療まで 1													
第 13 回 実技：問診から治療まで 2													
第 14 回 実技：問診から治療まで 3													
第 15 回 テスト まとめ													
11 学習方法													
講義の後、実技を行います。手技、鍼が粗暴にならないよう特に気をつけましょう。													
12 評価方法													
①知識 定期試験にて評価する。													
②技能 定期試験にて評価する。													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書 参考書													
資料配布 なし													
14 学生への要望													
ひとつひとつの手技と鍼を丁寧に確実に行うこと。手に癖があってはいけない。													
顔色、表情、それぞれのパーツの小さな変化にも気がつくように。													
全身治療と美容鍼はセットのため、症状にあわせた全体治療をいつも考えて施術を行うよう心掛けること。													

実践はりきゅう実技Ⅱ（在宅鍼灸実技）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3 学年	前期	1	30	必須	杉本 洋子 (はき師)
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるはき師の見地から、在宅治療に関する知識・技能について教授する。臨床での応用力を身につけ、実社会での対応力を身につける。						
9 到達目標 【一般目標】 在宅治療についての認識を深め、様々なケースに対応できる治療技術と知識を習得する。 【行動目標】 ①知識 在宅治療に必要な知識について説明できる。 臨床でよく出会う疾患について説明できる。 ②技能 臨床でよく出会う疾患に対する臨床技術が身につく。 ③態度 臨床でもとめられる対応力が身につく。						
10 授 業 計 画 第1回 私の在宅治療の紹介 簡単な全身調整の実技1 コップ灸。 第2回 保険での在宅治療の紹介 簡単な全身調整の実技2 鍼治療と自律神経 第3回 在宅治療の事例紹介 腰痛症の実技 1 立位バランス。 第4回 在宅治療の事例紹介 腰痛症の実技 2 姿勢症候群 第5回 在宅治療の事例紹介 肩こりの実技1 頸部刺鍼 第6回 在宅治療の可能性 肩こりの実技2 背部、腋窩刺鍼、日本の現状 第7回 在宅治療の可能性 在宅医療 膝痛の実技1 脛骨神経 第8回 在宅治療の可能性 介護予防 膝痛の実技2 坐骨神経 第9回 在宅治療の可能性 家族へのケア パーキンソン病の実技 第10回 在宅治療の可能性 緩和ケア 冷え症の実技 第11回 在宅治療の可能性 認知症 うつ病の実技 第12回 在宅治療の可能性 コミュニケーション 特殊鍼法の紹介（頭皮鍼） 第13回 特殊鍼法の紹介 （三穴五鍼法） 第14回 特殊鍼法の紹介 （子午鍼法） 第15回 まとめ						
11 学習方法 前半はパワーポイントを使った講義を、後半は実技を行う。						
12 評価方法 ①知識 定期試験及び作文で評価する。 ②技能 定期試験にて評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 なし				参考書 なし		
14 学生への要望 復習をしっかりと行うことで、技術を確実に身につけるよう努めるとともに、授業を通じて在宅治療で接する様々な疾患への知識を深め、臨床での応用力を高めてほしい。						

実践はりきゅう実技Ⅲ（実践鍼灸実技Ⅰ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		米永 繁樹 (あはき師)
8 授業の概要 施術所において業務歴のある、あはき師の見地から、鍼灸臨床家として自立できる人材の育成についてを教授する。													
9 到達目標 【一般目標】 腰痛、坐骨神経痛、頸・上肢痛・五十肩、膝関節痛の五疾患の検査法と鑑別診断、治療をマスターする。 また上記の疾患において発生する末梢神経障害に傍神経刺を行い疼痛緩和させる鍼灸技術を習得する。この講義にて鍼灸の適応・不適応を学習する。 【行動目標】 ①知識 腰痛、坐骨神経痛、頸・上肢痛・五十肩、膝関節痛の五疾患の検査法と鑑別診断について説明できる。 ②技能 腰痛、坐骨神経痛、頸・上肢痛・五十肩、膝関節痛の五疾患の検査法と鑑別診断が実践できる。 上記の疾患において発生する末梢神経障害に傍神経刺が行える。 疼痛緩和させる鍼灸技術が身につく。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第1回 腰痛症に対する治療1 基本治療 第2回 腰痛症に対する治療2 腰痛に伴う関連痛への処置 第3回 腰痛症に対する治療3 応用治療（傍神経刺） 第4回 坐骨神経痛に対する治療1 基本治療 第5回 坐骨神経痛に対する治療2 応用治療（傍神経刺） 第6回 頸・上肢痛に対する治療3 基本治療 第7回 頸・上肢痛に対する治療4 頸・上肢痛に伴う各神経領域に起こる関連痛への対処 第8回 頸・上肢痛に対する治療5 頸・上肢痛に伴う各神経領域に起こる関連痛への対処 第9回 五十肩に対する治療1 基本治療 第10回 五十肩に対する治療2 五十肩に伴う、関連痛への対処 第11回 五十肩に対する治療3 応用治療（傍神経刺） 第12回 膝関節痛に対する治療1 基本治療 第13回 膝関節痛に対する治療2 応用治療（傍神経刺） 第14回 実技試験 第15回 実技試験の総評・現代鍼灸における自律神経反射を使った内科治療													
11 学習方法 実技（メモを忘れずに。）													
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価。 ②技能 定期試験で評価。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「問診・診察ハンドブック」								参考書 プリント配布					
14 学生への要望 既に医療系の資格を取得している方もいるでしょうが、自身が鍼灸治療に関し初学者であることを認識し敬意を払えるように自覚してほしい。													

実践はりきゅう実技Ⅳ（レディース鍼灸実技）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		新開 弘枝 (はき師)
8 授業の概要													
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎知識として筋の知識を習得する。東洋医学と西洋医学の特色を十分に理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力を施術所において業務歴のあるはき師の見地から教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①正確なツボが取れる。													
②指示された方法で鍼、灸ができる。													
【行動目標】													
①知識 ライフサイクルに応じた女性へのヘルスケアを説明できる。													
②技能 疾患に応じた経絡経穴の正確な取穴、手技ができる。													
③態度 女性患者への細かい配慮が習慣化される。(誘導やベットメイクなど)													
10 授 業 計 画													
第1回 婦人疾患・婦人科疾患の種類と現代西洋医学から見た女性のからだ													
第2回 東洋医学からみた女性のからだ・胞宮と四脈													
第3回 東洋医学からみた婦人病の病因と治療原則・婦人病の病因・産科、婦人科疾患の機序													
第4回 女性の診察法と検査法・婦人科内分泌法・不妊検査法													
第5回 月経の異常(周期・持続日数・出血量)・診察の要点・治療法													
第6回 月経困難症・診察の要点・治療法													
第7回 月経前困難症・診察の要点・治療法													
第8回 更年期障害・診察の要点・治療法													
第9回 妊娠悪阻・診察の要点・治療法													
第10回 東洋医学からみた月経痛・現代的な鍼灸治療・東洋医学的な鍼灸治療													
第11回 東洋医学からみた月経周期の異常・鍼灸治療													
第12回 冷え性・冷えと他の愁訴・現代医学的な鍼灸治療・東洋医学的な鍼灸治療													
第13回 不妊症・東洋医学からみた不妊症・現代医学的な鍼灸治療・東洋医学的な治療													
第14回 前期 まとめ													
第15回 骨盤位・東洋学からみた骨盤位・鍼灸治療													
11 学習方法													
講義および実技													
12 評価方法													
①知識 定期試験で評価。													
②技能 定期試験で評価。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「東洋医学臨床論」													
参考書													
「鍼灸学(臨床編)」「レディース鍼灸」													
14 学生への要望													
・女性に多い症状や女性が悩む症状について男女ともに理解を深める。													
・患者目線で治療を行える。													
・東洋医学と西洋医学の特色を十分に理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力と実技ができる。													

実践はりきゅう実技Ⅴ（特殊鍼灸実技）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必選別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		専任教員ら（あはき師）
8 授業の概要													
施術所・医療機関において実務経験のあるはり師・きゅう師の見地から、特殊鍼灸技能について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1つの治療法にこだわらず、疾患や患者さんの体質、精神性に応じた刺激・治療法を自ら選択できる柔軟性を身につける。また、1年・2年で学習した経絡経穴、奇穴部位およびその現代医学的意義をふまえ、その中でも主に要穴を中心とした取穴を完全にマスターできるようにする。それらに応用し臨床に結びつける能力を養うことを目標とする。													
【行動目標】													
①実技 以下に学習する鍼灸特殊療法の概要、理論を説明できる。 選穴の意義を理論立てて説明できる。													
②技能 これまで履修した基本技術に加え、授業計画で示した鍼灸施術を実演できる。													
③態度 体調管理に留意し、全ての授業に参加する習慣が身につく。 正当な理由がない限り全ての授業に参加し、万一欠席や遅刻する場合には連絡する習慣が身につく。 担当教員や級友らとコミュニケーションをとり、互い尊敬しあい成長する態度が身につく。													
10 授 業 計 画													
第 1 回	沢田流太極療法 1	太極療法の基本理論、太極療法基本穴について、連続施灸											
第 2 回	沢田流太極療法 2	三原気論、連続施灸											
第 3 回	沢田流太極療法 3	三焦論、沢田流症例集Ⅰ、連続施灸の応用											
第 4 回	沢田流太極療法 4	沢田流左陽池の原理、十二原の重要性、沢田流症例集Ⅱ、連続施灸の応用											
第 5 回	沢田流太極療法 5	百会の応用、沢田流症例集Ⅲ、連続施灸の応用											
第 6 回	赤羽氏法・皮内鍼療法 1	赤羽氏法の理論、皮内鍼法の刺入法、抜針時の注意点、皮内鍼の実施											
第 7 回	赤羽氏法・皮内鍼療法 2	線香による測定法、測定に基づく治療											
第 8 回	赤羽氏法・皮内鍼療法 3	赤羽氏の常用穴、赤羽氏圧痛点の探し方、常用穴の施術											
第 9 回	赤羽氏法・皮内鍼療法 4	線香による測定～赤羽氏法による治療まで一連の施術：皮内鍼の治療法（関節痛、神経痛）											
第 10 回	赤羽氏法・皮内鍼療法 5	線香による測定～赤羽氏法による治療まで一連の施術：皮内鍼の治療法（胃腸疾患、月経痛、他火傷などの外科的疾患への応用）											
第 11 回	百症賦による配穴 1	穴性学について、経穴の効能、組み合わせ 醒腦開竅法、疏風解熱法、去風止痒法											
第 12 回	百症賦による配穴 2	調和腸胃理気止痛法、寧心安神法、婦人雑病類											
第 13 回	奇穴治療 1	奇穴の効能、唐代『備灸千金要方』の奇穴、灸術による奇穴治療											
第 14 回	奇穴治療 2	鍼術による奇穴治療											
第 15 回	子午流注の応用	子午流注法について、子午流注の治療											
11 学習方法													
講義及び実技													
12 評価方法													
①知識 口頭試問													
②技能 実技試験													
③態度 理由のない遅刻・欠席等について減点する場合がある。													
13 教科書								参考書					
「新版 経絡経穴概論」								特記事項なし					
14 学生への要望													
実技前は必ず経穴部位の確認をしておくこと。													

実践はりきゅう実技Ⅵ(古典鍼灸実技)

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		松木 宣嘉（あはき師）
8 授業の概要 施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、古典的な鍼灸治療の基礎について教授する。													
9 到達目標 【一般目標】 各種治療法の基礎知識を持ち、実践することができる。 【行動目標】 ①知識 各種治療法について説明できる。 ②技能 各種治療法の基礎的な手技ができる。 現代の臨床で活かすことができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画 第1回 イン트로ダクション 第2回 『鍼道秘訣集』と打鍼1 第3回 『鍼道秘訣集』と打鍼2 第4回 『杉山真伝流』と管鍼1 第5回 『杉山真伝流』と管鍼2 第6回 『杉山真伝流』と管鍼3 第7回 『刺絡聞見録』と刺絡1 第8回 『刺絡聞見録』と刺絡2 第9回 『鍼術秘要』と横刺1 第10回 『鍼術秘要』と横刺2 第11回 『鍼術秘要』と横刺3 第12回 接触鍼・鋤鍼1 第13回 接触鍼・鋤鍼2 第14回 『名家灸選』と灸 第15回 『名家灸選』と灸													
11 学習方法 実技													
12 評価方法 ①知識 実技試験にて評価する。 ②技能 授業、実技試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 資料配布				参考書 「弁釈鍼道秘訣集」「杉山真伝流臨床指南」「新版刺絡鍼法マニュアル」 「鍼術秘要」「大師流小児鍼—奥義と実践」「名家灸選釈義」									
14 学生への要望 古典を現在に活かすことは、鍼灸師の使命の一つであるとする。現代の目線からみて、臨床で有効性のある応用的な技法を積極的に学んで頂きたい。													

徒手療法Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員	
	専門		2 学年		前期		1		30		必須	名越 文人（あはき師） 楠本 真也（あはき師）		
8 授業の概要														
施術所において業務歴のある「あはき師」の見地から、触れることの意義について教授する。														
9 到達目標														
【一般目標】														
手技を通じて鍼灸治療に必要な治療家としての手をつくり、体表指標の観察力を身につける。														
【行動目標】														
①知識 基礎的な手技（軽擦法、押圧法、揉捏法、叩打法など）の特徴を説明できる。														
②技能 骨や筋を触知することで代表的な体表指標を触知できる。														
③態度 「凝り」や「張り」に関心を持ち、鍼灸治療に反映する習慣が身につく。														
正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。														
10 授 業 計 画														
第 1 回 ガイダンス														
体に触れるうえでの心構え、手の訓練法の紹介														
第 2 回 基本手技（軽擦法）の紹介と練習														
手掌軽擦、四指軽擦、他														
第 3 回 基本手技（押圧法）の紹介と練習														
母指圧迫、四指圧迫、手掌圧迫、手根圧迫														
第 4 回 基本手技（押圧法）の練習														
母指圧迫、四指圧迫、手掌圧迫、手根圧迫														
第 5 回 基本手技（揉捏法）の紹介と練習														
把握揉捏、母指揉捏、四指揉捏、手掌揉捏、他														
第 6 回 基本手技（揉捏法）の練習														
把握揉捏、母指揉捏、四指揉捏、手掌揉捏、他														
第 7 回 基本手技（叩打法、その他）の紹介と練習														
手拳叩打、合掌打、切打、宿気打、その他運動法														
第 8 回 腰背部の手技療法 1														
基本手技を用いて腰・背中まわりの特徴を「伏臥位」にて把握														
第 9 回 腰背部の手技療法 2														
基本手技を用いて腰・背中まわりの特徴を「伏臥位」にて把握														
第 10 回 下肢（大腿・下腿・足）の手技療法 1														
基本手技を用いて足全体の特徴を「伏臥位」にて把握														
第 11 回 下肢（大腿・下腿・足）の手技療法 2														
基本手技を用いて足全体の特徴を「伏臥位」にて把握														
第 12 回 頸肩部の手技療法 1														
基本手技を用いて頸・肩まわりの特徴を「伏臥位」にて把握														
第 13 回 頸肩部の手技療法 2														
基本手技を用いて頸・肩まわりの特徴を「伏臥位」にて把握														
第 14 回 部位別の手技療法のロールプレイと評価														
これまで実施した各部位と手技療法を一連の流れの中で実施する。														
第 15 回 総合演習														
11 学習方法														
実技														
12 評価方法														
①知識 口頭試問にて評価する。														
②技能 実技試験にて評価する。														
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。														
13 教科書														
なし														
参考書														
なし														
14 学生への要望														
まずは相手を気遣い不快に感じないように触れること。														
触れることで得られる情報は多岐にわたるため、何となくではなく常に意識を持つよう心がけて欲しい。														

徒手療法Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須	名越 文人（あはき師） 楠本 真也（あはき師）	
8 授業の概要													
施術所において業務歴のある「あはき師」の見地から、徒手療法医学Ⅰで学習した内容を踏まえ、別の体位でも身体に触れることができるようにする。													
9 到達目標													
【一般目標】													
徒手療法医学Ⅰで学習した内容を踏まえ、仰臥位・側臥位でも適圧で身体に触れられるようにする。													
【行動目標】													
①知識 各個人の身体のタイプを理解し、説明できる。													
②技能 基礎的な手技（軽擦法、押圧法、揉捏法）を用い、筋肉の凝りや張り、圧痛、硬結を確認できる。客観的な評価が行える。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 ガイダンス													
相手の体に触れながら硬結や圧痛部位を探し（伏臥位）、適圧で触れるようにする。各個人の身体のタイプを知る。													
第2回 頸肩部・上肢の手技療法1													
基本手技を用いて頸・肩・上肢まわりの特徴を「側臥位」にて把握													
第3回 頸肩部・上肢の手技療法2													
基本手技を用いて頸・肩・上肢まわりを一連の流れで捉える。													
第4回 腰背部・下肢の手技療法1													
基本手技を用いて腰・背中まわりの特徴を「側臥位」にて把握													
第5回 腰背部・下肢の手技療法2													
基本手技を用いて腰・背中まわりを一連の流れで捉える。													
第6回 側臥位での手技療法													
基本手技を用い「側臥位」で全身の手技療法を行う。													
第7回 頭頸肩部の手技療法													
基本手技を用い頭の上に位置し、頭部、頸肩部の特徴を「仰臥位」にて把握。													
第8回 前胸部・上肢の手技療法													
基本手技を用いて前胸部・上肢まわりの特徴を「仰臥位」にて把握													
第9回 頭頸肩部・前胸部・上肢の手技療法													
基本手技を用いて仰臥位にて頭部・頸肩部・前胸部・上肢まわりを一連の流れで捉える。													
第10回 下肢の手技療法													
基本手技を用いて下肢の特徴を「仰臥位」にて把握													
第11回 仰臥位での手技療法													
基本手技を用い「仰臥位」で全身の手技療法を行う。													
第12回 腹部の手技													
基本手技を用い仰臥位にて胸および腹部（腹診）を適圧で触れるようにする。													
第13回 総合演習													
相手の主訴を確認後、側臥位または仰臥位にて手技療法を行う。													
第14回 部位別の手技療法のロールプレイと評価													
これまで実施した各部位・各体位での手技療法を一連の流れの中で実施する。													
第15回 まとめ													
11 学習方法													
実技													
12 評価方法													
①知識 口頭試問にて評価する。													
②技能 実技試験にて評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
相手に合わせた適圧で触れられるように意識すること。													
また、2年次に実施される他の実技授業の内容に生かせるようにどの体位でも自信をもって身体に触れることができるように本授業に臨んで欲しい。													

はりきゅう基礎研究

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		襖田 和敏
8 授業の概要													
はり師、きゅう師として必要な、臨床の現場で得られた結果を元にした論理的思考力や問題解決能力を習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
鍼灸刺激が人体の生理機能に与える影響を客観的パラメーターの変化にて観察できることを目標とする。													
【行動目標】													
①知識 得られた結果を元に、科学的に解明できていない部分も多い鍼灸刺激の影響を考察できる。													
②技能 課題や演習の内容を正しく理解し実施できる。													
得られた結果をプレゼンし他者とシェアすることができる。													
③態度 与えられた課題や演習を元に、グループ内での役割分担を明確にし、協力して実習を遂行できる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 オリエンテーション（班分けや日程、評価等注意事項の説明）													
第 2 回 課題 1 低周波鍼通電（LFEA）が二点識別閾値に及ぼす影響													
第 3 回													
第 4 回 課題 2-1 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：コントロールとしての無刺激													
第 5 回													
第 6 回 課題 2-2 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：低周波鍼通電（LFEA）													
第 7 回													
第 8 回 課題 2-3 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：眼球周囲の刺鍼													
第 9 回													
第 10 回 課題 2-4 鍼灸刺激が視力に及ぼす影響：眼球周囲の施灸（電気温灸、生石灰灸、水素灸、竹筒灸）													
第 11 回													
第 12 回 課題 2-5 視力を向上させるためには（各班任意の鍼灸刺激）													
第 13 回													
第 14 回 発表会													
第 15 回													
11 学習方法													
実習													
12 評価方法													
①知識 レポート提出や発表会での質疑応答にて評価する。													
②技能 課題や演習の内容を正しく理解し実施できているかにて評価する。													
③態度 出席率や授業態度にて評価する。（実習のため極めて重視した評価を行う。）													
13 教科書													
特に指定しない。													
参考書													
特に指定しない。													
必要に応じて適宜参考プリントを配布する。													
14 学生への要望													
実習であるため原則的に欠席は認められず、授業態度の不良の者は出席と認めない。留意のこと。													
また、班単位の実習となるため（評価も原則として班単位）、役割分担を明確にしながら積極的に実習に参加すること。													

経絡経穴概論Ⅳ（四診法）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		松木 宣嘉（あはき師）
8 授業の概要													
施術所において業務歴のあるあはき師の見地から、鍼灸臨床で必要な東洋医学的観察法について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
鍼灸臨床で必要な東洋医学的観察法を理解し、実践できる。													
【行動目標】													
①知識 舌診・腹診・脈診・切経・経穴診についての基礎知識を持ち、説明できる。													
②技能 舌診・腹診・脈診・切経・経穴診を実践できる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 オリエンテーション													
四診総論、四診ごとの特徴、鑑別可能なもの、四診デモンストレーション													
第2回 舌診1 舌質・舌形の観察													
淡白舌、淡紅舌、紅舌、絳舌、紫舌、老、嫩、胖大、瘦薄、裂紋、齒根、点刺、光滑													
第3回 舌診2 舌苔の観察													
白苔、黄苔、黒苔、薄厚、少、剥落、潤滑燥、膩腐													
第4回 舌診3 ロールプレイ													
できるだけ多くのクラスメイトを観察													
第5回 腹診1 難経十六難の腹位図と腹部の触り方													
臓腑配当、腹診の立ち位置、触り方、（附：傷寒論系腹診）													
第6回 腹診2 ロールプレイ（舌診・腹診）													
できるだけ多くのクラスメイトを観察													
第7回 切経1 切経方法（附：撮診）													
取穴法、触り方、観察すべき反応（陷下、圧痛、硬結、寒熱、膨隆、発汗）													
第8回 切経2 ロールプレイ（舌診・腹診・切経）													
できるだけ多くのクラスメイトを観察													
第9回 背候診1 背部俞穴の取穴と反応の診方													
取穴法、触り方、観察すべき反応（陷下、圧痛、硬結、寒熱、膨隆、発汗）													
第10回 背候診2 ロールプレイ（舌診・腹診・切経・背候診）													
できるだけ多くのクラスメイトを観察													
第11回 脈診1 脈の取り方													
脈診の姿勢、手の当て方、寸関尺の位置、浮中沈の位置													
第12回 脈診2 脈状診（祖脈診を中心に）													
浮沈・遅数・虚実、（滑瀉、大細、緊弦軟、長短、結代）													
第13回 脈診3 六部定位比較脈診													
寸関尺の位置、基本四証といわゆる本治法													
第14回 脈診4 ロールプレイ（舌診・腹診・切経・背候診・脈診）													
できるだけ多くのクラスメイトを観察													
第15回 総合演習													
11 学習方法													
実技													
12 評価方法													
①知識 試験にて評価する。													
②技能 授業にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書													
「新版 東洋医学概論」													
参考書													
「CD-ROM でマスターする舌診の基礎」「脈診 ―基礎知識と実践ガイド―」													
「思うツボ 切経探穴の実際および身体部位別ツボの特徴とその変え方」													
14 学生への要望													
東洋医学的な観察には技術練習が必須となるため限られた時間の中での修得は困難が予想されるが、積極的に実技に取り組む、可能な限り上達してほしい。													

スポーツ医学・コンディショニング

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		立石 泰崇
8 授業の概要													
鍼灸師の職域拡大が求められる中、スポーツ、フィットネス分野に関し、幅広い知識と技能が求められている。本授業では、施術所において業務歴のあるはき師の見地から、また長年の実績を持つトレーナーの見地からスポーツ現場において必要な知識と技能について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
鍼灸の分野のみならず、臨床ではスポーツ障害への対応が求められる。本授業ではスポーツ医学の基本、トレーナーの仕事の役割やコンディショニングについての知識を講義、実技を交えて経験、習得する。													
【行動目標】													
①知識 基本的なスポーツ障害とその対処法やリハビリ方法、コンディショニングの基本を説明できる。													
②技能 スポーツの場面で必要なテーピングやストレッチ技法が実演できる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 オリエンテーション、トレーナーの業務、役割について													
第2回 コンディショニング1													
第3回 コンディショニング2 ストレッチ実技、パーソナルストレッチ、ペアストレッチ													
第4回 足部、足関節、下腿のスポーツ障害、外傷													
第5回 膝の障害、外傷													
第6回 腰部の障害、外傷													
第7回 股関節の障害、肉離れ													
第8回 テーピング実習													
第9回 肩の障害、外傷													
第10回 肘、手指の障害、外傷													
第11回 ウォーミングアップ、クールダウン													
第12回 救急処置（頭部外傷、脳震盪への対応、CPR）													
第13回 暑熱環境、熱中症													
第14回 体幹トレーニング													
第15回 テスト前まとめ													
11 学習方法													
講義＋演習（ストレッチ、テーピング、コンディショニングなど）													
12 評価方法													
①知識 筆記試験にて評価。													
②技能 定期試験で実技を評価。													
③態度 正当な理由のない欠席について減点する。													
13 教科書													
なし。授業毎に資料を用意（POWERPOINT）													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
スポーツ医学の分野は臨床でも他の分野に共通するものが多いので、基本的なスポーツ医学の知識の習得を目指す。													

実践鍼灸実技Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		松浦 浩市 (あはき師)
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師が現在、臨床で用いられている主要な鍼施術法を施術所において業務歴のある、あはき師の見地から教授する。													
9 到達目標 【一般目標】 ①各種の鍼法を紹介しそれを実際に体験すること。 ②卒業後に臨床の場面で直面するであろう様々な「試練」を克服するための基礎知識、技術提供を図る。 ③担当教員の全日本鍼灸学会認定鍼灸師、日本刺絡学会認定鍼灸師であること、30年を超える臨床経験から確かな施術方法の実施と事故のない安全・適法な術技を体験し技能習得を習慣づける。 【行動目標】 ①知識 鍼灸施術による生体の変化、生理作用を説明できる。 ②技能 正確に経穴に対し刺鍼できる。 生体変化を触診にて確認できる。 ③態度 受療者に対し、冷静に対応することができる。 向上心を持つことができる。 安全・適法な術技を習慣化する。													
10 授 業 計 画 第1回 的確に経穴を取穴 第2回 毫鍼刺鍼術 第3回 刺鍼練習の実際（上肢・下肢の主な経穴刺鍼） 第4回 長野式治療法1 第5回 長野式治療法2 第6回 リンパ疎通法（基礎知識） 第7回 リンパ疎通法（実技） 第8回 刺絡鍼法（基礎と実技） 第9回 頭皮針 第10回 特殊鍼法（手根足根鍼・手鍼法） 第11回 小児鍼法 第12回 復習および実技試験 第13回 スポーツ障害に対する鍼治療法1 第14回 スポーツ障害に対する鍼治療法2 第15回 各種症状に対する施術の流れ													
11 学習方法 講義、実技 ※授業で使用する鍼・器具を忘れずに持参すること。													
12 評価方法 ①知識 小テスト、レポートにて評価する。 ②技能 実技試験にて評価する。 ③態度 授業態度や取り組み具合を評価する。 当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。													
13 教科書 資料プリントを配布する								参考書 「刺絡鍼法」「手根鍼法」「リンパドレナージュの基礎知識」 「鍼灸学」（刊々堂出版）					
14 学生への要望 積極的にディスカッションし、授業に参加すること。													

スポーツ鍼灸実技

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3 学年	前期・後期	1	30	必須	中曽根 徹 (はき師)
8 授業の概要 現在の鍼灸臨床においてはスポーツ傷害への対応が必要不可欠となっている。 本実技では施術所において業務歴のあるはき師の見地から、スポーツ傷害の評価法・治療・トレーニング・テーピングなど総合的な知識と技術の習得について教授する。						
9 到達目標 【一般目標】 ①スポーツ傷害の評価法を習得する。 ②骨、筋、腱、靱帯等の正確な部位を理解する。 ③骨、筋、腱、靱帯等の触診法を習得する。 ④さまざまなサイズの鍼を使い分け、なおかつ正確な刺鍼技術を習得する。 【行動目標】 ①知識 スポーツ傷害の正確な診断・評価について想起→解決→問題解決できる。 ②技能 スポーツ鍼灸技術の模倣→コントロール→自動化できる。 ③態度 日常臨床における受入れ→反応→内面化ができる。						
10 授 業 計 画 第1回 スポーツ傷害の基礎及び医療面接について 第2回 頸部（頸椎椎間板ヘルニア、頸椎捻挫） 第3回 肩関節後面（腱板炎、インピンジメント症候群、肩峰下滑液包炎） 第4回 肩関節前面（上腕二頭筋腱炎、リトルリーグ肩） 第5回 肘関節（野球肘、テニス肘） 第6回 手関節（狭窄性腱鞘炎） 第7回 腰部（筋・筋膜性腰痛、腰椎捻挫） 第8回 腰部（腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症） 第9回 股関節（骨盤部筋牽引における骨障害、梨状筋症候群） 第10回 膝関節前面（オスグッド病、シンディング・ラーセン・ジョンソン症候群、ジャンパー膝） 膝関節外側（外側側副靱帯損傷、腸脛靱帯炎） 第11回 膝関節内側（内側側副靱帯損傷、鵞足炎） 第12回 膝関節後面（後十字靱帯損傷、半月板損傷、ペーカー腫、タナ障害） 第13回 フォローアップ 第14回 下腿部（シン・スプリント、疲労骨折、アキレス腱炎） 第15回 足部・足関節（足関節捻挫、足底筋膜炎）						
11 学習方法 実技						
12 評価方法 ①知識 授業内容（機能解剖の理解、傷害の理解、診断の為の評価法の理解）＋フォローアップを総合的に評価 ②技能 授業内容（テーマに沿った正確な刺鍼）＋フォローアップを総合的に評価 ③態度 出席状況や授業内容（実技に対する取り組み方）＋フォローアップを総合的に評価						
13 教科書 「スポーツ傷害臨床マニュアル」				参考書 なし		
14 学生への要望 本授業は刺鍼技術の習得及び運動器系疾患の治療に対する基礎知識の習得を目指す。講義前の予習を十分に行い、テーマ部位の傷害の内容や機能解剖の確認を行う。						

東洋医療総合演習 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期集中		1		30		必須		専任教員ら
8 授業の概要													
この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が1年次の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。1年次で履修する授業科目について、下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
1年時に履修した学習単元について理解を深める。													
【行動目標】													
①知識 単純な知識の想起によって解答できる。													
②技能 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答できる。													
③態度 理解している知識を応用して、具体的に問題を解決できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 解剖学Ⅰ													
第2回 解剖学Ⅱ													
第3回 解剖学Ⅲ・Ⅳ													
第4回 はりきゅう理論Ⅰ													
第5回 衛生学・公衆衛生学Ⅰ													
第6回 衛生学・公衆衛生学Ⅱ													
第7回 生理学Ⅰ													
第8回 生理学Ⅱ													
第9回 臨床医学総論Ⅰ													
第10回 臨床医学総論Ⅱ													
第11回 経絡経穴概論Ⅰ													
第12回 経絡経穴概論Ⅱ													
第13回 東洋医学概論Ⅰ													
第14回 東洋医学概論Ⅱ													
第15回 評価													
11 学習方法													
講義・演習													
12 評価方法													
①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。(5割程度)													
②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。(3割程度)													
③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。(2割程度)													
13 教科書													
参考書													
各科目の教科書													
なし													
14 学生への要望													

東洋医療総合演習Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期集中		1		30		必須		専任教員ら
8 授業の概要													
この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が2年次の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。2年次で履修する授業科目について、下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
2年時に履修した学習単元について理解を深める。													
【行動目標】													
①知識 単純な知識の想起によって解答できる。													
②技能 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答できる。													
③態度 理解している知識を応用して、具体的に問題を解決できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 人体の構造と機能XI(局所解剖学)													
第2回 病理学概論Ⅰ・Ⅱ													
第3回 臨床医学総論Ⅰ													
第4回 臨床医学総論Ⅱ													
第5回 生体観察													
第6回 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ													
第7回 病態生理学Ⅰ・Ⅱ													
第8回 経絡経穴概論Ⅲ													
第9回 東洋医学概論Ⅲ													
第10回 東洋医学概論Ⅳ													
第11回 東洋医学臨床論Ⅰ													
第12回 東洋医学臨床論Ⅱ													
第13回 はりきゅうの適応Ⅰ													
第14回 はりきゅうの適応Ⅱ													
第15回 評価													
11 学習方法													
講義													
12 評価方法													
①知識 タクソノミーⅠ型の四肢択一問題で評価する。(5割程度)													
②技能 タクソノミーⅡ型の四肢択一問題で評価する。(3割程度)													
③態度 タクソノミーⅢ型の四肢択一問題で評価する。(2割程度)													
13 教科書													
各科目の教科書													
参考書													
なし													
14 学生への要望													

東洋医療総合演習Ⅲ（国家試験対策①）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期・前期集中		1		30		必須		小泉 博幸、他
8 授業の概要													
この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が3年間の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。各学年で履修する授業科目について、コマの下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
これまで学んだ学習した内容について、科目の域を超え、総合的な視点で問題解答できる力を養う。													
【行動目標】													
①知識 単純な知識の想起によって解答できる。													
②技能 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答できる。													
③態度 理解している知識を応用して、具体的に問題を解決できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 人体の構造と機能 1													
第2回 人体の構造と機能 2													
第3回 人体の構造と機能 3													
第4回 人体の構造と機能 4													
第5回 人体の構造と機能 5													
第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1													
第7回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2													
第8回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3													
第9回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 4													
第10回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 5													
第11回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 1													
第12回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 2													
第13回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 3													
第14回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 4													
第15回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 5													
11 学習方法													
講義、演習													
12 評価方法													
①知識 四肢択一問題（タクソノミーⅠ型）で評価する。													
②技能 四肢択一問題（タクソノミーⅡ型）で評価する。													
③態度 四肢択一問題（タクソノミーⅢ型）で評価する。													
13 教科書													
「国家試験過去問題集」 医道の日本													
参考書													
各科目の教科書													
14 学生への要望													
過去に出題された問題は徹底的に反復学習をすること。													
各内容、授業内で頭に入れることを意識して学習すること。													
e-459 を利用した学習を推奨する。													

東洋医療総合演習Ⅳ（国家試験対策②）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期、後期集中		1		30		必須		小泉博幸、他
8 授業の概要													
この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が3年間の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。各学年で履修する授業科目について、コマの下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
これまで学んだ学習した内容について、科目の域を超え、総合的な視点で問題解答できる力を養う。													
【行動目標】													
①知識 単純な知識の想起によって解答できる。													
②技能 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答できる。													
③態度 理解している知識を応用して、具体的に問題を解決できる。													
10 授 業 計 画													
第1回 人体の構造と機能 1													
第2回 人体の構造と機能 2													
第3回 人体の構造と機能 3													
第4回 人体の構造と機能 4													
第5回 人体の構造と機能 5													
第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1													
第7回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2													
第8回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3													
第9回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 4													
第10回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 5													
第11回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 1													
第12回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 2													
第13回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 3													
第14回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 4													
第15回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 5													
11 学習方法													
講義、演習													
12 評価方法													
①知識 四肢択一問題（タクソノミーⅠ型）で評価する。													
②技能 四肢択一問題（タクソノミーⅡ型）で評価する。													
③態度 四肢択一問題（タクソノミーⅢ型）で評価する。													
13 教科書													
各授業科目の教科書								参考書					
								「国家試験過去問題集」 医道の日本					
14 学生への要望													
過去に出題された問題は徹底的に反復学習をすること。													
各内容、授業内で頭に入れることを意識して学習すること。													
e-459 を利用した学習を推奨する。													

東洋医療総合演習Ⅴ（総合学力審査）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		専任教員ら
8 授業の概要													
この講義は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師を目指す諸君が3年間の学習を通じ、それぞれの学年で修得すべき国家試験合格に必要な学力を修得したかを確認するものである。各学年で履修する授業科目について、コマの下記授業計画に基づき、オムニバス形式で実施する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
これまで学んだ学習した内容について、科目の域を超え、総合的な視点で問題解答できる力を養う。													
【行動目標】													
①知識 設問文で与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する力を養う。													
②技能 自分の理解度を正確に分析し、分かりやすいツールを作成することができる。													
③態度 正当な理由のない限り出席し、欠席届などの提出期限を守ることができる。													
10 授 業 計 画													
第1回 人体の構造と機能 1													
第2回 人体の構造と機能 2													
第3回 人体の構造と機能 3													
第4回 人体の構造と機能 4													
第5回 人体の構造と機能 5													
第6回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 1													
第7回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 2													
第8回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3													
第9回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 4													
第10回 疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 5													
第11回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 1													
第12回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 2													
第13回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 3													
第14回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 4													
第15回 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう学 5													
11 学習方法													
事前学習、講義、問題演習													
12 評価方法													
①知識 四肢択一問題（タクソノミーⅠ型）で評価する。（総合学力審査で評価する。）													
②技能 四肢択一問題（タクソノミーⅡ型）で評価する。（総合学力審査で評価する。）													
③態度 四肢択一問題（タクソノミーⅢ型）で評価する。（総合学力審査で評価する。）													
13 教科書													
各授業科目の教科書													
参考書													
「国家試験過去問題集」 医道の日本													
14 学生への要望													
各科目の教科書にしっかり目を通し国家試験合格に向け積極的に取り組むこと。													

中医薬膳

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		池田 佳代
8 授業の概要													
中医学理論に基づいて鍼灸治療と薬膳を組み合わせる事で『治療と食養生』の相乗効果がある事を理解しながら、薬膳の基礎を習得する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
中医学基礎理論を復習しながら、薬膳の基礎として食材や季節別に出やすい症状の施膳が組める様になる。													
【行動目標】													
①知識 食べ物の五味・五性・帰経を説明できる。 病因病機を考えながら気血水、五臓六腑の状態を説明できる。 鍼灸治療に食養生をプラスする事で、患者さんの治癒力をアップさせる方法を説明できる。													
②技能 季節に出やすい症状や証に合わせて食材のピックアップができる。 季節に出やすい症状や証に合わせて施膳ができる。 治療と養生(食養、休養)を繋げ、患者さんにアドバイスすることができる。													
③態度 自分自身の食生活を見直し、出来る事から始めてみて体調変化を感じる習慣を身につける。 治療人として体調管理方法を習慣化する。													
10 授 業 計 画													
第1回 薬膳とは													
第2回 五行理論、食物の五味・五性・帰経													
第3回 薬膳素材に触れながら、自分の体質に合った薬膳茶を飲み比べてみよう《実習》													
第4回 気血水													
第5回 第1回～4回の小テスト、蔵象(五臓六腑について)													
第6回 病因病機(内因・外因・不内外因・六淫七情について)													
第7回 中医診断学(四診・八綱弁証について)、中薬学(適食中薬・帰経について)													
第8回 第5回～7回の小テスト、方剤学(君薬・臣薬・佐薬・使薬)…薬膳での食物の組み合わせ方													
第9回 施膳(季節別の症状や養生法・食物・メニューの組み方について)													
第10回 季節の施膳《実習》													
第11回 第8回～10回の小テスト、栄養学(飲食による補・瀉・調について)													
第12回 グループで診断し施膳&経穴のディスカッション													
第13回 後期テスト													
第14回 第12回で施膳した内容で調理実習《実習》													
第15回 グループ発表(主訴、分析、弁証、治療法則、経穴、施膳)復習&まとめ													
11 学習方法													
講義及び実習。パワーポイントにて授業、作成したテキストに合わせて進める。													
全15回のうち第3回、第10回、第14回は実習スタイル。第5回、第8回、第11回の前半30分は復習小テスト有り。													
12 評価方法													
①知識 中医基礎理論、薬膳基礎に関して小テスト3回、後期試験での筆記試験で評価。													
②技能 中医基礎理論、薬膳基礎に関して小テスト3回、後期試験での筆記試験で評価。グループディスカッション、グループ施膳ワークにて評価。													
③態度 今の自分自身の体調を診断し、食生活を見直しながらレポートを課して内容を評価。又、出席や遅刻、課題提出、復習程度なども評価対象とします。 総合評価は①②③の内容を総合的に判断・評価し、60点以上を合格とする。													
13 教科書													
なし													
参考書													
「実用中医学」源草社、辰己洋著書													
「体質改善のための薬膳」緑書房、辰己洋著書													
「早わかり薬膳素材」源草社、辰己洋著書													
14 学生への要望													
・将来、患者さんを治療するにあたり「治療と食養生」がどう総合的に効果があるのか？又、国家試験を受けるまでの体調管理の為に薬膳を体験し実践して欲しい。													
・鍼灸、薬膳共に中医学が基本となり、主訴→分析→弁証→治療法則の流れがあり、再度、基礎理論を見直し確りと基礎を復習する。													
・季節や体質別の薬膳レシピを定期的に授業で紹介するので、実践してみる。													
・「出来ない!」ではなく失敗しても良いので「やってみる!」を心掛ける。													

あん摩マッサージ指圧理論

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		大麻 陽子
8 授業の概要 あん摩マッサージ指圧師として必要な知識・理論について学習する。													
9 到達目標 【一般目標】 あん摩マッサージ指圧師として必要な知識・理論を身に付ける。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 あん摩・マッサージ・指圧の相違点が説明できる。 手技が生体におよぼす作用を説明できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 それぞれの基本手技を理解し、臨床上適した手技を選択できる。 施術における適応と禁忌を判断できる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡が習慣化される。													
10 授 業 計 画 第 1 回 あん摩マッサージ指圧の意義と沿革 （沿革と各々の相違点について） 第 2 回 あん摩マッサージ指圧の基本手技 1 （あん摩の基本手技 7 つ：軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、振せん法、運動法、曲手） 第 3 回 あん摩マッサージ指圧の基本手技 2 （マッサージの基本手技：軽擦法、強擦法、揉捏法、叩打法、振せん法、圧迫法/指圧の三原則、他） 第 4 回 あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用 1 （生体作用の機転の一般：体性感覚、深部感覚など/循環系におよぼす作用：心臓、血管、他） 第 5 回 あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用 2 （神経系、皮膚、筋、関節、他におよぼす作用） 第 6 回 運動法の生体におよぼす作用 （徒手筋力検査法、施術に応用できる体操法） 第 7 回 あん摩マッサージ指圧の治療効果 （興奮作用、鎮静作用、反射作用、誘導作用、矯正作用） 第 8 回 あん摩マッサージ指圧の禁忌・施術上の注意 （適応症と禁忌症、手指の洗浄と消毒、他） 第 9 回 あん摩マッサージ指圧と東洋医学 1 （東洋医学の健康観、臓腑と経絡、経絡と経穴） 第 10 回 あん摩マッサージ指圧と東洋医学 2 （古法あん摩と導引：「按摩手引」「導引口訣鈔」「按腹図解」） 第 11 回 あん摩マッサージ指圧の応用 1 （応用分野：医療、保健、産業、スポーツ、美容、乳房マッサージ） 第 12 回 あん摩マッサージ指圧の応用 2 （結合組織マッサージ：エリザベート・ディッケ、基本手技、他） 第 13 回 併用する物理療法 1 （物理療法の種類：電気、光線、温熱療法、他） 第 14 回 併用する物理療法 2 （物理療法の種類：水治、温泉、運動療法、他） 第 15 回 まとめ（復習）													
11 学習方法 講義													
12 評価方法 ①知識 定期試験にて評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 「あん摩マッサージ指圧理論」 第 3 版								参考書 なし					
14 学生への要望 学習内容は多岐に渡るので包括的な臨床家を目指すものとして学習に臨むこと。 各基本手技については、実技時間と併せて学習すること。													

東洋医学臨床論Ⅴ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	後期	1	30	必須	名越 文人
8 授業の概要 実際に患者を前にした際、あん摩マッサージ指圧の知識と技術を使って適切な治療や判定・方針決定を行えるよう、幅広い知識の組み替えや臨床的思考を学ぶ。						
9 到達目標 【一般目標】 各症候に対して手技による施術の治療方針を組み立てることができる。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 各症候の禁忌・適応を説明できる。 各症例に対し、適切な手技を選択できる。 ②技能 自主的に学習することができる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。						
10 授 業 計 画 第1回 治療総論 第2回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 頭痛 第3回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 顔面痛 第4回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 歯痛、眼精疲労 第5回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 めまい、耳鳴り 第6回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 咳嗽、喘息 第7回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 胸痛 第8回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 腹痛 第9回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 月経異常 第10回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 肩こり、頸肩腕痛 第11回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 肩関節痛 第12回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 上肢痛 第13回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 腰下肢痛、膝痛 第14回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 運動麻痺 第15回 治療各論 症候に対するあん摩マッサージ指圧療法 まとめ						
11 学習方法 講義						
12 評価方法 ①知識 定期試験で評価 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。						
13 教科書 参考書 「東洋医学臨床論〈あん摩マッサージ指圧編〉」 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」						
14 学生への要望 東洋医学臨床論はりきゅう編と併せて学習することで理解が深まる科目である。参照しながら学習に臨むように。						

基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		前期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩手技の基礎を教授する。													
治療家としての“いい手”を作る。その第1歩が“あん摩”である。													
あん摩は、さする、もむ、押す、振わす、叩くなどの手技が複合して出来ている。1 年次では、各基本手技を的確に行えるようになることが目標である。													
9 到達目標													
【一般目標】													
座位を中心とした身体各部位の基本あん摩を上手に行うことができる。													
【行動目標】													
①知識 施術部位に関する解剖学的情報を説明できる。													
②技能 腕全体、体、左右の手、立ち位置にまで配慮して施術できる。													
あん摩マッサージ指圧理論で学んだ内容を実技として実践できる。													
時間を配慮した施術が行えるようになる。													
③態度 自分の気持ちを整えて施術する習慣が身につく。													
望ましい姿勢と言葉遣いが習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第1回 あん摩マッサージ指圧の歴史、違いと特徴について													
基本手技1 軽擦法、揉捏法、圧迫法													
第2回 基本手技2 叩打法、曲手、振せん法、運動法													
第3回 基本手技の復習													
第4回 身体各部位のあん摩 肩背部1													
第5回 身体各部位のあん摩 肩背部2													
第6回 身体各部位のあん摩 頸部													
第7回 身体各部位のあん摩 上肢1													
第8回 身体各部位のあん摩 上肢2													
第9回 身体各部位のあん摩 腰部													
第10回 肩背部から腰部までの復習1													
第11回 肩背部から腰部までの復習2													
第12回 身体各部位のあん摩 下肢1													
第13回 身体各部位のあん摩 下肢2													
第14回 身体各部位のあん摩 頭部													
第15回 身体各部位のあん摩 胸腹部													
11 学習方法													
実技のデモンストレーションのあと、学生同士で実技反復練習													
12 評価方法													
①知識 実技試験を実施し評価する。													
②技能 実技試験を実施し評価する。													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「あん摩マッサージ指圧実技<基礎編>」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。													
手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。													

基礎あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、マッサージ手技の基礎を教授する。 前期のあん摩に続き、後期はマッサージの基本手技を学ぶ。 さする、もむ、押す、振わす、叩くなどの手技はあん摩とほぼ同じだが、マッサージは皮膚直接に滑剤を用いて求心性に行うのが特徴である。手技と手技の移り変わりは途切れることなく連続的かつ滑らかに行えるようにする。 あん摩と同様、術者は、①右手、左手をどこに置き、②どの位置に立ち、③どこをみて、④どのように行うか、⑤さらに何をしようとしているのかを常に意識して学ぶこと。													
9 到達目標													
【一般目標】 解剖を理解し身体各部位のマッサージを行うことができる。													
【行動目標】													
①知識 施術部位に関する解剖学的情報を説明できる。													
②技能 腕全体、体、左右の手、立ち位置にまで配慮して施術することができる。 あん摩マッサージ指圧理論で学んだ内容を実技として実践できる。 時間を配慮した施術が行えるようになる。													
③態度 自分の気持ちを整えて施術する習慣が身につく。 望ましい姿勢と言葉遣いが習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 基本手技（軽擦法、揉捏法 強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法）の練習 1													
第 2 回 基本手技（軽擦法、揉捏法 強擦法、圧迫法、振せん法、叩打法）の練習 2													
第 3 回 身体各部位のマッサージ 手部													
第 4 回 身体各部位のマッサージ 前腕部													
第 5 回 身体各部位のマッサージ 上腕部													
第 6 回 身体各部位のマッサージ 足部													
第 7 回 身体各部位のマッサージ 下腿部													
第 8 回 身体各部位のマッサージ 大腿部													
第 9 回 身体各部位のマッサージ 腰背部													
第 10 回 身体各部位のマッサージ 頸部・頭部													
第 11 回 身体各部位のマッサージ 胸部													
第 12 回 身体各部位のマッサージ 腹部													
第 13 回 身体各部位のマッサージ 顔面部													
第 14 回 身体各部位のマッサージ まとめ 1													
第 15 回 身体各部位のマッサージ まとめ 2													
11 学習方法													
実技のデモンストレーションのあと、学生同士で実技反復練習													
12 評価方法													
①知識 基本手技が身体各部位に適切に行えるかどうか実技試験を実施し評価する。													
②技能 基本手技が身体各部位に適切に行えるかどうか実技試験を実施し評価する。													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「あん摩マッサージ指圧実技<基礎編>」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに、手技は洗練されなければならない。													

あん摩マッサージ指圧ゼミ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		後期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩・マッサージ手技の基礎を教授する。													
1 年次では、各基本手技を的確に行えるようになることが目標である。													
9 到達目標													
【一般目標】													
解剖を理解し身体各部位のあん摩・マッサージを行うことができる。													
【行動目標】													
①知識 施術部位に関する解剖学的情報を説明できる。													
②技能 腕全体、体、左右の手、立ち位置にまで配慮して施術することができる。													
あん摩マッサージ指圧理論で学んだ内容を実技として実践できる。													
時間を配慮した施術が行えるようになる。													
③態度 自分の気持ちを整えて施術する習慣が身につく。													
望ましい姿勢と言葉遣いが習慣化される。													
10 授 業 計 画													
第 1 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							肩背部					
第 2 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							肩背部 1					
第 3 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							肩背部 2					
第 4 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							上肢 1					
第 5 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実意の復習							上肢 2					
第 6 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							上肢 3					
第 7 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							下肢					
第 8 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							頸部 1					
第 9 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							頸部 2					
第 10 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							臀部・腰部 1					
第 11 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							臀部・腰部 2					
第 12 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							腹部・胸部					
第 13 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							頭部・顔面部					
第 14 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							上半身まとめ					
第 15 回	身体各部位のあん摩・マッサージ基礎実技の復習							下半身まとめ					
11 学習方法													
実技													
教員のデモンストレーションのあと、学生同士で練習する。													
12 評価方法													
①知識 実技試験を実施する。													
②技能 実技試験を実施する。													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「あん摩マッサージ指圧実技<基礎編>」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。													
手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。													

あん摩マッサージ指圧の適応（指圧実技とその適応）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
治療を行う上で必要なのは、指圧の技術と患者に向かう心構えである。心地が良くて治療効果があがる、これが本来の指圧治療である。力任せでは自分の体力の限界を超え、拇指と身体を痛めることになる。不調に苦しんでいる方は、皆さんの確かな指圧技術を待ち望んでいる。その時のためにしっかりと技術をみがいていくことを目標とする。													
9 到達目標													
【一般目標】													
指圧の基本手技をしっかりと身に付ける。													
【行動目標】													
①知識 指圧の効能、施術の組立、刺激量と施術時間、適応が説明できる。													
②技能 基本手技（通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法）を使い分けることができる。													
③態度 気持ちを整えて実技に臨めるようになる。													
実技授業中は集中して学べるようになる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回	ガイダンス	基本操作	押圧の基本	押圧の三原則	押圧の程度	部位							
第 2 回	背部を用いての基本圧法	通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法											
第 3 回	身体各部への施術	座位（肩背部）											
第 4 回	身体各部への施術	伏臥位 1（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部）											
第 5 回	身体各部への施術	伏臥位 2（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部）											
第 6 回	身体各部への施術	側臥位 1（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部）											
第 7 回	身体各部への施術	側臥位 2（肩甲上部、肩甲間部、肩甲下部～腰部）											
第 8 回	身体各部への施術	伏臥位（下肢後側）											
第 9 回	身体各部への施術	仰臥位（下肢前側、内側）											
第 10 回	身体各部への施術	座位、伏臥位、仰臥位（頭部）											
第 11 回	身体各部への施術	座位、伏臥位、側臥位（頸部）											
第 12 回	身体各部への施術	仰臥位（顔面部）											
第 13 回	身体各部への施術	仰臥位（胸部、腹部）											
第 14 回	身体各部への施術	仰臥位（上肢）											
第 15 回	まとめ												
11 学習方法													
実技 教員のデモンストレーションのあと、二人一組による実技演習を行う。個別指導。													
12 評価方法													
①知識 定期試験で評価する。													
②技能 定期試験で評価する。													
③態度 定期試験で評価する。													
13 教科書													
なし								参考書					
なし								なし					
14 学生への要望													
自分の健康増進に役立てることができるのも、この授業のメリットである。平素の授業態度を重視する。													

応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		前期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩の応用手技を教授する。 側臥位を中心に全身のあん摩施術を行う。 時間・リズム・流れを考慮し、一定時間内にスムーズな施術ができるようになる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①時間 ②リズム ③流れを考慮し、一定時間内に施術が出来るようになる。 相手や症状に合わせた刺激量や施術の時間配分ができるようになる。 60分で全身施術ができるようになる。													
【行動目標】													
①知識 あん摩マッサージ指圧理論や臨床論の授業で学んだことを実技でも生かせる。 ②技能 揉捏を中心とした按摩施術ができる。 ③態度 気持ちを整えて施術にあたる習慣が身につく。 姿勢や言葉遣いに留意し、集中して実技実習を行える。													
10 授 業 計 画													
第1回 側臥位の施術（肩背部） 第2回 側臥位の施術（頸部・側頭部） 第3回 側臥位の施術（上肢） 第4回 側臥位の施術（肩背部から上肢までを通し復習）実技チェック側臥位の施術（上肢） 第5回 側臥位の施術（腰部） 第6回 側臥位の施術（殿部・下肢1） 第7回 側臥位の施術（殿部・下肢2） 第8回 側臥位の施術（腰部から下肢までを遠い復習）実技チェック 第9回 伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで1） 第10回 伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで2） 第11回 座位での仕上げ施術伏臥位での仕上げ施術（後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで） 第12回 全身施術 復習1 実技チェック 第13回 全身施術 復習2 実技チェック 第14回 全身施術 復習3 実技チェック 第15回 全身施術 復習4 実技チェック													
11 学習方法													
実技 教科書 P125～P130の全身施術を基本とする。1年次と同様に、二人一組のペアで実技練習を行う。間で教員による実技チェックを行う。													
12 評価方法													
①知識 教員に施術をする実技試験を行う。 ②技能 教員に施術をする実技試験を行う。 ③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「あん摩マッサージ指圧実技<基礎編>」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
手技は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。それが治療につながってきます。また、3年次でのあん摩マッサージ指圧の臨床実習（外来）に十分対応できるよう、技術の向上に努めること。													

応用あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		後期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、あん摩の応用手技を教授する。 側臥位を中心とした全身のあん摩施術を引き続き行う。 時間・リズム・流れを考慮し、一定時間内にスムーズな施術ができるようになる。													
9 到達目標													
【一般目標】													
①時間 ②リズム ③流れを考慮し、一定時間内に施術が出来るようになる。 相手や症状に合わせた刺激量や施術の時間配分ができるようになる。 60分で全身施術ができるようになる。													
【行動目標】													
①知識 あん摩マッサージ指圧理論や臨床論の授業で学んだことを応用できる。 ②技能 揉捏を中心に基本手技をミックスさせて、心地良さと治療効果も合わせた施術ができる。 ③態度 気持ちを整えて施術にあたる習慣が身につく。 姿勢や言葉遣いに留意し、集中して実技実習を行える。													
10 授 業 計 画													
第1回 側臥位のあん摩施術(肩背部)													
第2回 側臥位のあん摩施術(頸部・側頭部)													
第3回 側臥位のあん摩施術(上肢)													
第4回 側臥位のあん摩施術(肩背部から上肢までを通し復習)													
第5回 側臥位のあん摩施術(腰部)													
第6回 側臥位のあん摩施術(殿部・下肢1回目)													
第7回 側臥位のあん摩施術(殿部・下肢2回目)													
第8回 側臥位のあん摩施術(腰部から下肢までを通しで復習)													
第9回 伏臥位でのあん摩 仕上げ施術(後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで1回目)													
第10回 伏臥位でのあん摩 仕上げ施術(後頸部 肩上部 背部 腰部 殿部 下肢まで2回目)													
第11回 座位でのあん摩仕上げ施術(運動法を含む)													
第12回 全身あん摩施術 復習1回目 ひとり40分ずつ													
第13回 全身あん摩施術 復習2回目 ひとり40分ずつ													
第14回 全身あん摩施術 復習1回目 ひとり60分ずつ 実技試験													
第15回 全身あん摩施術 復習2回目 ひとり60分ずつ 実技試験													
11 学習方法													
実技													
教科書 P125～P130の全身施術を基本とする。教員のデモンストレーションのあと、1年次と同様にペアで実技練習を行う。授業の中で数回、教員による実技チェックを行い、あん摩施術を行う時の姿勢と、体・上肢・手の使い方を指導する。													
12 評価方法													
①知識 実技試験（教員に20分程度のあん摩施術を行う）													
②技能 実技試験（教員に20分程度のあん摩施術を行う）													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
「あん摩マッサージ指圧実技<基礎編>」													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
あん摩は根気よく反復修練すること。また、施術に当たっては集中し気持ちを込めて丁寧に行うこと。 手技療法の最も大きな価値は心地よさを提供できるところにある。さらに手技は洗練されなければならない。 それが治療につながってくる。また、3年次でのあん摩マッサージ指圧の臨床実習（外来）に十分対応できるよう、技術の向上に努めること。													

実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅰ（実践オイルマッサージ）

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 年生		前期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要													
施術所にて業務歴のあるあはき師の見地から、マッサージの応用手技を教授する。 オイルマッサージの手技を習得し、保健・医療・スポーツ・美容の分野で応用できるようにする。													
9 到達目標													
【一般目標】 専門的知識と技術、手技の選択、施術時間や力度を常に考えて行うことができる。 クライアントが安心してマッサージを受けられるような環境を整える。													
【行動目標】 ①知識 あん摩マッサージ指圧理論や臨床論の授業で学んだことを実技でも応用できる。 ②技能 全身のオイルマッサージができる。 ③態度 自分の気持ちを整えて施術にあたることができる。 姿勢に気を付け、体全体を使い重心移動とリズムに気を付けてマッサージを習慣が身につく。 姿勢や言葉遣いに留意し、集中して実技実習を行える。													
10 授 業 計 画													
	第 1 回	オイルマッサージの理論とマッサージオイルの基礎知識について 基本手技のデモンストレーション											
	第 2 回	下肢後側のオイルマッサージ											
	第 3 回	前操作と下肢後側のオイルマッサージ（ひとり 40 分ずつ復習）											
	第 4 回	腰背部・頸部・肩上部のオイルマッサージ											
	第 5 回	前操作と腰背部・頸部・肩上部のオイルマッサージ（ひとり 40 分ずつ復習）											
	第 6 回	下肢前側のオイルマッサージ											
	第 7 回	前操作と下肢前側のオイルマッサージ（ひとり 40 分ずつ復習）											
	第 8 回	上肢のオイルマッサージ											
	第 9 回	前操作と上肢のオイルマッサージ（ひとり 40 分ずつ復習）											
	第 10 回	腹部のオイルマッサージ											
	第 11 回	胸部・頸部のオイルマッサージと頭部のマッサージ											
	第 12 回	下肢と腰背部を中心に前腕部を使った手技の練習											
	第 13 回	全身のオイルマッサージ（ひとりずつ 前操作から最後まで）まとめ											
	第 14 回	全身のオイルマッサージ（ひとりずつ 前操作から最後まで）まとめ											
	第 15 回	フェイシャルマッサージ											
11 学習方法													
実技 教員のデモンストレーションのあと、学生同士で練習する。 バスタオル 2 枚、タオル 1 枚、短パン等準備のこと。													
12 評価方法													
①知識 実技試験を実施する。													
②技能 実技試験を実施する。													
③態度 授業での取り組みの様子と出席および欠席届出書類がきちんと提出されていることで評価する。													
13 教科書													
参考書													
プリント配布													
なし													
14 学生への要望													
現代の医療を補うものとして「温もりある手の技術」が見直されている。一人ひとりの患者や利用者は皆違い、同じ病名や疾患名であっても、それを受け止める精神状態も置かれている立場も様々で十人十色のニーズを持つ。その一人ひとりの状態や体型に合わせて施行できるのが人間の手である。あたたかい心が伝わるような手技を、そして、手を当てて効果を確かめ、全体の「仕事」を責任もって仕上げること。													

実践あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		後期		1		30		必須		大麻 陽子（あはき師）
8 授業の概要 指圧を通して全身調整施術の流れを学ぶ。													
9 到達目標 【一般目標】 指圧の三原則（垂直・集中・持続）と基本手技（通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法）に関する技能を習得する。 当該科目を学習することの重要性や楽しさを感じる。 【行動目標】 ①知識 指圧の効能が説明できる。 ②技能 指圧の三原則（垂直・集中・持続）を体現できる。 基本手技（通常圧法・持続圧法・緩圧法・衝圧法）を体現できる。 ③態度 正当な理由のない限り出席し、医療者として体調管理や欠課等の連絡を実践できる。													
10 授 業 計 画 第 1 回 ガイダンス・指圧の基本手技 腰部を用いて復習 第 2 回 指圧の基本手技 肩背部を用いて復習 第 3 回 頭部・顔面部の指圧 ペアを交代して反復練習する。 第 4 回 下腿前面の指圧 下肢⇒頭部・顔面の連続施術 第 5 回 上肢の施術 上肢⇒下肢⇒頭部・顔面の連続施術 第 6 回 胸部・腹部の指圧 胸部・腹部⇒上肢⇒下肢⇒頭部・顔面の連続施術 第 7 回 手技のチェック 1 教員が仰臥位施術の一部分を受けることにより、改善点をフィードバックする。 第 8 回 下腿後面の施術 下肢後面⇒胸部・腹部・上肢⇒下肢前面⇒頭部・顔面の連続施術 第 9 回 頸・肩・背中・腰・殿部の施術 頸肩背腰殿部⇒下肢後面⇒胸部・腹部⇒上肢⇒下肢⇒頭部・顔面の連続施術 第 10 回 手技のチェック 2 伏臥位施術の一部を教員が受けることで、改善点をフィードバックする。 第 11 回 全身指圧 60 分で全身を指圧した後、ペアからフィードバックしてもらい課題を反復練習。 第 12 回 全身指圧 60 分で全身を指圧した後、ペアからフィードバックしてもらい課題を反復練習。 第 13 回 姿勢を意識した全身指圧 動画撮影を行い、自身の姿勢を確認しながら反復練習する。 第 14 回 押圧の加減を意識した指圧施術 快圧の加減を意識した全身指圧を練習する。 第 15 回 総まとめ フォローアップ													
11 学習方法 実技 履修内容別に指導教員によるデモンストレーションおよび各自の実技演習（2 人 1 組による実技演習含む）を行う。													
12 評価方法 ①知識 教員がチェックした際の指圧の技量、授業参加態度により評価する。 ②技能 授業、定期試験にて当該科目の重要性や楽しさについて尋ね評価する。 ③態度 出席および欠課届出書類がきちんと提出されている事で評価する。													
13 教科書 なし								参考書 なし					
14 学生への要望 実技時間を多く確保するため、デモ時の集散は素早く行動すること。													

臨床手技

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	3 学年	後期	1	30	必須	大饗 将司 (あはき師)
8 授業の概要						
頸肩腕部・腰部の痛み・症状の改善には、原因と考えられる機能障害（上位・下位交差性症候群）について理解し、適正な評価・施術・運動療法を行う必要がある。その為に機能的評価法(SFMA)の活用方法、トリガーポイントに対するアプローチ理論・方法・運動療法を施術所において業務歴のあるあはき師の見地から教授する。						
9 到達目標						
【一般目標】						
頸肩腕部・腰部の症状・痛みの問題と考えられる、機能障害や組織伸張機能不全（トリガーポイント）を機能的評価方法（SFMA）を用いて探しだし、それらの問題に対して手技（マッサージ・刺鍼）・運動療法を行える事を目標とする。						
【行動目標】						
①知識	機能評価法（SFMA）について説明できる。					
②技能	トリガーポイントに対して適切な手順でアプローチ（触察・刺鍼）することができる。 施術方法・評価方法について患者に正しく説明することができる。					
③態度	授業中で疑問に思うこと、感じたことを質問する習慣を持つ。					
10 授 業 計 画						
第 1 回	トリガーポイント理論・基礎・実技(骨指標(ランドマーク)触察)					
第 2 回	トリガーポイント実技(触察・刺鍼＝棘下筋・多裂筋)					
第 3 回	上位交差性症候群・下位交差性症候群の概要					
第 4 回	機能評価方法について(SFMA のトップティア・ブレイクアウト)					
第 5 回	頸肩腕部に対する機能的評価 1					
第 6 回	頸肩腕部に対するトリガーポイントアプローチ 1（僧帽筋・肩甲挙筋）					
第 7 回	頸肩腕部に対する機能的評価 2・運動指導					
第 8 回	頸肩腕部に対するトリガーポイントアプローチ 2（後頭下筋群・三角筋・大小胸筋）					
第 9 回	体幹部に対する機能的評価 1					
第 10 回	腰部に対するトリガーポイントアプローチ 1（多裂筋・腰方形筋）					
第 11 回	体幹部に対する機能的評価②・運動指導					
第 12 回	腰部に対するトリガーポイントアプローチ 2（大腿筋膜張筋・大殿筋・中殿筋）					
第 13 回	呼吸の機能評価					
第 14 回	呼吸に対するアプローチ					
第 15 回	実技テスト					
11 学習方法						
講義を行い、実技デモンストレーション、実践・練習を行う。2 回目以降は前回の復習から始める。						
12 評価方法						
①知識	指定した部位に対して的確な機能的評価方法を選択できるかを評価する。					
②技能	指定した筋肉のトリガーポイントに対して的確な手順でアプローチを行えるかを評価する。					
③態度	授業の出欠、質問内容、実技の取り組む態度を評価する。					
13 教科書 配布資料			参考書 「ムーブメント」「骨格筋の形と触察法」 「ヤンダーアプローチマッスルインバランスに対する評価と治療」			
14 学生への要望						
評価・触察・刺鍼の技術向上するために、時間のある限り繰り返し練習を行うこと。実技中、受け手の生徒は施術側にフィードバックを必ずおこなうこと。また授業中で疑問に思うこと、感じたことがあれば遠慮なく質問するように。						

客観的臨床能力評価

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	後期集中	1	30	必須	鎌倉 素子（はき師） 渡辺 冨夏（はき師）ら
8 授業の概要 3 年次に実施されるベッドサイド臨床実習に求められる基礎能力を確認する。						
9 到達目標 【一般目標】 安心で安全な臨床実習に必要な知識・技能・態度習慣を身につける。 【行動目標】 ①知識 医療面接の目的と重要性を説明できる。 鍼灸臨床に必要な徒手検査の目的と意義を説明できる。 ②技能 安心で安全な鍼灸操作を実演できる。 医療面接に求められる手法を身に付け、ラポールを構築することができる。 主たる徒手検査を実践できる。 ③態度 医療者としてふさわしい態度を身につける。						
10 授 業 計 画 第 1 回 安心・安全な基礎操作 1 第 2 回 安心・安全な基礎操作 2 第 3 回 安心・安全な基礎操作 3 第 4 回 正しい取穴 1 第 5 回 正しい取穴 2 第 6 回 正しい取穴 3 第 7 回 徒手検査の方法と意義 1 第 8 回 徒手検査の方法と意義 2 第 9 回 徒手検査の方法と意義 3 第 10 回 医療面接の目的と実践 1 第 11 回 医療面接の目的と実践 2 第 12 回 医療面接の目的と実践 3 第 13 回 評価 1 第 14 回 評価 2 第 15 回 評価 3						
11 学習方法 実技・演習・講義						
12 評価方法 ①知識 OSCE で評価する。 ②技能 OSCE で評価する。 ③態度 OSCE で評価する。						
13 教科書 参考書 「図解鍼灸療法技術ガイド ― 鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべて I・II」 なし						
14 学生への要望 課題や諸注意は授業開始の 1 か月以上前に連絡する。						

臨床実習 I

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		1 学年		通年		1		45		必須	名越 文人（あはき師） 専任教員ら	
8 授業の概要 あはき施術所における業務歴、養成施設における教育歴がある教員らによって導入（初年次）教育を展開する。													
9 到達目標 【一般目標】 患者様と接するための基本的態度を身に付けるため、体験実習、ワークショップなどの手法を用いて、医療人としてふさわしい態度・習慣を養う。 【行動目標】 ①知識 全 8 回の見学実習に参加し、鍼灸治療を経験する。 医療面接の重要性を口述できる。 ②技能 BLS 操作に必要な技能を身につける。 観察内容や自身の考えをまとめ記述・発表することができる。 傾聴・受容・承認といったカウンセリング技能を実演できる。 ③態度 ワークショップを通じ、社会人としてふさわしいマナーが身に付く。 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。（万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。） 教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。													
10 授 業 計 画 第 1 回 オリエンテーション、プロフセッションナリズム教育 1（2 時間） 第 2 回 施術所の危機管理 BLS（4 時間） 第 3 回 ワークショップ 1 ～ 医療人に求められるマナーと接遇 ～（3 時間） 第 4 回 ワークショップ 2 ～ プロフセッションナリズム教育 ～（3 時間） 第 5 回 ワークショップ 3 ～ 自己分析 ～（3 時間） 第 6 回 ワークショップ 4 ～ 医療面接の基礎 ～（3 時間） 第 7 回 カンファレンス参加（3 時間） 第 8 回 学外臨床実習発表会参加（3 時間） 第 9 回 施術所体験発表会参加（3 時間） 第 10 回 前期 附属鍼灸治療院体験実習 1（2 時間） 第 11 回 前期 附属鍼灸治療院体験実習 2（2 時間） 第 12 回 前期 附属鍼灸治療院体験実習 3（2 時間） 第 13 回 前期 附属鍼灸治療院体験実習 4（2 時間） 第 14 回 後期 附属鍼灸治療院体験実習 1（2 時間） 第 15 回 後期 附属鍼灸治療院体験実習 2（2 時間） 第 16 回 後期 附属鍼灸治療院体験実習 3（2 時間） 第 17 回 後期 附属鍼灸治療院体験実習 4（2 時間） 第 18 回 カルテの基本（SOAP とは）（2 時間）													
11 学習方法 臨床実習													
12 評価方法 ①知識 全ての授業に参加することで評価を有効とする。 ②技能 提出ノート、プレゼン内容、BLS 実技評価 ③態度 提出ノート、プレゼン内容													
13 教科書 なし 参考書 臨床実習ノート													
14 学生への要望 詳細は実習ノートに記す。 ※授業の順序は実際と異なることがある。													

臨床実習Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		2 学年		通年		1		45		必須		鎌倉 素子（はき師） 渡辺 冨夏（はき師） 専任教員ら
8 授業の概要 あはき施術所における業務歴、あはき師養成施設における教育歴がある教員らによって最終学年を前に臨床前教育を展開する。													
9 到達目標 【一般目標】 臨床現場に積極的に関わることで最終学年時のベッドサイド実習が円滑に進めるよう準備する。 多様化するあはき師の活躍フィールドを知り、将来の方向性を考える。 【行動目標】 ①知識 全 10 回の附属鍼灸治療院見学・補助実習に参加する。 スポーツ・介護・医療機関の現場実習に参加する。 カンファレンスに参加する。 ②技能 観察内容や自身の考えをまとめ記述・発表することができる。 ③態度 外部での見学実習を通じ、社会人としてふさわしいマナーが身に付く。 体調管理に留意し、全ての授業に参加できる。（万一欠席あるいは遅刻する際には報告や連絡、相談ができる。） 教員や級友らとコミュニケーションをとり、互いに尊敬しあい成長する態度を身につける。													
10 授 業 計 画 第 1 回 ガイダンス・オリエンテーション（2 時間） 第 2 回 スポーツ現場実習 1（4 時間） 第 3 回 スポーツ現場実習 2（4 時間） 第 4 回 スポーツ現場実習 3（2 時間） 第 5 回 医療機関現場実習（4 時間） 第 6 回 介護実習現場実習（4 時間） 第 7 回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 1（2 時間） 第 8 回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 2（2 時間） 第 9 回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 3（2 時間） 第 10 回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 4（2 時間） 第 11 回 前期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 5（2 時間） 第 12 回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 1（2 時間） 第 13 回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 2（2 時間） 第 14 回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 3（2 時間） 第 15 回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 4（2 時間） 第 16 回 後期 附属鍼灸治療院見学・補助実習 5（2 時間） 第 17 回 カンファレンス参加（3 時間） 第 18 回 学外実習報告会（3 時間）													
11 学習方法 臨床実習													
12 評価方法 ①知識 全ての授業に参加することで評価を有効とする。 ②技能 提出ノート进行评估する。 ③態度 提出ノート进行评估する。													
13 教科書 なし 参考書 臨床実習ノート													
14 学生への要望 詳細は実習ノートに記す。 ※授業の順序は実際と異なることがある。													

臨床実習Ⅲ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期・後期		1		45		必須		大綱 直人 名越 文人ら (あはき師)
8 授業の概要 附属鍼灸治療院または学外施術所において指導者の管理下に置いて臨床実習を実施する。													
9 到達目標 【一般目標】 1.医療に従事する者として、果たすべき役割を理解し、責任ある行動がとれる能力を養う。 2.はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧師として、望ましい患者（家族）－医療者関係を築き、健康状態に関する情報を的確に収集する能力を身につける。 3.臨床の場において、現代医学および東洋医学の診断法の意義を十分理解し、その基本的知識および技術を身につける。 4.患者の症状を客観的に評価し、施術計画をたてるとともに、適切に記録する能力を養う。 5.臨床に関する知識と基本的な技術を習得し、安心安全なはり、きゅう、あん摩マッサージ指圧施術ができる。 【行動目標】 1.評価と計画・・・患者の主観的情報、客観的情報を元にふさわしい病態の評価と治療計画を立てることができる。 2.倫理・・・患者のプライバシー保護、インフォームドコンセントなどが実践できる。 3.身体診察（バイタルサイン、身体計測、ROM、MMT、徒手検査）による整形外科的検査法などが実践できる。 4.基本的鍼灸臨床手技が実践できる。													
10 授 業 計 画 鍼灸マッサージ学科 ※授業の順序は実際と異なることがある。 ガイダンス(2 時間) 学内あま指ベッドサイド実習（28 時間） 学外あま指施術所実習（6 時間） 学外実習報告 準備（3 時間） 学外実習報告 発表（3 時間） 学外審査対策（3 時間） 鍼灸学科 ※授業の順序は実際と異なることがある。 ガイダンス(2 時間) 学内はきベッドサイド実習 前期（28 時間） 学外はりきゅう施術所実習 1（6 時間） 学外実習報告 準備（3 時間） 学外実習報告 発表（3 時間） 学外審査対策（3 時間）													
11 学習方法 臨床実習													
12 評価方法 詳細は臨床実習ノートに記す。													
13 教科書 なし								参考書 特に指定はしない					
14 学生への要望 詳細は臨床実習ノートに記す。 実習スケジュールはグループや実習先によって異なるため、スケジュール管理に注意すること。													

臨床実習Ⅳ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期・後期		1		45		必須		大網 直人 名越 文人ら (あはき師)
8 授業の概要 附属鍼灸治療院または学外施術所において指導者の管理下に置いて臨床実習を実施する。													
9 到達目標 【一般目標】 1.医療に従事する者として、果たすべき役割を理解し、責任ある行動がとれる能力を養う。 2.はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧師として、望ましい患者（家族）－医療者関係を築き、健康状態に関する情報を的確に収集する能力を身につける。 3.臨床の場において、現代医学および東洋医学の診断法の意義を十分理解し、その基本的知識および技術を身につける。 4.患者の症状を客観的に評価し、施術計画をたてるとともに、適切に記録する能力を養う。 5.臨床に関する知識と基本的な技術を習得し、安心安全なはり、きゅう、あん摩マッサージ指圧施術ができる。 【行動目標】 1.評価と計画・・・患者の主観的情報、客観的情報を元にふさわしい病態の評価と治療計画を立てることができる。 2.倫理・・・患者のプライバシー保護、インフォームドコンセントなどが実践できる。 3.身体診察（バイタルサイン、身体計測、ROM、MMT、徒手検査）による整形外科的検査法などが実践できる。 4.基本的鍼灸臨床手技が実践できる。													
10 授 業 計 画 鍼灸マッサージ学科 ※授業の順序は実際と異なることがある。 学外実習ガイダンス（2 時間） 学内はきベッドサイド実習（26 時間） 学外はりきゅう施術所実習（6 時間） カンファレンス準備（3 時間） カンファレンス発表（3 時間） 学内審査対策（3 時間） 臨床特講（2 時間） 鍼灸学科 ※授業の順序は実際と異なることがある。 学外実習ガイダンス（2 時間） 学内はきベッドサイド実習（26 時間） 学外はりきゅう施術所実習 2（6 時間） カンファレンス準備（3 時間） カンファレンス発表（3 時間） 学内審査対策（3 時間） 臨床特講（2 時間）													
11 学習方法 臨床実習													
12 評価方法 詳細は臨床実習ノートに記す。													
13 教科書 なし								参考書 特に指定はしない					
14 学生への要望 詳細は臨床実習ノートに記す。 実習スケジュールはグループや実習先によって異なるため、スケジュール管理に注意すること。													

運動療法

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		前期		1		30		必須		楠本 真也（あはき師）
8 授業の概要													
はりきゅう施術所において実務経験のあるあはき師の見地から機能解剖学に基づく運動療法について教授する。													
9 到達目標													
【一般目標】													
各個人の習慣による体の構造や機能の変化を理解し、あはき師に必要な素養を身につける。													
【行動目標】													
①知識 身体観察から得た情報を分析することができる。													
②技能 自ら進んで学習し、当該科目に関するメモやノートをまとめることができる。													
③態度 全ての授業に参加し、真摯に学ぶことができる。													
10 授 業 計 画													
第 1 回 ガイダンス													
姿勢・身体機能評価など													
第 2 回 器具を用いない運動 1													
仰臥位(下肢)における関節運動・ストレッチ													
第 3 回 器具を用いない運動 2													
仰臥位(下肢)における関節運動・ストレッチ													
第 4 回 器具を用いない運動 3													
仰臥位(体幹・上肢)における関節運動・ストレッチ													
第 5 回 器具を用いない運動 4													
伏臥位における関節運動・ストレッチ													
第 6 回 器具を用いない運動 5													
側臥位における関節運動・ストレッチ													
第 7 回 器具を用いない運動 6													
側臥位における関節運動・ストレッチ													
第 8 回 肩関節の運動能力を高める運動 1													
肩関節周囲炎の関節運動・ストレッチ													
第 9 回 肩関節の運動能力を高める運動 2													
肩関節周囲炎の関節運動・ストレッチ													
第 10 回 股関節の運動能力を高める運動 1													
変形性股関節症の関節運動・ストレッチ													
第 11 回 股関節の運動能力を高める運動 2													
変形性股関節症の関節運動・ストレッチ													
第 12 回 股関節の運動能力を高める運動 3													
股関節周囲筋の自動収縮運動等による機能改善運動													
第 13 回 膝関節の運動能力を高める運動 4													
変形性膝関節症(脛骨大腿関節症・膝蓋大腿関節症)の関節運動・ストレッチ													
第 14 回 運動療法のロールプレイと評価													
一連の運動療法の流れを実施する。													
第 15 回 まとめ													
11 学習方法													
実技													
12 評価方法													
①知識 口頭試問													
②技能 実技試験													
③態度 出席状況（無断欠席・遅刻の場合は評価を減点する場合がある。）													
13 教科書													
なし													
参考書													
なし													
14 学生への要望													
体を診る自身の感覚を磨き、身体機能解剖に基づく運動療法の提供ができるように積極的な参加を期待する。													

社会あはき学Ⅰ・社会はき学Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門	2 学年	通年	1	30	必須	鎌倉 素子 渡辺 冴夏 堤野 孟ら
8 授業の概要 一般社会、あはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける。						
9 到達目標 【一般目標】 プロフェッショナルリズム（公益性、専門性、道徳性）教育を通じ、望ましいあはき師像を考える。 自信のキャリア教育を考える。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事、イベントを経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事、イベントについて TP0 に応じた行動が体现できる。 ③態度 講義・演習・実習を通じ、あはき師をめざす生徒として相応しい態度を身に付ける。						
10 授 業 計 画						
1 部 オリエンテーション 2 時間						
学外実習事前学習 2 時間						
キャリア支援 2 時間						
生涯学習 1 2 時間						
生涯学習 2 2 時間						
生涯学習 3 2 時間						
社会貢献 4 時間						
健康と運動 4 時間						
他業種連携 2 時間						
学外施術所体験学習 4 時間						
地域包括支援事業 4 時間						
2 部 オリエンテーション 2 時間						
学外実習事前学習 2 時間						
キャリア支援 2 時間						
生涯学習 1 2 時間						
生涯学習 2 4 時間						
生涯学習 3 4 時間						
社会貢献 4 時間						
健康と運動 4 時間						
学外施術所体験学習 8 時間						
11 学習方法 講義・演習						
12 評価方法 ①知識 提出されたノート进行评估する。 ②技能 提出されたノート进行评估する。 ③態度 提出されたノート进行评估する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 国家試験とは直接関係しないが、学生にとってキャリア教育ともいえる重要な科目であり、自ら知り、考え、行動する機会としたい。						

社会あはき学Ⅱ・社会はき学Ⅱ

1	科目区分	2	履修学年	3	履修時期	4	単 位	5	時 間	6	必 選 別	7	担当教員
	専門		3 学年		通年		1		30		必須		名越 文人 小泉 博幸 大網 直人ら
8 授業の概要 この授業では、普段の授業の枠を超え、一般社会、あはき業界に目を向け、幅広い専門教養を身に付ける授業である。													
9 到達目標 【一般目標】 学外の施術所業務における見学・補助を通じてキャリア支援の機会とする。 あはき国家試験制度や免許制度の概要を知る。 【行動目標】 ①知識 授業計画にある各種行事、イベントを経験する。 ②技能 授業計画にある各種行事、イベントについて TP0 に応じた行動が体现できる。 ③態度 講義・演習・実習を通じ、あはき師をめざす生徒として相応しい態度を身に付ける。													
10 授 業 計 画 オリエンテーション 2 時間 キャリア支援 2 時間 生涯学習 2 時間 国家試験と免許制度 1 4 時間 国家試験と免許制度 2 4 時間 国家試験と免許制度 3 4 時間 国家試験と免許制度 4 4 時間 国家試験と免許制度 5 4 時間 健康と運動 4 時間													
11 学習方法 講義・演習													
12 評価方法 ①知識 参加状況を評価する。 ②技能 参加状況を評価する。 ③態度 参加状況を評価する。													
13 教科書 参考書													
14 学生への要望													

四国医療専門学校 鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科

〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1 電話 0877-41-2310

ファックス 0877-41-2312